

## **PDF Converter**

インストレーションおよび管理ガイド

10g リリース 3 (10.1.3.3.1)

部品番号 : E05643-01

2007 年 10 月

PDF Converter インストールおよび管理ガイド, 10g リリース 3 (10.1.3.3.1)

部品番号 : E05643-01

原本名 : PDF Converter Installation and Administration Guide, 10g Release 3 (10.1.3.3.1)

原本部品番号 : A00090-01

原本協力者 : Eric Raney, Bruce Silver, Brian Bergstrom, Alex Sanchez

Copyright © 2007 Oracle. All rights reserved.

#### 制限付権利の説明

このプログラム（ソフトウェアおよびドキュメントを含む）には、オラクル社およびその関連会社に所有権のある情報が含まれています。このプログラムの使用または開示は、オラクル社およびその関連会社との契約に記された制約条件に従うものとします。著作権、特許権およびその他の知的財産権と工業所有権に関する法律により保護されています。

独立して作成された他のソフトウェアとの互換性を得るために必要な場合、もしくは法律によって規定される場合を除き、このプログラムのリバース・エンジニアリング、逆アセンブル、逆コンパイル等は禁止されています。

このドキュメントの情報は、予告なしに変更される場合があります。オラクル社およびその関連会社は、このドキュメントに誤りが無いことの保証は致し兼ねます。これらのプログラムのライセンス契約で許諾されている場合を除き、プログラムを形式、手段（電子的または機械的）、目的に関係なく、複製または転用することはできません。

このプログラムが米国政府機関、もしくは米国政府機関に代わってこのプログラムをライセンスまたは使用する者に提供される場合は、次の注意が適用されます。

#### U.S. GOVERNMENT RIGHTS

Programs, software, databases, and related documentation and technical data delivered to U.S. Government customers are "commercial computer software" or "commercial technical data" pursuant to the applicable Federal Acquisition Regulation and agency-specific supplemental regulations. As such, use, duplication, disclosure, modification, and adaptation of the Programs, including documentation and technical data, shall be subject to the licensing restrictions set forth in the applicable Oracle license agreement, and, to the extent applicable, the additional rights set forth in FAR 52.227-19, Commercial Computer Software--Restricted Rights (June 1987). Oracle USA, Inc., 500 Oracle Parkway, Redwood City, CA 94065.

このプログラムは、核、航空産業、大量輸送、医療あるいはその他の危険が伴うアプリケーションへの用途を目的としておりません。このプログラムをかかるとして使用する際、上述のアプリケーションを安全に使用するために、適切な安全装置、バックアップ、冗長性 (redundancy)、その他の対策を講じることは使用者の責任となります。万一かかるプログラムの使用に起因して損害が発生いたしましても、オラクル社およびその関連会社は一切責任を負いかねます。

Oracle, JD Edwards, PeopleSoft, Siebel は米国 Oracle Corporation およびその子会社、関連会社の登録商標です。その他の名称は、他社の商標の可能性があります。

このプログラムは、第三者の Web サイトへリンクし、第三者のコンテンツ、製品、サービスへアクセスすることがあります。オラクル社およびその関連会社は第三者の Web サイトで提供されるコンテンツについては、一切の責任を負いかねます。当該コンテンツの利用は、お客様の責任になります。第三者の製品またはサービスを購入する場合は、第三者と直接の取引となります。オラクル社およびその関連会社は、第三者の製品およびサービスの品質、契約の履行（製品またはサービスの提供、保証義務を含む）に関しては責任を負いかねます。また、第三者との取引により損失や損害が発生いたしましても、オラクル社およびその関連会社は一切の責任を負いかねます。

# 目次

## 第 1 章：はじめに

Overview .....	1-1
このガイドについて .....	1-1
表記規則 .....	1-2
PDF Converter のドキュメント .....	1-3
オンライン・ヘルプ・システム .....	1-3
PDF ドキュメント .....	1-3

## 第 2 章：新機能

Overview .....	2-1
製品の機能拡張 .....	2-1
ドキュメントの拡張 .....	2-2

## 第 3 章：PDF Converter の概要

Overview .....	3-1
PDF Converter について .....	3-1
PDF 変換プロセスの概要 .....	3-2

## 第 4 章：PDF Converter のインストール

Overview .....	4-1
インストール前の作業と考慮事項 .....	4-2
PDF Converter のインストールとセットアップの概要 .....	4-3
PDF Converter のインストール .....	4-4
コンポーネント・マネージャを使用した PDF Converter コンポーネントのインストール .....	4-4
Component ウィザードを使用した PDF Converter コンポーネントの インストール .....	4-6
Distiller エンジンのインストール .....	4-7

IDC PDF Converter プリンタのインストール	4-10
PDF 変換用のサード・パーティ製アプリケーションのインストール	4-12
すべてのアプリケーションに対する考慮事項	4-12
Adobe FrameMaker	4-13
Adobe InDesign CS2 (4.0)	4-13
Adobe Photoshop CS2 (9.0)	4-13
Corel WordPerfect	4-14
Hangul	4-14
一太郎	4-14
Lotus SmartSuite	4-14
Microsoft Office	4-15
Word、Excel、PowerPoint および Publisher	4-15
Project	4-16
Visio	4-16
OpenOffice	4-17
クライアント・コンピュータへの PDF リーダー・プラグインのインストール	4-20
PDF Converter のアンインストール	4-20
PDF Converter の更新	4-21

## 第 5 章：PDF Converter の変換の設定

Overview	5-1
PDF Converter にジョブを送信するための Content Server の構成	5-2
受け入れられる変換の設定	5-2
Web 表示可能なプライマリ・レンディションとしての PDF ファイルの設定	5-3
サード・パーティ製アプリケーションの設定の構成	5-5
PDF 変換のタイムアウト設定の構成	5-6
Outside In X 使用時の余白の設定	5-7
ホストにログインしない状態での OpenOffice の使用	5-8
概要	5-8
Windows ホストでのヘッドレス・モードの設定	5-8
UNIX ホストでのヘッドレス・モードの設定	5-9
「PDF Options」 ページ	5-16
「Distiller Engine Options」 ページ	5-18
「Word Options」 ページ	5-21
「Excel Options」 ページ	5-24
「PowerPoint Options」 ページ	5-26

「Visio Options」 ページ .....	5-28
「InDesign Options」 ページ .....	5-30
「OpenOffice Options」 ページ .....	5-31

## 第 6 章 : Microsoft Office ファイルから PDF への変換

Overview .....	6-1
Microsoft Office ファイルから PDF への変換について .....	6-2
Microsoft Word ファイルから PDF への変換 .....	6-3
Microsoft Excel ファイルから PDF への変換 .....	6-4
Microsoft PowerPoint ファイルから PDF への変換 .....	6-6
Microsoft Visio ファイルから PDF への変換 .....	6-8
Office ドキュメントでの相対リンクと絶対リンクの使用 .....	6-10
Msofficeconverter.exe の更新 .....	6-12

## 第 7 章 : PDF Converter の問題のトラブルシューティング

Overview .....	7-1
PDF 変換の問題のトラブルシューティング・プロセス .....	7-2
一般的な変換の問題 .....	7-3
PDF Converter のインストールの問題 .....	7-4
プリンタ・インストール・エラー : Can't run 16-bit Windows program .....	7-4
PDF Converter の設定と実行の問題 .....	7-6
PDF Converter がファイルを処理しない .....	7-6
IDC PDF プリンタがない .....	7-7
エラー : Unable to convert. The printer 'IDC PDF Converter' is not installed .....	7-7
エラー : Unable to convert. The printer 'IDC PDF Converter' is not printing to 'c:/temp/idcoutput.ps' .....	7-8
変換がいつもタイムアウトする .....	7-8
Microsoft Word のファイルを変換できない .....	7-9
Microsoft Excel のファイルを変換できない .....	7-10
Microsoft PowerPoint のファイルを変換できない .....	7-11
Microsoft Visio のファイルを変換できない .....	7-12
FrameMaker のファイルを変換できない .....	7-12
WordPerfect のファイルを変換できない .....	7-13
PDF の表示の問題 .....	7-13
Internet Explorer での空の PDF ファイル .....	7-14
Netscape Navigator 4.x での空の PDF ファイル .....	7-15
エラー : File does not begin with '%PDF-' .....	7-15
ブラウザ・ウィンドウ内で PDF ファイルが開かない .....	7-16

Adobe Acrobat Reader 6.0 を使用して PDF を印刷するときの問題	7-16
Adobe Acrobat Reader を使用して PDF ファイルを表示すると内部サムネイルが正しく表示されない	7-17

## 付録 A: サード・パーティ製アプリケーションを使用して PDF に変換されるファイル形式

## 付録 B: OpenOffice を使用して PDF に変換されるファイル形式

## 付録 C: Outside In X を使用して PDF に変換されるファイル形式

Overview	C-1
ワード・プロセッサ形式	C-2
デスクトップ・パブリッシングの形式	C-4
データベース形式	C-5
スプレッドシート形式	C-6
プレゼンテーション形式	C-7
グラフィック形式	C-8
圧縮形式	C-11
電子メール形式	C-11
その他の形式	C-13

## 付録 D: サード・パーティ・ライセンス

Overview	D-1
Apache Software License	D-1
W3C® Software Notice and License	D-2
Zlib License	D-4
一般的な BSD ライセンス	D-5
一般的な MIT ライセンス	D-5
Unicode ライセンス	D-6
その他の帰属	D-7

## 索引

# 1

## はじめに

### OVERVIEW

---

この項の内容は、次のとおりです。

- ❖ [このガイドについて](#) (1-1 ページ)
- ❖ [表記規則](#) (1-2 ページ)
- ❖ [PDF Converter のドキュメント](#) (1-3 ページ)

### このガイドについて





---

このガイドでは、Microsoft または UNIX を実行しているコンピュータで、PDF Converter 10g リリース 3 をインストール、設定、および管理するために必要なすべての情報について説明します。

## 表記規則

このガイドでは次の表記規則を使用します。

- ❖ スラッシュ (/) は、インターネット・アドレスの構成要素の区切りとして使用されます。たとえば、`http://www.google.com/maps` のように表記します。インターネット・アドレスの末尾には、スラッシュが付く場合と付かない場合があります。
- ❖ 円記号 (¥) は、Windows サーバー、ディレクトリ、またはファイルへのパスのレベルの区切りとして使用されます。たとえば、`C:¥ibr¥refinery¥` のように表記します。Windows サーバー、ディレクトリまたはファイル・パスの末尾には、常に円記号が付きます。
- ❖ スラッシュ (/) は、UNIX サーバー、ディレクトリ、またはファイルへのパスのレベルの区切りとしても使用されます。たとえば、`/usr/ibr/refinery` のように表記します。
- ❖ 文章内でファイル名とファイル・パスを示す場合は、`<path_to_directory>` ディレクトリの `<filename>` ファイル、のように表記します。
- ❖ `<refinery_install_dir>` という表記は、Inbound Refinery のメイン・インストール・ディレクトリの場所を参照するために使用されます。
- ❖ `<content_server_install_dir>` という表記は、Content Server のメイン・インストール・ディレクトリの場所を参照するために使用されます。
- ❖ 注意、技術ヒント、重要な通知、および警告には、次の表記規則が使用されます。

記号	説明
	これは注意です。情報に対し、特に注意を喚起するために使用されます。
	これは技術ヒントです。タスクを容易にするために使用できる情報を示すために使用されます。
	これは重要な通知です。必要な手順または必要な情報を示すために使用されます。
	これは警告です。データの損失または重大なシステム問題の原因となる可能性がある情報を示すために使用されます。



# PDF CONVERTER のドキュメント

---

PDF Converter には、広範なオンライン・ヘルプ・システムと、詳細な PDF ドキュメントが付属しています。

## オンライン・ヘルプ・システム

PDF Converter のヘルプには、Inbound Refinery 管理インタフェースまたはリファイナリ・コンピュータのファイル・システムから次のようにアクセスできます。

- ❖ Inbound Refinery の管理インタフェースからヘルプを表示するには、「Help」リンクをクリックします。
- ❖ リファイナリ・コンピュータ・ファイル・システムからリファイナリ製品のヘルプを起動するには、次のディレクトリの `wh_start.htm` ファイルを開きます。

**Windows:** `<refinery_install_dir>\weblayout\help¥`

**UNIX:** `<refinery_install_dir>/weblayout/help`



**注意:** コンテンツのオンライン・ヘルプ・システム表の「Welcome」リンクから、ヘルプ・システムの使用に関する有用な情報が表示されます。

## PDF ドキュメント

PDF Converter のドキュメントは、一連の PDF ファイルでも利用できます。すべての PDF ファイルは、Inbound Refinery ソフトウェアのインストール・ファイルに収められています。また、ガイドの PDF ファイルは、Inbound Refinery ソフトウェアとともにインストールされます。

- ❖ リファイナリ製品のヘルプ・システムから PDF 版のガイドを表示するには、ヘルプ・ページの右上隅にある PDF アイコンをクリックします。
- ❖ リファイナリ・コンピュータ・ファイル・システムから PDF ファイルを表示するには、次のディレクトリに移動します。

**Windows:** `<refinery_install_dir>\weblayout\help¥documentation¥`

**UNIX:** `<refinery_install_dir>/weblayout/help/documentation`

はじめに

# 2

## 新機能

### OVERVIEW

---

この項の内容は、次のとおりです。

- ❖ [製品の機能拡張](#) (2-1 ページ)
- ❖ [ドキュメントの拡張](#) (2-2 ページ)

### 製品の機能拡張

---

PDF Converter 10g リリース 3 では、次の機能拡張が行われました。

- ❖ **Distiller を選択して使用できる PDF Converter**  
PDF Converter では、PostScript または最適化された Distiller エンジンが配布されなくなりました。これにより、様々な Distiller エンジンを手動で構成できます。Distiller エンジンは、対応するサード・パーティのソフトウェア開発元から入手または購入する必要があります。PDF Converter Basic は提供されなくなりました。
- ❖ **Inbound Refinery のコンポーネントになった PDF Converter**  
Inbound Refinery が、バージョン 10g リリース 3 用に再開発されました。Inbound Refinery は以前のリリースと同じ基本機能を備えていますが、現在は Content Server に基づいています。このことには多くの利点がありますが、中でも特に、より簡単かつ迅速にパッチを適用するためにコンポーネントを使用でき、変換アドオンを開発できるようになりました。PDF Converter は、Inbound Refinery のコンポーネントとして再開発されました。

❖ **新しい管理インターフェース**

PDF Converter に、新しい Web ベースの管理インターフェースが備わりました。新しいインターフェースでは、Content Server のすべてのインターフェース機能を利用します。

❖ **Outside In X の新しいバージョン**

PDF Converter には Outside In X 8.1.9 が含まれており、Windows での PDF の作成に使用できます。

## ドキュメントの拡張

---

PDF Converter 10g リリース 3 では、次のドキュメント拡張が行われました。

❖ **ドキュメント・セットの再編成**

PDF Converter のドキュメント・セットが再編成され、次のドキュメントが含まれるようになりました。

- 『**PDF Converter インストールレーションおよび管理ガイド**』(このガイド) : Microsoft または UNIX を実行しているコンピュータで、PDF Converter 10g リリース 3 をインストール、設定、および管理するために必要なすべての情報について記載されています。
- 『**DAM and Conversion 製品リリース・ノート**』: PDF Converter を含む、すべての 10g リリース 3 の Digital Asset Management (DAM) および変換製品のインストールと管理に関する最新の考慮事項が記載されています。

❖ **再開発されたリファイナリと新しいインターフェースのためのドキュメントの更新**

PDF Converter ドキュメント・セットは、再開発されたリファイナリと新しい管理インターフェースに合わせて更新されました。

# 3

## PDF CONVERTER の概要

### OVERVIEW

---

この項の内容は、次のとおりです。

- ❖ [PDF Converter について](#) (3-1 ページ)
- ❖ [PDF 変換プロセスの概要](#) (3-2 ページ)

### PDF CONVERTER について

---

PDF Converter は、Inbound Refinery で使用できる変換アドオンです。PDF Converter は、ファイルを PDF (Portable Document Format) に変換し、PDF リーダー・プラグイン (Adobe Acrobat Reader など) がインストールされた標準の Web ブラウザでファイルを表示できるようにします。ファイルから PDF への変換には 3 つのオプションがあります。

- ❖ サード・パーティ製アプリケーションを使用した PDF への変換: Windows で実行する場合、PDF Converter は複数のサード・パーティ製アプリケーションを使用して、コンテンツ・アイテムの PDF ファイルを作成できます。ほとんどの場合、ファイルを開いて印刷できるサード・パーティ製アプリケーションを使用してファイルを PostScript に印刷した後、構成済の PostScript Distiller エンジンを使用して PostScript ファイルを PDF に変換します。場合によっては、PDF Converter はサード・パーティ製アプリケーションを使用してファイルを PDF に直接変換できます。このオプションを使用する場合、PDF Converter には、PostScript Distiller エンジン、PostScript プリンタ、および変換時に使用するサード・パーティ製アプリケーションが必要です。このオプションを使用して変換できるファイル形式の詳細は、[付録 A 「サード・パーティ製 アプリケーションを使用して PDF に変換されるファイル形式」](#) を参照してください。

- ❖ OpenOffice を使用した PDF への変換 : Windows または UNIX で実行する場合、PDF Converter は OpenOffice を使用して一部のファイル形式を PDF に直接変換できます。このオプションを使用する場合は、OpenOffice のみが必要です。このオプションを使用して変換できるファイル形式の詳細は、[付録 B 「OpenOffice を使用して PDF に変換されるファイル形式」](#) を参照してください。
- ❖ Outside In を使用した PDF への変換 : Windows の場合、PDF Converter に付属する Outside In X を使用して、一部のコンテンツ・アイテムの PDF ファイルを作成できます。Outside In X を使用してファイルを PostScript に印刷した後、構成済の PostScript Distiller エンジンを使用して PostScript ファイルを PDF に変換します。このオプションを使用する場合は、PostScript Distiller エンジンのみが必要です。このオプションを使用して変換できるファイル形式の詳細は、[付録 C 「Outside In X を使用して PDF に変換されるファイル形式」](#) を参照してください。



**重要 :** PDF Converter には、変換に使用するサード・パーティ製アプリケーション、PostScript Distiller エンジンおよび PostScript プリンタは付属していません。実行する変換に必要なすべてのサード・パーティ製アプリケーション、適切な PostScript Distiller エンジンおよび PostScript プリンタは、ユーザーが入手する必要があります。

## PDF 変換プロセスの概要

---

PDF に変換するには、2 種類の方法があります。

1. ネイティブ・ファイルを開くことのできるアプリケーションでファイルを PostScript に変換（つまり印刷）した後、Distiller エンジンに送って PDF に変換します。
2. ネイティブ・ファイルを開いて PDF に直接出力できるアプリケーションを使用して、PDF ファイルを作成します。

さらに、カスタマイズされた変換前手順と変換後手順が存在する場合があります。変換された PDF ファイルは、コンテンツ・サーバーに配信できます。コンテンツ・サーバーは、Web で表示可能なファイルのリポジトリである **weblayout** ディレクトリに PDF ファイルを格納します。その後、PDF ファイルは、コンテンツ・サーバー用の Web 表示可能なファイルとして使用されます。生成された PDF ファイルは、コンテンツ・サーバーの全文索引にも格納されます。

変換プロセス全体でのコンピュータの動作は、**Inbound Refinery** の設定方法および使用する変換アプリケーションによって異なります。場合によっては、操作を必要としないバックグラウンドですべての変換が実行されます。それ以外では、ファイルが開かれ、PostScript ファイルに印刷された後、PDF に変換される場合もあります。この場合、**Inbound Refinery** コンピュータで、アプリケーションとウィンドウが自動的に開いて閉じることがあります。

# 4

## PDF CONVERTER のインストール

### OVERVIEW

---

この項の内容は、次のとおりです。

- ❖ [インストール前の作業と考慮事項](#) (4-2 ページ)
- ❖ [PDF Converter のインストールとセットアップの概要](#) (4-3 ページ)
- ❖ [PDF Converter のインストール](#) (4-4 ページ)
- ❖ [Distiller エンジンのインストール](#) (4-7 ページ)
- ❖ [IDC PDF Converter プリンタのインストール](#) (4-10 ページ)
- ❖ [PDF 変換用のサード・パーティ製アプリケーションのインストール](#) (4-12 ページ)
- ❖ [クライアント・コンピュータへの PDF リーダー・プラグインのインストール](#) (4-20 ページ)
- ❖ [PDF Converter のアンインストール](#) (4-20 ページ)
- ❖ [PDF Converter の更新](#) (4-21 ページ)

## インストール前の作業と考慮事項

---

PDF Converter をインストールする前に、次の作業と考慮事項に関する説明を読み、理解し、それに従ってください。

- ❑ PDF Converter 10g リリース 3 には、Inbound Refinery 10g リリース 3 が必要です。他のバージョンの Inbound Refinery で PDF Converter を使用できる場合もありますが、オラクル社では、Inbound Refinery 10g リリース 3 のインスタンスを使用しない場合に PDF Converter 10g リリース 3 が正しく機能するとは保証できません。
- ❑ PDF Converter 10g リリース 3 がサポートされる Windows および UNIX オペレーティング・システムのバージョンは、Inbound Refinery 10g リリース 3 と同じです。詳細は、『Inbound Refinery インストレーション・ガイド』を参照してください。
- ❑ PDF Converter を使用する場合は、リファインリのエージェントである各コンテンツ・サーバーに InboundRefinerySupport コンポーネントが必要です。Inbound Refinery とともに InboundRefinerySupport コンポーネントをインストールしておく必要があります。詳細は、『Inbound Refinery インストレーション・ガイド』を参照してください。
- ❑ PDF Converter をインストールして実行するユーザー・アカウントに注意してください。同じユーザーが、Inbound Refinery と PDF Converter をインストールし、必要なすべてのサード・パーティ製アプリケーションをインストールし、Inbound Refinery と PDF Converter を実行する必要があります。
- ❑ PDF Converter では、PostScript から PDF への変換または PDF の最適化のための Distiller エンジンが配布されません。これにより、Windows に PDF Converter をインストールした後で、様々な Distiller エンジンを手動で構成できます。Distiller エンジンは、対応するサード・パーティのソフトウェア開発元から入手または購入する必要があります。詳細は、4-7 ページの「[Distiller エンジンのインストール](#)」を参照してください。
- ❑ Windows に PDF Converter をインストールした後、PDF Converter コンピュータに PostScript プリンタをインストールする必要があります。詳細は、4-10 ページの「[IDC PDF Converter プリンタのインストール](#)」を参照してください。
- ❑ UNIX で PDF ファイルを作成するために PDF Converter と OpenOffice を併用する場合、PDF Converter のターゲット・コンピュータには、稼働中の X Window System のディスプレイ・サーバー (X Server) へのアクセス権が必要です。
- ❑ オペレーティング・システム、Web サーバー、およびブラウザの技術的な特性のため、オラクル社は、サード・パーティ製品のすべてのバージョンおよび機能との互換性は保証できません。



# PDF CONVERTER のインストールとセットアップの概要

---

10g リリース 3 のリファイナリに PDF Converter 10g リリース 3 をインストールしてセットアップするために必要な基本手順の概要を次で説明します。

1. PDFConverter または OpenOfficeConversion コンポーネント、あるいはその両方をリファイナリにインストールして有効にします。UNIX にインストールする場合は、インストールして有効にする必要があるのは OpenOfficeConversion コンポーネントのみです (UNIX でサポートされている唯一の PDF 変換オプションである「Convert to PDF using OpenOffice」オプションを有効にします)。Windows にインストールし、サード・パーティのアプリケーションまたは Outside In X を使用して PDF ファイルを作成する場合は、PDFConverter コンポーネントもインストールする必要があります (「Convert to PDF using third-party applications」オプションおよび「Convert to PDF using Outside In」オプションを有効にします)。詳細は、4-4 ページの「[PDF Converter のインストール](#)」を参照してください。
2. Windows にインストールし、サード・パーティのアプリケーションまたは Outside In X を使用して PDF ファイルを作成する場合は、PostScript Distiller エンジン入手して PDF Converter コンピュータにインストールする必要があります。詳細は、4-7 ページの「[Distiller エンジンのインストール](#)」を参照してください。
3. Windows にインストールし、サード・パーティのアプリケーションまたは Outside In X を使用して PDF ファイルを作成する場合は、PostScript プリンタを PDF Converter コンピュータにインストールする必要があります。詳細は、4-10 ページの「[IDC PDF Converter プリンタのインストール](#)」を参照してください。
4. UNIX にインストールする場合は、OpenOffice を入手して PDF Converter コンピュータにインストールする必要があります。Windows にインストールし、OpenOffice 以外のサード・パーティ製アプリケーションを使用して PDF ファイルを作成する場合は、そのアプリケーションを入手して PDF Converter コンピュータにインストールする必要があります。詳細は、4-12 ページの「[PDF 変換用のサード・パーティ製アプリケーションのインストール](#)」を参照してください。
5. PDF 変換のためリファイナリにジョブを送信するように、コンテンツ・サーバーを構成する必要があります。詳細は、5-2 ページの「[PDF Converter にジョブを送信するための Content Server の構成](#)」を参照してください。
6. リファイナリの変換の設定を構成する必要があります。これには次の作業が含まれます。
  - [受け入れられる変換の設定](#) (5-2 ページ)
  - [Web 表示可能なプライマリ・レンディションとしての PDF ファイルの設定](#) (5-3 ページ)
  - [サード・パーティ製アプリケーションの設定の構成](#) (5-5 ページ)
  - [PDF 変換のタイムアウト設定の構成](#) (5-6 ページ)

## PDF CONVERTER のインストール

---

PDF Converter は、2つのコンポーネントで構成されています。どちらのコンポーネントも、リファイナリにインストールされます。次の2つのコンポーネントがあります。

- ❖ PDFConverter (リファイナリ)
- ❖ OpenOfficeConversion (リファイナリ)



**重要:** PDF Converter を使用する場合は、リファイナリのエージェントである各コンテンツ・サーバーに InboundRefinerySupport コンポーネントが必要です。Inbound Refinery とともに InboundRefinerySupport コンポーネントをインストールしておく必要があります。詳細は、『Inbound Refinery インストレーション・ガイド』を参照してください。コンテンツ・サーバーではなくリファイナリに PDF Converter のコンポーネントを正しくインストールすることが必要です。コンポーネントを逆にインストールすると、PDF Converter は動作しません。

この項の内容は、次のとおりです。

- ❖ [コンポーネント・マネージャを使用した PDF Converter コンポーネントのインストール \(4-4 ページ\)](#)
- ❖ [Component ウィザードを使用した PDF Converter コンポーネントのインストール \(4-6 ページ\)](#)

### コンポーネント・マネージャを使用した PDF Converter コンポーネントのインストール

---

コンポーネント・マネージャを使用してリファイナリに PDF Converter コンポーネントをインストールするには、次の手順を実行します。

1. 新しいブラウザ・ウィンドウを開きます。
2. リファイナリの管理サーバーを実行しているコンテンツ・サーバーまたはリファイナリに、システム管理者としてログインします。
3. 管理サーバーを起動します。
4. 「Content Admin Server」ページで、PDF Converter コンポーネントをインストールするリファイナリのボタンをクリックします。リファイナリのステータス・ページが表示されます。
5. リファイナリのオプション・リストで、「Component Manager」リンクをクリックします。「Component Manager」ページが表示されます。
6. 「Install New Component」フィールドの隣の「Browse」ボタンをクリックします。

7. Inbound Refinery 配布メディアの PDF Converter コンポーネントに移動します。
  - UNIX にインストールする場合は、OpenOfficeConversion コンポーネント (OpenOfficeConversion.zip) のみをインストールして有効にする必要があります。これにより、UNIX でサポートされる唯一の PDF 変換オプションである「Convert to PDF using OpenOffice」オプションが有効になります。
  - Windows にインストールし、サード・パーティのアプリケーションまたは Outside In X を使用して PDF ファイルを作成する場合は、PDFConverter コンポーネント (PDFConverter.zip) もインストールする必要があります。これにより、「Convert to PDF using third-party applications」オプションおよび「Convert to PDF using Outside In」オプションが有効になります。
8. コンポーネントの ZIP ファイルをダブルクリックするか、またはコンポーネントの ZIP ファイルを選択して「**Open**」をクリックします。
9. 「**Install**」をクリックします。概要ページが表示され、インストールされるアイテムが示されます。
10. 「**Continue**」をクリックします。すべての必要なファイルがインストールされます。これには数分かかる場合があります。
11. すべてのファイルがコピーされると、コンポーネントがアップロードされて正常にインストールされたことを示すメッセージが表示されます。
12. リンクをクリックしてコンポーネント・マネージャに戻ります。
13. 「**Disabled Components**」リストでコンポーネントを選択し、「**Enable**」をクリックします。
14. 他のコンポーネントをインストールして有効にする場合は、手順 6～13 を繰り返します。
15. リファインナリのオプション・リストで、「**Start/Stop Content Server**」リンクをクリックします。
16. 再起動ボタンをクリックして、リファインナリを再起動します。

## Component ウィザードを使用した PDF Converter コンポーネントのインストール

---

Component ウィザードを使用してリファイナリに PDF Converter コンポーネントをインストールするには、次の手順を実行します。

1. Component ウィザードを起動します。
  - ❖ Windows の場合は、「スタート」→「プログラム」→「Stellent Content Server」→「<refinery\_instance>」→「Utilities—Component Wizard」の順に選択します。
  - ❖ UNIX の場合は、<refinery\_install\_dir>/bin ディレクトリに移動します。コマンド・プロンプトで、ComponentWizard と入力します。

Component ウィザードのメイン画面および「Component List」画面が表示されます。

2. 「Install」をクリックします。「Install」ダイアログが表示されます。
3. 「Select」をクリックし、Inbound Refinery 配布メディアの PDF Converter コンポーネントに移動します。
  - UNIX にインストールする場合は、OpenOfficeConversion コンポーネント (OpenOfficeConversion.zip) のみをインストールして有効にする必要があります。これにより、UNIX でサポートされる唯一の PDF 変換オプションである「Convert to PDF using OpenOffice」オプションが有効になります。
  - Windows にインストールし、サード・パーティのアプリケーションまたは Outside In X を使用して PDF ファイルを作成する場合は、PDFConverter コンポーネント (PDFConverter.zip) もインストールする必要があります。これにより、「Convert to PDF using third-party applications」オプションおよび「Convert to PDF using Outside In」オプションが有効になります。
4. コンポーネントの ZIP ファイルをダブルクリックするか、またはコンポーネントの ZIP ファイルを選択して「Open」をクリックします。「Install」リストに、インストールされるファイルが表示されます。
5. 「OK」をクリックします。すべての必要なファイルがインストールされます。これには数分かかる場合があります。
6. すべてのファイルがコピーされると、コンポーネントの有効化の確認を求められます。「Yes」をクリックします。
7. 他のコンポーネントをインストールして有効にする場合は、「Options」→「Install」を選択し、手順 3～6 を繰り返します。
8. Component ウィザードを閉じます。
9. リファイナリを再起動します。

# DISTILLER エンジンのインストール

PDF Converter の用途は、ファイルをネイティブ形式から PDF ファイル形式に変換することです。これにより、標準の Web ブラウザでファイルを表示し、Content Server の実装で使用されている一部の検索エンジンがサポートしないネイティブ・ファイル形式（一部の電子メール形式など）のコンテンツで索引を作成できるようになります。

Windows または UNIX で実行する場合、PDF Converter は OpenOffice を使用して一部のファイル・タイプを PDF に直接変換できます。このオプションを使用する場合は OpenOffice のみが必要であり、Distiller エンジンはありません。このオプションを使用して変換できるファイル形式の詳細は、[付録 B 「OpenOffice を使用して PDF に変換されるファイル形式」](#) を参照してください。

Windows で実行する場合は、ファイルから PDF への変換についてさらに 2 つのオプションがあります。

- PDF Converter は、複数のサード・パーティ製アプリケーションを使用して、コンテンツ・アイテムの PDF ファイルを作成できます。ほとんどの場合、ファイルを開いて印刷できるサード・パーティ製アプリケーションを使用してファイルを PostScript に印刷した後、構成済の PostScript Distiller エンジンを使用して PostScript ファイルを PDF に変換します。場合によっては、PDF Converter はサード・パーティ製アプリケーションを使用してファイルを PDF に直接変換できます。サード・パーティのアプリケーションを使用して PDF に変換できるファイル形式の詳細は、[付録 A 「サード・パーティ製アプリケーションを使用して PDF に変換されるファイル形式」](#) を参照してください。
- Windows の場合、PDF Converter に付属する Outside In X を使用して、一部のコンテンツ・アイテムの PDF ファイルを作成できます。Outside In X を使用してファイルを PostScript に印刷した後、構成済の PostScript Distiller エンジンを使用して PostScript ファイルを PDF に変換します。Outside In X を使用して PDF に変換できるファイル形式の詳細は、[付録 C 「Outside In X を使用して PDF に変換されるファイル形式」](#) を参照してください。

変換後、ファイル・サイズを小さくして短時間でデプロイできるようにするための PDF の最適化など、作成された PDF ファイルに追加手順を実行する場合があります。

PDF Converter では Distiller エンジンが提供されていません。適切な Distiller エンジン入手する必要があります。コマンドラインから変換を実行できる Distiller エンジンを選択する必要があります。この項の手順では、例として AFPL Ghostscript を使用します。これは無料で使用できる堅固な Distiller エンジンであり、PostScript から PDF への変換と、変換中または変換後の PDF ファイルの最適化の両方を実行できます。

Distiller エンジンを実インストールするには、次の手順を実行します。

1. PDFConverter コンポーネントがリファイナリにインストールされていることを確認します。詳細は、4-4 ページの「[PDF Converter のインストール](#)」を参照してください。
2. PDF Converter コンピュータにログインします。使用するユーザー・アカウントに注意してください。同じユーザーが、Inbound Refinery と PDF Converter をインストールし、必要なすべてのサード・パーティ製アプリケーションをインストールし、Inbound Refinery と PDF Converter を実行する必要があります。
3. Distiller エンジンを手入し、PDF Converter コンピュータにインストールします。無料版の AFPL Ghostscript は、<http://www.ghostscript.com/awki> から入手できます。
4. Inbound Refinery 管理インタフェースを使用して、Distiller エンジンの設定を構成できます。
  - a. 新しいブラウザ・ウィンドウを開き、リファイナリにログインします。
  - b. 「**Conversion Settings**」 → 「**Third-Party Application Settings**」を選択します。「Third-Party Application Settings」ページが表示されます。
  - c. 「Distiller Engine Options」ボタンをクリックします。「[Distiller Engine Options](#)」ページが表示されます。
  - d. Ghostscript を使用するには、次の手順を実行します。
    - 「**Use Ghostscript**」チェック・ボックスを選択します。
    - 「**Path to Ghostscript installation directory**」フィールドに、Ghostscript のメイン・インストール・ディレクトリへのパスを入力します。たとえば、`c:/gs/gs8.54` などです。
  - e. 別の Distiller エンジンを使用するには、次の手順を実行します。
    - 「**Use Ghostscript**」チェック・ボックスの選択を解除します。
    - 「**Path to generic PostScript to PDF engine**」フィールドに、PostScript を PDF に変換する Distiller エンジンの実行可能ファイルまたはスクリプト・ファイルへのパスを入力します。たとえば、`c:/gs/gs8.54/lib/ps2pdf14.bat` などです。
    - 「**Parameters to pass to generic PostScript to PDF engine**」フィールドに、PostScript を PDF に変換する Distiller エンジンに渡すパラメータを入力します。このフィールドは Idoc スクリプトに対応しています。パラメータ・オプションは Distiller により異なります。たとえば、Distiller エンジンのパスが `c:\utils\%PostScript%\distll.exe` であり、Distiller エンジンがパラメータ `[options <psPath> [<pdfPath>]` を受けとる場合は、コマンド・プロンプトで `c:\utils\%PostScript%\distll.exe c:\temp\%mypsFile.ps -optimize -1.3 -crop c:\temp\%file.pdf` と入力します。

この結果を PDF Converter で実現するには、次のように設定します。

Path to generic PostScript to PDF engine:

c:/utils/PostScript/distll.exe

Parameters to pass to generic PostScript to PDF engine:

<\$postscriptFile\$> -optimize -1.3 -crop <\$pdfFile\$>

柔軟性を高めるため、このエントリでは、PostScript ファイルのパスに対してトークン <\$postscriptFile\$> を使用し、出力ファイルに対してはトークン <\$pdfFile\$> を使用しています。これらのトークンは、実際のパス参照ではなくプレースホルダと考えてください。

- 「Path to generic PDF optimization engine」フィールドに、PDF ファイルを最適化できる実行可能ファイルまたはスクリプト・ファイルへのパスを入力します。

たとえば、c:/gs/gs8.54/lib/pdfopt.bat などです。

- 「Parameters to pass to generic PDF optimization engine」フィールドに、PDF の最適化中に Distiller エンジンに渡すパラメータを入力します。このフィールドは Idoc スクリプトに対応しています。パラメータ・オプションは Distiller により異なります。

たとえば、Distiller エンジンのパスが c:\utils\PostScript\opt.exe であり、Distiller エンジンがパラメータ [options <psPath> [<pdfPath>] を受けとる場合は、コマンド・プロンプトで c:\utils\PostScript\opt.exe c:\temp\myPDF.pdf c:\temp\file.pdf と入力します。

この結果を PDF Converter で実現するには、次のように設定します。

Path to generic PDF optimization engine:

c:/utils/PostScript/opt.exe

Parameters to pass to generic PDF optimization engine:

<\$pdfFile\$> <\$optimizedPdfFile\$>

柔軟性を高めるため、このエントリでは、PostScript ファイルのパスに対してトークン <\$pdfFile\$> を使用し、出力ファイルに対してはトークン <\$optimizedPdfFile\$> を使用しています。これらのトークンは、実際のパス参照ではなくプレースホルダと考えてください。



**注意:** Ghostscript は、PostScript を PDF に変換するエンジンおよび PDF 最適化エンジン用の汎用フィールドを使用して構成することもできます。

- f. 「Update」をクリックして、変更を保存します。

# IDC PDF CONVERTER プリンタのインストール

サード・パーティのアプリケーションまたは Outside In X を使用して PDF ファイルを作成する場合は、Windows に PDF Converter をインストールした後で、PostScript プリンタを PDF Converter コンピュータにインストールする必要があります。IDC PDF Converter プリンタをインストールするには、次の手順を実行します。



**重要:** プリンタをインストールする前に、Inbound Refinery コンピュータに Print Spooler サービスがインストールされて稼働していることを確認してください。このサービスがインストールされていない場合、または稼働していない場合は、Microsoft Windows にプリンタをインストールできません。

1. PDF Converter コンピュータにログインします。使用するユーザー・アカウントに注意してください。同じユーザーが、Inbound Refinery と PDF Converter をインストールし、必要なすべてのサード・パーティ製アプリケーションをインストールし、Inbound Refinery と PDF Converter を実行する必要があります。
2. 他のすべての Windows プログラムを閉じます。
3. `c:\temp` ディレクトリを作成します。
4. Windows のプリンタの追加ウィザードを起動します。
5. 「次へ」をクリックして続行します。
6. 「このコンピュータに接続されているローカルプリンタ」ラジオ・ボタンを選択し、「プラグアンドプレイ対応プリンタを自動的に検出してインストールする」チェック・ボックスの選択を解除して、「次へ」をクリックして続行します。
7. 「新しいポートの作成」ラジオ・ボタンを選択し、ドロップダウン・メニューから「ローカルポート」を選択して、「次へ」をクリックして続行します。
8. ポート名として `c:\temp\idcoutput.ps` と入力し、「OK」をクリックします。`idcoutput.ps` ファイルは `temp` ディレクトリに存在していなくてもかまいません。PDF Converter が作成します。
9. 「ディスク使用」をクリックします。
10. 「参照」をクリックします。
11. 使用する PostScript プリンタのドライバの場所に移動します。PostScript Distiller エンジンとして AFPL Ghostscript を使用している場合は、AFPL Ghostscript とともにインストールされる AFPL Ghostscript プリンタ・ドライバを使用することをお勧めします。`<ghostscript_install_dir>\lib` ディレクトリにある `ghostpdf.inf` ファイルに移動します。  
プリンタ・ドライバを選択し、「開く」をクリックします。
12. 「OK」をクリックして、プリンタ・ファイルをコピーします。



13. 「次へ」をクリックして続行します。ドライバがデジタル署名されていないことを示すメッセージが表示されても問題ありません。そのまま続行できます。
14. プリンタ名として **IDC PDF Converter** と入力します。IDC PDF Converter プリンタをデフォルトのプリンタとして設定できますが、必須ではありません。「次へ」をクリックして続行します。
15. 「このプリンタを共有しない」ラジオ・ボタンを選択し、「次へ」をクリックして続行します。
16. 「いいえ」ラジオ・ボタンを選択してテスト・ページの印刷を拒否し、「次へ」をクリックして続行します。
17. 「完了」をクリックしてプリンタをインストールします。プリンタが Windows のテストに合格しなかったことを示すメッセージが表示される場合は、「はい」 / 「続行」をクリックして続行します。
18. プリンタがインストールされたら、IDC PDF Converter プリンタのアイコンを右クリックし、「プロパティ」を選択してプリンタのプロパティ・ウィンドウを表示します。
19. 「全般」タブで、プリンタ名が IDC PDF Converter であることを確認します。
20. 「共有」タブで、「共有しない」 / 「このプリンタを共有しない」ラジオ・ボタンが選択されていることを確認します。
21. 「ポート」タブで、選択されているポートが `c:\temp\idcoutput.ps` であり、それがローカル・ポートとして指定されていることを確認します。ポートが追加されていない場合は、次の手順を実行してポートを追加します（ポートを追加する必要があるのは1回のみであり、プリンタのインストール時に正しく追加されている場合は、再び追加する必要はありません）。
  - a. 「ポートの追加」をクリックします。
  - b. 使用できるプリンタ・ポートの一覧で、「Local Port」を選択し、「新しいポート」をクリックします。
  - c. ポート名として `c:\temp\idcoutput.ps` と指定し、「OK」をクリックします。`c:\temp\` ディレクトリは存在している必要がありますが、`idcoutput.ps` ファイルは PDF Converter によって作成されます。
  - d. 「閉じる」をクリックして、「プリンタ ポート」ダイアログを閉じます。
22. 「詳細設定」タブで、「プリンタに直接印刷データを送る」ラジオ・ボタンが選択されていることを確認します。
23. 「適用」をクリックして、変更を保存します。
24. 「OK」をクリックして、プリンタのプロパティ・ウィンドウを閉じます。

## PDF 変換用のサード・パーティ製アプリケーションのインストール

---

ここでは、PDF Converter での使用をサポートされている次のサード・パーティ製アプリケーションのインストール時のヒントと設定について説明します。

- ❖ [すべてのアプリケーションに対する考慮事項](#) (4-12 ページ)
- ❖ [Adobe FrameMaker](#) (4-13 ページ)
- ❖ [Adobe InDesign CS2 \(4.0\)](#) (4-13 ページ)
- ❖ [Adobe Photoshop CS2 \(9.0\)](#) (4-13 ページ)
- ❖ [Corel WordPerfect](#) (4-14 ページ)
- ❖ [Hangul](#) (4-14 ページ)
- ❖ [一太郎](#) (4-14 ページ)
- ❖ [Lotus SmartSuite](#) (4-14 ページ)
- ❖ [Microsoft Office](#) (4-15 ページ)
- ❖ [OpenOffice](#) (4-17 ページ)



**注意:** PDF Converter を UNIX で実行している場合は、OpenOffice のインストールに関するヒントと推奨事項のみが適用されます。

### すべてのアプリケーションに対する考慮事項

---

次に示すインストールに関するヒントと推奨される設定は、すべてのサード・パーティ製アプリケーションに適用されます。

- ❑ サード・パーティのアプリケーションをインストールする場合は、**Inbound Refinery** とその変換アドオンのインストールと実行に使用したユーザーと同じユーザーとしてログオンします。そのようにしないと、PDF への変換が失敗する場合があります。たとえば、一部の变換エンジンでは、アプリケーションを検索できない可能性があります。
- ❑ サード・パーティのアプリケーションに対して推奨される構成設定を使用しないと、リファイナリ・プロセスがタイムアウトする場合があります。
- ❑ PDF Converter でファイルを自動的に変換するには、使用するサード・パーティ製アプリケーションが、ユーザーの操作なしでファイルを開く必要があります。ソフトウェアのインストールが完了した後、アプリケーションを開き、起動ダイアログ、ヒント・ウィザード、更新通知など、アプリケーションを使用する前に起動する余分な画面を閉じます。これらの画面は、リファイナリ・プロセスがタ

タイムアウトする原因になります。また、パスワードで保護されたファイルも、処理の前にパスワードを入力しておかないとタイムアウトします。

## Adobe FrameMaker

---

次に示すインストールに関するヒントと推奨される設定は、Adobe FrameMaker に適用されます。

- Adobe FrameMaker+SGML はサポートされていません。
- リファイナリ・コンピュータ上の FrameMaker のバージョンは、処理対象の FrameMaker ファイルの作成に使用したものと同一バージョンである必要があります。異なる場合は、変換が失敗します。
- Adobe FrameMaker は、Inbound Refinery のインストールに使用したものと同一ユーザー・ログインを使用して、リファイナリ・コンピュータにインストールする必要があります。
- リファイナリ・コンピュータにこのソフトウェアをインストールするときは、標準インストールを使用します。

## Adobe InDesign CS2 (4.0)

---

次に示すインストールに関するヒントと推奨される設定は、Adobe InDesign CS2 に適用されます。

- リファイナリ・コンピュータにこのソフトウェアをインストールするときは、標準インストールを使用します。

## Adobe Photoshop CS2 (9.0)

---

次に示すインストールに関するヒントと推奨される設定は、Adobe Photoshop CS2 に適用されます。

- Adobe Photoshop CS2 は、Inbound Refinery のインストールに使用するものと同一ユーザー・ログインを使用して、Inbound Refinery より前にインストールする必要があります。
- このソフトウェアをリファイナリ・コンピュータにインストールするときは、セットアップで異なる指示がある場合でも、Photoshop のみをインストールしてください。
- Adobe Photoshop のフランス語版またはドイツ語版を使用して、Photoshop ファイルを PDF に変換することはできません。フランス語またはドイツ語のファイルは、Photoshop の英語版を使用して変換できます。これは、変換に必要な一部のファイルがインストールされないという、フランス語版およびドイツ語版の Photoshop に関する Adobe 社のセットアップ・エラーが原因です（これらのファイルは、Photoshop の英語版ではインストールされます）。

## Corel WordPerfect

---

次に示すインストールに関するヒントと推奨される設定は、Corel WordPerfect に適用されます。

- ❑ リファイナリ・コンピュータにこのソフトウェアをインストールするときは、標準インストールを使用します。
- ❑ バージョン 6 より前のバージョンで作成された WordPerfect ファイルは、効率よく処理されない場合があります。Inbound Refinery に送る前に、より新しいバージョンの WordPerfect にファイルを変換してください。そのようにしないと、タイムアウトする可能性があります。

## Hangul

---

次に示すインストールに関するヒントと推奨される設定は、Hangul に適用されます。

- ❑ リファイナリ・コンピュータにこのソフトウェアをインストールするときは、標準インストールを使用します。

## 一太郎

---

次に示すインストールに関するヒントと推奨される設定は、一太郎に適用されます。

- ❑ リファイナリ・コンピュータにこのソフトウェアをインストールするときは、標準インストールを使用します。

## Lotus SmartSuite

---

次に示すインストールに関するヒントと推奨される設定は、Lotus SmartSuite (1-2-3、Freelance および Word Pro) に適用されます。

- ❑ リファイナリ・コンピュータにこのソフトウェアをインストールするときは、カスタム・インストールを使用します。
- ❑ 1-2-3、Word Pro、Freelance Graphics、Documentation および Approach の各コンポーネントをインストールします。
- ❑ Organizer、ScreenCam、Fast Site および Smart Center の各コンポーネントはインストールしないでください。
- ❑ Adobe Acrobat Reader はインストールしないでください。これは、Lotus のインストール・プログラムが古いバージョンの Acrobat Reader をインストールするためです。古いバージョンの Acrobat Reader をインストールすると、それより新しい PDF ファイルを正しく表示できない可能性があります。古いバージョンの Acrobat Reader を誤ってインストールした場合は、Lotus SmartSuite をアンインストールし、Acrobat Reader をインストールしないようにして、Lotus SmartSuite を再インストールしてください。

## Microsoft Office

この項の内容は、次のとおりです。

- ❖ [Word、Excel、PowerPoint および Publisher](#) (4-15 ページ)
- ❖ [Project](#) (4-16 ページ)
- ❖ [Visio](#) (4-16 ページ)



**重要:** Microsoft Office ファイルの変換がタイムアウトしないようにするには、ユーザー入力が必要とするすべての機能を無効にする必要があります。これには、パスワード保護、マクロの無効化などのセキュリティ通知、オンライン・コンテンツを表示したりユーザー・フィードバック・プログラムに参加したりするためのオンライン・アクセス要求が含まれます。これらの機能および他の類似機能を無効にする方法の詳細は、各製品に関する Microsoft 社のドキュメントを参照してください。

## Word、Excel、PowerPoint および Publisher

次に示すインストールに関するヒントと推奨される設定は、Microsoft Word、Excel、PowerPoint および Publisher に適用されます。

- ❑ リファイナリ・コンピュータにこのソフトウェアをインストールするときは、カスタム・インストールを使用します。Outlook を除くすべてのものをインストールします。これは、Outlook が、デフォルトですべての Microsoft Office ファイルのアクティビティのジャーナルを作成するためです。ジャーナルが大きくなると、パフォーマンスが低下します。Outlook がどうしても必要な場合は、ジャーナル機能をオフにしてください。
- ❑ このソフトウェアを Windows 2000 Server にインストールする場合は、Microsoft Snapshot を必ずインストールしてください。Microsoft Snapshot がインストールされていることを確認するには、C:\Program Files\Common Files\Microsoft Shared\Snapshott Viewer ディレクトリで snapview.ocx ファイルを検索します。snapview.ocx ファイルが見つからない場合は、Microsoft Office のメディアから Microsoft Snapshot をインストールしてください。
- ❑ いずれかのアプリケーションを始めて起動するときに、ライセンス情報を送信します。
- ❑ スペルおよび文法の自動チェックをオフにします（「オプション」→「ツール」→「スペルチェックと文章校正」）。これらの機能は予想外のポップアップ・ウィンドウを表示する場合があります、リファイナリ・プロセスがタイムアウトします。
- ❑ マクロのセキュリティを低に設定します（「オプション」→「ツール」→「マクロ」→「セキュリティ」→「セキュリティ レベル」タブ）。これにより、マクロを含むファイルを開くときに、マクロを有効または無効にする確認が行われなくなります。このような予想外のポップアップ・ウィンドウは、リファイナリ・プロセスがタイムアウトする原因になります。

- ❑ 「ツール」 → 「オプション」 → 「全般」 タブのオンライン・カテゴリで「Microsoft Office Online のコンテンツとリンクを表示する」をオフにし、「ツール」 → 「オプション」 → 「全般」 タブのカスタマ・フィードバック・カテゴリでカスタマ・エクスペリエンス向上プログラムへの参加を中止します。そのようにしないと、これらのファイルがタイムアウトする可能性があります。

## Project

次に示すインストールに関するヒントと推奨される設定は、Microsoft Project に適用されます。

- ❑ リファイナリ・コンピュータにこのソフトウェアをインストールするときは、標準インストールを使用します。

## Visio

次に示すインストールに関するヒントと推奨される設定は、Microsoft Visio に適用されます。

- ❑ リファイナリ・コンピュータにこのソフトウェアをインストールするときは、標準インストールを使用します。
- ❑ すべてのファイルで、プリンタの用紙サイズおよび向きが、描画するページのサイズおよび向きと一致するように設定する必要があります。そのようにしないと、リンクが正しく変換されません（正しくない位置に配置されます）。たとえば、プリンタの用紙をレター / 横に設定した場合は、描画するページもレター / 横に設定します。
- ❑ 部門関係フローチャート・テンプレートを使用して作成した Visio ファイルを Visio で開こうとすると、ポップアップ・ダイアログが表示される場合があります。このため、リファイナリ・コンピュータでこのダイアログを手動でクリアしないと、リファイナリ・プロセスがタイムアウトします。これを防ぐには、部門関係フローチャート・テンプレートを使用してファイルを作成しないようにします。OutsideIn を使用すると、部門関係フローチャート・テンプレートに基づく Visio ファイルを変換できます。ただし、Visio のハイパーリンクは OutsideIn では変換されないことに注意してください。
- ❑ 「ツール」 → 「オプション」 → 「全般」 タブのオンライン・カテゴリで「Microsoft Office Online のコンテンツとリンクを表示する」をオフにし、「ツール」 → 「オプション」 → 「全般」 タブのカスタマ・フィードバック・カテゴリでカスタマ・エクスペリエンス向上プログラムへの参加を中止します。そのようにしないと、これらのファイルがタイムアウトする可能性があります。

## OpenOffice

次に示すインストールに関するヒントと推奨される設定は、OpenOffice に適用されます。

- ❑ OpenOffice Listener が常に Inbound Refinery コンピュータ上で実行されている必要があります。そのようにしないと、PDF の変換が失敗します。
- ❑ Windows で OpenOffice を実行する場合は、Setup.xcu ファイルで OpenOffice のポートを構成し、OpenOffice Quickstarter を実行することをお勧めします。Quickstarter は、OpenOffice アプリケーションへのショートカットをシステム・トレイに追加し、OpenOffice Listener をバックグラウンド・プロセスとして実行します。
  - ❖ デフォルトでは、Quickstarter はシステムの起動時にロードするので、OpenOffice アイコンがシステム・トレイに表示されます。Quickstarter を開始するには、OpenOffice アプリケーションを起動します。その後はアプリケーションを終了できます。Quickstarter は動作したままになります。
  - ❖ Quickstarter をシステム起動時にロードするように設定するには、システム・トレイの OpenOffice アイコンを右クリックし、「Load OpenOffice.org During System Start-Up」を選択します。



**注意:** OpenOffice は、Windows XP、2000、2003 でサービスとして実行している Inbound Refinery によって起動できます。ただし、OpenOffice Listener を実行するには Windows にログインする必要があるため、PDF 変換に OpenOffice を使用するときは常に (Inbound Refinery をサービスとして実行している場合でも)、Windows にログインする必要があります。

- ❑ UNIX で OpenOffice を実行する場合は、Setup.xcu ファイルで OpenOffice のポートを構成し、Listener として機能する soffice を実行することをお勧めします。必要であれば、Windows で Quickstarter のかわりに soffice を使用できます。
  - ❖ soffice を開始するには、次のディレクトリにある soffice.exe ファイルを起動します。  
**Windows:** <OpenOffice\_install\_dir>%program%  
**UNIX:** <OpenOffice\_install\_dir>/program
- ❑ Setup.xcu ファイルで OpenOffice のポートを構成するには、次の手順を実行します。
  1. テキスト・エディタで Setup.xcu ファイルを開きます。このファイルは、次のディレクトリにあります。  
**Windows:** <OpenOffice\_install\_dir>%share%registry\data/org/openoffice%  
**UNIX:** <OpenOffice\_install\_dir>/share/registry/data/org/openoffice
  2. <node oor:name="Office"> 要素を検索します。この要素には、複数の <prop/> 要素が含まれます。

3. 次の <prop/> 要素を、既存の要素と同じレベルの最初の要素として挿入します。

```
<prop oor:name="ooSetupConnectionURL" oor:type="xs:string">
<value>socket,host=localhost,port=8100;urp;</value>
</prop>
```

これにより、OpenOffice はポート 8100 でソケットを提供するように構成され、UNO リモート・プロトコル (URP) を介した接続を提供します。ネットワークの外部からの接続に対し、ファイアウォールでポート 8100 をブロックするように注意してください。ポート 8100 を使用することをお勧めします。ただし、ポート 8100 がすでに使用されている場合は、ポート番号の調整が必要になります。その場合は、要素の 8100 を使用するポート番号に置き換えます。

4. Setup.xcu ファイルを変更した後、Quickstarter (Windows) または soffice (UNIX または Windows) を停止して再起動します。

- ❑ OpenOffice のポートを Setup.xcu ファイルで構成し、OpenOffice Quickstarter (Windows) または soffice (UNIX または Windows) を実行するかわりに、コマンドラインからパラメータを指定して soffice を起動することもできます。ただし、その場合の設定は現在のセッションに対してのみ適用されます。パラメータを指定してコマンドラインから soffice を起動するには、次の手順を実行します。

1. コマンド・ウィンドウを開き、次のディレクトリに移動します。

**Windows:** <OpenOffice\_install\_dir>%program%

**UNIX:** <OpenOffice\_install\_dir>/program

2. 次のコマンドを入力します。

```
soffice "-accept=socket,port=8100;urp;"
```

- ❑ 指定したポートで OpenOffice がリスニングしていることを確認するには、コマンド・ウィンドウを開き、次のいずれかのコマンドを入力します。

```
netstat -a
netstat -na
```

次のような出力が表示されれば、OpenOffice はリスニングしています。

```
TCP <Hostname>:8100 <Fully qualified hostname>: 0 Listening
```



- OpenOffice を使用するように Inbound Refinery を構成するには、次の手順を実行します。
  1. Inbound Refinery は、OpenOffice による変換中に使用する複数の OpenOffice.jar ファイルを必要とします。次の OpenOffice.jar ファイルを、`<OpenOffice_install_dir>/program/classes/` ディレクトリから `<refinery_install_dir>/custom/OpenOfficeConversion/classes/openofficejars/` ディレクトリにコピーします。
    - juh.jar
    - jurt.jar
    - ridl.jar
    - unoil.jar
  2. OpenOffice の Setup.xcu ファイルを変更するときにポート 8100 を使用しなかった場合は、次の手順を実行します。
    - a. Inbound Refinery の管理インターフェースで、「**Conversion Settings**」 → 「**Third-Party Application Settings**」を選択します。「Third-Party Application Settings」ページが表示されます。
    - b. OpenOffice の「**Options**」ボタンをクリックします。「**OpenOffice Options**」ページが表示されます。
    - c. 「Port to Connect to the OpenOffice Quickstarter Listener」フィールドに、OpenOffice の Setup.xcu ファイルを変更するときに使用したポートを入力します。
    - d. 「**Update**」をクリックします。
  3. リファイナリを再起動します。

## クライアント・コンピュータへの PDF リーダー・プラグインのインストール

---

PDF Converter によって生成された PDF ファイルをコンテンツ・サーバーの Web インタフェースで表示するために使用するすべてのクライアント・コンピュータに、PDF リーダー・プラグイン（Adobe Acrobat Reader など）をインストールする必要があります。

PDF Converter によって生成された PDF ファイルを最善の状態に表示するには、すべてのクライアント・コンピュータに Adobe Acrobat Reader 6.0.1 以上をインストールすることをお勧めします。Acrobat Reader は、<http://www.adobe.com/products/acrobat/readstep2.html> からダウンロードできます。



**重要:** Adobe Acrobat Reader 6.0 では、ファイル名と URL が 256 文字を超えると、PDF を印刷できません。ワークフローおよびサブスクリプション電子メール通知の URL は、簡単に 256 文字を超える場合があります。

Adobe Acrobat Reader 6.0 をインストールし、ファイル名と URL が 256 文字を超える PDF を印刷しようとする、ドキュメントは印刷されず、「Could not start print job」というメッセージが表示されます。

Adobe Acrobat Reader 6.0.1 ではこの問題が解決されています。この問題を解決するには、Adobe Acrobat Reader 6.0.1 以上をダウンロードしてインストールしてください。

## PDF CONVERTER のアンインストール

---

PDF Converter をアンインストールするには、次の手順を実行します。

1. コンポーネント・マネージャまたは Component ウィザードを使用し、PDFConverter および OpenOfficeConversion コンポーネントを無効にしてアンインストールします。
2. リファインナリを再起動します。
3. 必要に応じて、これらのコンポーネントによりインストールされた次のディレクトリを削除します。
  - `<refinery_install_dir>/custom/OpenOfficeConversion`
  - `<refinery_install_dir>/custom/PDFConverter`
4. 必要に応じて、変換に使用したサード・パーティ製アプリケーションをアンインストールします。

## PDF CONVERTER の更新

---

既存の PDF Converter 10g リリース 3 を、新しいバージョンの 10g リリース 3 のビルドに更新できます。10g リリース 3 より前のバージョンの PDF Converter を 10g リリース 3 に更新することはできません。PDF Converter を更新するには、次の手順を実行します。

1. コンポーネント・マネージャまたは Component ウィザードを使用し、PDFConverter および OpenOfficeConversion コンポーネントを無効にしてアンインストールします。
2. リファインナリを再起動します。
3. 新しい PDFConverter および OpenOfficeConversion コンポーネントをインストールして有効にします。詳細は、4-4 ページの「[PDF Converter のインストール](#)」を参照してください。
4. リファインナリを再起動します。



# 5

## PDF CONVERTER の変換の設定

### OVERVIEW

---

この項の内容は、次のとおりです。

#### タスク

- ❖ [PDF Converter にジョブを送信するための Content Server の構成](#)
- ❖ [受け入れられる変換の設定](#)
- ❖ [Web 表示可能なプライマリ・レンディションとしての PDF ファイルの設定](#)
- ❖ [サード・パーティ製アプリケーションの設定の構成](#)
- ❖ [PDF 変換のタイムアウト設定の構成](#)
- ❖ [Outside In X 使用時の余白の設定](#)

#### インタフェース

- ❖ [「PDF Options」 ページ \(5-16 ページ\)](#)
- ❖ [「Distiller Engine Options」 ページ \(5-18 ページ\)](#)
- ❖ [「Word Options」 ページ \(5-21 ページ\)](#)
- ❖ [「Excel Options」 ページ \(5-24 ページ\)](#)
- ❖ [「PowerPoint Options」 ページ \(5-26 ページ\)](#)

- ❖ 「Visio Options」 ページ (5-28 ページ)
- ❖ 「InDesign Options」 ページ (5-30 ページ)
- ❖ 「OpenOffice Options」 ページ (5-31 ページ)

## PDF CONVERTER にジョブを送信するための CONTENT SERVER の構成

---

Content Server では、ファイル拡張子、ファイル形式および変換を使用して、Inbound Refinery とその変換アドオンによるコンテンツ・アイテムの処理方法を定義します。変換のためリファイナリにファイルを送信するよう、各コンテンツ・サーバーを構成する必要があります。ファイル拡張子がファイル形式と変換にマップされている場合、その種類のファイルがコンテンツ・サーバーにチェックインされると、変換のために送信されます。File Formats ウィザードまたは構成マネージャを使用して、コンテンツ・サーバーでファイル拡張子、ファイル形式、および変換マッピングを構成できます。

Content Server では、PDF Converter に必要なすべての変換がデフォルトで使用できます。コンテンツ・サーバーでのファイル拡張子、ファイル形式、および変換の構成の詳細は、『Inbound Refinery 管理ガイド』を参照してください。

## 受け入れられる変換の設定

---

コンテンツ・サーバーで使用できる変換は、リファイナリで使用できる変換と一致している必要があります。コンテンツ・サーバーでファイル形式が変換にマップされていると、その形式のファイルがチェックイン時に変換のために送信されます。1 つ以上のリファイナリが、その変換を受け入れるように設定されている必要があります。

「Conversion Listing」 ページで、リファイナリが受け入れる変換とキューの最大値を設定します。PDF Converter に必要なすべての変換が、Content Server と Inbound Refinery の両方においてデフォルトで使用できます。受け入れられる変換の設定の詳細は、『Inbound Refinery 管理ガイド』を参照してください。

# WEB 表示可能なプライマリ・レンディションとしての PDF ファイルの設定

Web 表示可能なプライマリ・レンディションとして PDF ファイルを設定するには、次の手順を実行します。

1. リファイナリにログインします。
2. 「**Conversion Settings**」 → 「**Primary Web Rendition**」を選択します。「Primary Web-Viewable Rendition」ページが表示されます。
3. 次の変換方法から 1 つ以上を選択します。

❖ **Convert to PDF using Third-Party Applications:** Windows で実行する場合、PDF Converter は複数のサード・パーティ製アプリケーションを使用して、コンテンツ・アイテムの PDF ファイルを作成できます。ほとんどの場合、ファイルを開いて印刷できるサード・パーティ製アプリケーションを使用してファイルを PostScript に印刷した後、構成済の PostScript Distiller エンジンを使用して PostScript ファイルを PDF に変換します。場合によっては、PDF Converter はサード・パーティ製アプリケーションを使用してファイルを PDF に直接変換できます。このオプションを使用して変換できるファイル形式の詳細は、[付録 A 「サード・パーティ製アプリケーションを使用して PDF に変換されるファイル形式」](#) を参照してください。このオプションを使用する場合は、次のものがが必要です。

- PostScript Distiller エンジン。詳細は、4-7 ページの「[Distiller エンジンのインストール](#)」を参照してください。
- PostScript プリンタ。詳細は、4-10 ページの「[IDC PDF Converter プリンタのインストール](#)」を参照してください。
- 変換時に使用されるサード・パーティのアプリケーション。詳細は、4-12 ページの「[PDF 変換用のサード・パーティ製アプリケーションのインストール](#)」を参照してください。
- **Convert to PDF using OpenOffice:** Windows または UNIX で実行する場合、PDF Converter は OpenOffice を使用して一部のファイル形式を PDF に直接変換できます。このオプションを使用して変換できるファイル形式の詳細は、[付録 B 「OpenOffice を使用して PDF に変換されるファイル形式」](#) を参照してください。このオプションを使用する場合は、OpenOffice のみが必要です。詳細は、4-17 ページの「[OpenOffice](#)」を参照してください。
- **Convert to PDF using Outside In:** Windows の場合、PDF Converter に付属する Outside In X を使用して、一部のコンテンツ・アイテムの PDF ファイルを作成できます。Outside In X を使用してファイルを PostScript に印刷した後、構成済の PostScript Distiller エンジンを使用して PostScript ファイルを PDF に変換します。このオプションを使用して変換できるファイル形式の詳細は、

付録 C 「[Outside In X を使用して PDF に変換されるファイル形式](#)」を参照してください。このオプションを使用する場合は、PostScript Distiller エンジンのみが必要です。詳細は、4-7 ページの「[Distiller エンジンのインストール](#)」を参照してください。

Inbound Refinery は、ネイティブ・ファイル形式に基づいて、受信した各ファイルの変換を試行します。最初に選択されている方法を使用する変換でその形式がサポートされていない場合、Inbound Refinery は次に選択されている方法でその形式がサポートされているかどうかを調べます。Inbound Refinery は、その形式の変換をサポートする最初の方法を使用してファイルの変換を試行します。

たとえば、「Convert to PDF using third-party applications」オプションと「Convert to PDF using Outside In」オプションの両方を選択するとします。次に、Microsoft Word ファイルを変換用にリファイナリに送信します。Microsoft Word ファイル形式は、サード・パーティのアプリケーション（Microsoft Word）を使用する PDF 変換でサポートされているため、Inbound Refinery では「Convert to PDF using third-party applications」の方法を使用して、Web 表示可能なプライマリ・レンディションとしての PDF にファイルを変換しようとしています。この方法が失敗した場合、Inbound Refinery では、「Convert to PDF using Outside In」の方法を試行しません。しかし、JustWrite ファイルを変換用にリファイナリに送信する場合は、このファイル形式は「Convert to PDF using third-party applications」の方法を使用する PDF 変換ではサポートされていないため、Inbound Refinery ではこの形式が「Convert to PDF using Outside In」の方法でサポートされているかどうかをチェックします。この形式は Outside In でサポートされているため、Inbound Refinery は Outside In を使用して PDF へのファイル変換を試行します。

4. 「Update」をクリックして、変更を保存します。
5. 「Convert to PDF using Third-Party Applications」の方法または「Convert to PDF using Outside In」の方法を使用するときは、対応する「PDF Web-Viewable Options」ボタンをクリックします。「PDF Options」ページが表示されます。
6. PDF オプションを設定し、「Update」をクリックして変更を保存します。



# サード・パーティ製アプリケーションの設定の構成

---

サード・パーティ製アプリケーションの設定を変更するには、次の手順を実行します。

1. リファイナリにログインします。
2. 「**Conversion Settings**」 → 「**Third-Party Application Settings**」を選択します。  
「Third-Party Application Settings」 ページが表示されます。
3. サード・パーティ製アプリケーションの「**Options**」 ボタンをクリックします。対応するオプションのページが表示されます。次のサード・パーティ製アプリケーションのオプション・ページは、PDF Converter に固有のものです。
  - 「[Distiller Engine Options](#)」 ページ
  - 「[Word Options](#)」 ページ
  - 「[Excel Options](#)」 ページ
  - 「[PowerPoint Options](#)」 ページ
  - 「[Visio Options](#)」 ページ
  - 「[InDesign Options](#)」 ページ
  - 「[OpenOffice Options](#)」 ページ
4. サード・パーティ製アプリケーションのオプションを変更します。
5. 「**Update**」 をクリックして、変更を保存します。

## PDF 変換のタイムアウト設定の構成

---

PDF ファイル生成のタイムアウトの設定を構成するには、次の手順を実行します。

1. リファインナリにログインします。
2. 「**Conversion Settings**」 → 「**Timeout Settings**」を選択します。「Timeout Settings」ページが表示されます。
3. 次の変換操作に対する「**Minimum (in minutes)**」、「**Maximum (in minutes)**」、および「**Factor**」を入力します。
  - **Native to PostScript:** 元の（ネイティブの）ファイルが PostScript (PS) ファイルに変換されるステージ。
  - **PostScript to PDF:** PS ファイルが Portable Document Format (PDF) ファイルに変換されるステージ。
  - **FrameMaker to PostScript:** これらの値は、Adobe FrameMaker ファイルから PS ファイルへの変換に適用されます。
  - **PDF to Post Production:** ファイルが PDF 形式に変換された後の処理が実行されるステージ。

タイムアウト設定の計算方法と例の詳細は、『Inbound Refinery 管理ガイド』を参照してください。

4. 「**Update**」をクリックして、変更を保存します。

## OUTSIDE IN X 使用時の余白の設定

---

PDF Converter には、Outside In X バージョン 8.1.9 が付属しています。Outside In X を使用してグラフィックを PDF に変換する場合、生成される PDF の余白を 0 ～ 4.23 インチつまり 0 ～ 10.76 cm の範囲で設定できます。デフォルトでは、上下左右に 1 インチの余白が取られます。

これらの余白を調節するには、次の手順を実行します。

1. テキスト・エディタを使用して、<refinery\_install\_dir>/bin ディレクトリにある `intradoc.cfg` ファイルを開きます。
2. 次の設定を変更します。
  - `OIXTopMargin=`
  - `OIXBottomMargin=`
  - `OIXLeftMargin=`
  - `OIXRightMargin=`
3. 余白の単位をインチから **cm** に変更するには、`OIXMarginUnitInch=false` を設定します。
4. 変更を `intradoc.cfg` ファイルに保存します。
5. リファインナリを再起動します。

# ホストにログインしない状態での OPENOFFICE の使用

## 概要

PDF Converter は、OpenOffice を使用して一部のファイル・タイプを PDF に直接変換できます。これは、OpenOffice リスナーを構成することで行います。正常に変換するには、OpenOffice リスナーが動作している必要があります。通常、OpenOffice でドキュメントを開いて処理するためには、OpenOffice がインストールされているコンピュータにユーザーがログインする必要があります。ただし、OpenOffice リスナーは、グラフィカル・ユーザー・インタフェースのないヘッドレス・モードで実行できます。



**注意:** OpenOffice リスナーをヘッドレス・モードで実行するように設定する前に、OpenOffice を非ヘッドレス・モードで実行して、ドキュメントを PDF に変換できることを確認してください。また、起動ダイアログ、ヒント・ウィザード、更新通知など、OpenOffice を使用する前に起動する余分な画面を閉じます。これらの画面がクリアされるまで変換は続行されず、これらの画面はヘッドレス・モードでは表示されないため、リファイナリ・プロセスがタイムアウトします。

この項の内容は、次のとおりです。

- ❖ [Windows ホストでのヘッドレス・モードの設定](#) (5-8 ページ)
- ❖ [UNIX ホストでのヘッドレス・モードの設定](#) (5-9 ページ)

## Windows ホストでのヘッドレス・モードの設定

Windows ホストにログインせずに OpenOffice を使用してドキュメントを PDF に変換するには、OpenOffice リスナーをヘッドレス・モードで実行するためのカスタム・サービスを作成する必要があります。Windows Resource Kit には、カスタム・サービスを作成するための INSTSRV.EXE および SRVANY.EXE ユーティリティが用意されています。

カスタムの OpenOffice サービスをセットアップするには、次の手順を実行します。

1. MS-DOS コマンド・プロンプトで、次のコマンドを入力します。

```
<path>%INSTSRV.EXE <service_name> <path>%SRVANY.EXE
```

<path> は Windows Resource Kit へのパスで、<service\_name> はカスタム・サービスの名前です。この名前は任意ですが、サービスの内容を示すわかりやすい名前にする必要があります。終了すると、新しいサービス・キーが Windows レジストリに作成されます。

2. 「スタート」 → 「ファイル名を指定して実行」を選択し、**regedit** と入力して「OK」をクリックし、レジストリ・エディタを開きます。レジストリ・エディタが表示されます。



**警告:** レジストリをバックアップしてから編集してください。

3. レジストリをバックアップするには、「ファイル」→「エクスポート」を選択し、バックアップ・ファイルの名前を入力して、「保存」をクリックします。レジストリの復元が必要になったときのために、バックアップ・ファイルを保存した場所を記録しておきます。
4. 手順 1 で作成した新しいレジストリ・キーに移動し、新しいサービス・キーを選択します。新しいキーは次の場所にあります。  
HKEY\_LOCAL\_MACHINE¥SYSTEM¥CurrentControlSet¥Services¥<service\_name>
5. 新しいキーを選択し、「編集」→「新規」→「キー」を選択して、**Parameters** という名前を設定します。
6. **Parameters** キーを右クリックし、「新規」→「文字列」を選択して、**Application** という値を指定します。
7. **Application** 文字列を右クリックして、「変更」を選択します。
8. soffice.exe へのフルパスを入力し、**-headless** を付けます。次に例を示します。  
C:¥Program Files¥OpenOffice2.0¥program¥soffice.exe -headless
9. レジストリ・エディタを閉じて、コンピュータを再起動します。
10. コンピュータが再起動したら、「スタート」→「設定」→「コントロールパネル」→「管理ツール」→「サービス」の順に選択して、Windows のサービスを開きます。Windows の「サービス」画面が表示されます。
11. 作成したサービスを右クリックし、「プロパティ」を選択して、サービスが自動的に開始するよう設定されていることを確認します。
12. 「ログオン」タブを選択し、「アカウント」を有効にします。これにより、サービスは特定のユーザー・アカウントを使用して実行できるようになります。
13. Inbound Refinery の実行に使用しているのと同じユーザー資格証明を入力します。



**注意:** Inbound Refinery ユーザーは、Inbound Refinery コンピュータにサービスとしてログオンするための権限を持っている必要があります。

14. サービスを開始し、変更を受け入れて、Windows サービスを閉じます。

## UNIX ホストでのヘッドレス・モードの設定

UNIX ホストにログインせずに OpenOffice を使用してドキュメントを PDF に変換するには、仮想バッファ・ディスプレイ (X サーバー) を使用して、グラフィカル・ユーザー・インタフェースのないヘッドレス・モードで OpenOffice リスナーを実行する必要があります。



**重要:** 各 UNIX 環境は固有です。ここで説明する内容は、UNIX プラットフォームでヘッドレス・モードの OpenOffice リスナーを設定するための一般的なガイドラインです。Red Hat EL4 の場合の手順の例も、示してあります。

一般に、UNIX プラットフォームにおいて OpenOffice リスナーをヘッドレス・モードで実行するよう構成するには、次の手順を実行する必要があります。



**注意:** OpenOffice をヘッドレス・モードで実行するように設定する前に、OpenOffice を非ヘッドレス・モードで実行して、ドキュメントが PDF に正常に変換されるように、Inbound Refinery が正しくインストールおよび構成されていることを確認してください。

1. システム起動時に Inbound Refinery を実行する起動スクリプトを作成します。
2. 仮想 X サーバーを構成し、システム起動時にそれを実行する起動スクリプトを作成して、OpenOffice が実行できるようにします。
3. システム起動時に OpenOffice をヘッドレス・モードで実行する起動スクリプトを作成します。
4. 次の順序で起動スクリプトを実行するように、システムを構成します。
  - a. Inbound Refinery を起動します。
  - b. 仮想 X サーバーを起動します。
  - c. OpenOffice を起動します。



**注意:** OpenOffice を起動する前に、仮想 X サーバーを起動する必要があります。このようにしないと、OpenOffice は実行されません。また、Web サーバーもシステム起動時に実行するよう構成する必要があります。

## 例 : Red Hat EL4 での OpenOffice ヘッドレス・モードの設定

Inbound Refinery がインストールされていて非ヘッドレス・モードで正常に動作することを確認した後、システム起動時にそれを実行する起動スクリプトを作成する必要があります。起動スクリプトは root として実行されますが、Inbound Refinery は root として起動できないため、リファイナリを起動するコマンドの前に `su idcUser -c` を付加します。また、管理サーバーもリファイナリと同じ方法で起動する必要があり、起動スクリプトには実行権限が必要です。

この例では、リファイナリのインストール・パスは `/u1/work/ibr1` であり、リファイナリのユーザーは `idcUser` です。

1. `/etc/init.d` に移動し、リファイナリを起動するスクリプトとして `ibr` ファイルを作成します。
 

```
#!/bin/sh
# Startup/shutdown script for IBR - ibr1.
# File: /etc/init.d/ibr
ibr_start() {
```

```

# Starting the refinery
if [ -x /ul/work/ibr1/etc/idcrefinery_start ]
then
    echo "Preparing to START Inbound Refinery - ibr1"
    su idcl -c "/ul/work/ibr1/etc/idcrefinery_start"
else
    echo "Error -- IBR Did Not Start"
fi
# Starting Admin Server
if [ -x /ul/work/ibr1/admin/etc/idcadmin_start ]
then
    echo "Preparing to START IBR Admin Server"
    su idcl -c "/ul/work/ibr1/admin/etc/idcadmin_start"
else
    echo "Error -- Admin Server Did Not Start"
fi
}

ibr_stop() {
# Stopping Refinery
if [ -x /ul/work/ibr1/etc/idcrefinery_stop ]
then
    echo "Preparing to STOP Inbound Refinery - ibr1"
    su idcl -c "/ul/work/ibr1/etc/idcrefinery_stop"
else
    echo "Error -- IBR Did Not Stop"
fi
# Stopping Admin Server
if [ -x /ul/work/ibr1/admin/etc/idcadmin_stop ]
then
    echo "Preparing to STOP IBR Admin Server"
    su idcl -c "/ul/work/ibr1/admin/etc/idcadmin_stop"
else
    echo "Error -- Admin Server Did Not Stop"
fi
}

case "$1" in
'start')
    ibr_start
    ;;
'stop')
    ibr_stop
    ;;
'restart')
    ibr_stop
    sleep 1
    ibr_start
    ;;
*)
    echo "Usage: $0 start | stop | restart"
esac

```

2. 仮想 X サーバー (フレーム・バッファ) をインストールして構成し、OpenOffice が実行できるようにします。この例では、<http://www.xfree86.org> の Xvfb パッケージを使用します。Xvfb.tgz ファイルを解凍し、Xvfb 実行可能ファイルのコピーを /usr/X11R6/bin ディレクトリに格納して、実行可能であることを確認します。この例では、次のオプションを使用します。

オプション	説明
:2	ディスプレイ番号 2 として Xvfb を実行します。
-screen 0 800x600x16	画面 0 で、幅 800、高さ 600、深さ 16 ビットの寸法で、Xvfb を実行します。
3.fbdir /var/state/Xvfb	/var/state/Xvfb ディレクトリにフレームバッファ・メモリーを含むメモリー・マップ・ファイルで Xvfb を実行します。このディレクトリは、Xvfb を実行する前に作成する必要があります。このファイルは Xvfb を実行すると作成され、Xvfb の実行に使用するユーザーはこのディレクトリに対するフル・アクセス権が必要です。このオプションは、mmap および msync システム・コールのあるマシンにのみ存在します。

root として /etc/init.d に移動し、仮想 X サーバーを起動するスクリプトとして xvfb ファイルを作成します。

```
#!/bin/sh
# Startup / Shutdown script for the Xvfb
# File: /etc/init.d/xvfb
# Start the virtual X frame buffer
xvfb_start() {
    if [ -x /usr/X11R6/bin/Xvfb ]
    then
        echo "Starting Xvfb as display :2.0"
        su idcUser -c "/usr/X11R6/bin/Xvfb :2 -screen 0 800x600x16 -fbdir
/var/state/Xvfb &"
    else
        echo "Error - Xvfb Did Not Start"
    fi
}

# Stop the virtual X frame buffer
xvfb_stop() {
    if [ -x /bin/kill ]
    then
        echo "Stopping Xvfb for all displays"
        su idcUser -c "/bin/kill Xvfb"
    else
        echo "Error - Xvfb Did Not Stop"
    fi
}
```



```

        fi
    }
    case "$1" in
        'start')
            xvfb_start
            ;;
        'stop')
            xvfb_stop
            ;;
        'restart')
            xvfb_stop
            sleep 1
            xvfb_start
            ;;
        *)
            echo "Usage: $0 start | stop | restart"
    esac

```

3. システム起動時に、リファイナリを実行するユーザーと同じユーザーとして、**OpenOffice** をヘッドレス・モードで実行する起動スクリプトを作成します。Xvfb に対して定義されているディスプレイを必ず使用します。この例では、ユーザーは `idcUser` であり、**OpenOffice 2.2** は `/u1/apps/OpenOffice/` ディレクトリにインストールされています。



**注意:** 起動ダイアログ、ヒント・ウィザード、更新通知など、**OpenOffice** を使用する前に起動する余分な画面を必ず閉じます。これらの画面がクリアされるまで変換は続行されず、これらの画面はヘッドレス・モードでは表示されないため、リファイナリ・プロセスがタイムアウトします。

**root** として `/etc/init.d` に移動し、`openoffice` ファイルを作成します。

```

#!/bin/sh
# Startup/shutdown script for openoffice
# File: /etc/init.d/openoffice

# Start OpenOffice
openoffice_start() {
    if [ -x /u1/apps/OpenOffice/program/soffice ]
    then
        echo "Starting OpenOffice headless"
        su idc1 -c "/u1/apps/OpenOffice/program/soffice -display :2
-headless &"
    else
        echo "Error -- OpenOffice Did Not Start"
    fi
}

# Stop OpenOffice
openoffice_stop() {
    if [ -f /bin/kill ]
    then

```

```

        echo "Stopping OpenOffice"
        su idcl -c "/bin/kill soffice.bin"
    else
        echo "Error -- OpenOffice Did Not Stop"
    fi
}

case "$1" in
    'start')
        openoffice_start
        ;;
    'stop')
        openoffice_stop
        ;;
    'restart')
        openoffice_stop
        sleep 1
        openoffice_start
        ;;
    *)
        echo "Usage: $0 start | stop | restart"
esac

```

4. /etc/rc.d/rc.local ファイルを編集し、起動スクリプトを実行するようにシステムを構成します。この例で使用したもの（Red Hat EL4）とは異なる UNIX プラットフォームでは、起動時に実行するようにスクリプトを構成する方法が異なる場合があります。OpenOffice が起動する前に仮想 X サーバーを実行している必要があるため、次の順序でスクリプトを実行する必要があります。
  - a. Inbound Refinery を起動します。
  - b. 仮想 X サーバーを起動します。
  - c. OpenOffice を起動します。

この例で起動時にスクリプトを実行するには、/etc/rc.d に移動して、rc.local ファイルに次の行を追加します。

```
# Start the refinery
if [ -x /etc/init.d/ibr1 ]
then
    /etc/init.d/ibr1 start
fi

# Start the virtual X server
if [ -x /etc/init.d/xvfb ]
then
    /etc/init.d/xvfb start
fi

# Start the OpenOffice Service
if [ -x /etc/init.d/openoffice ]
then
    /etc/init.d/openoffice start
fi
```

5. システムを再起動し、起動時にスクリプトが正常に実行されることを確認します。変換用にドキュメントをチェックインし、**Inbound Refinery** がジョブを受け入れること、**OpenOffice** がファイルを開いて有効な PDF を作成すること、およびドキュメントが返されて **Content Server** でリリースされることを確認します。

## 「PDF OPTIONS」 ページ

**PDF Options** [quick help](#)

---

- Enable Secondary Native to PostScript Conversion
- Enable Fast Web View (Optimize) for PDF Files
- Include Document Content Information in PDF
- Use Information From MS Office Documents When Available

「PDF Options」 ページでは、ファイルを PDF に変換するためのオプションを設定できます。このページにアクセスするには、「**Conversion Settings**」 → 「**Primary Web Rendition**」を選択し、「Convert to PDF using Third-Party Applications」方式または「Convert to PDF using Outside In」方式を選択して、対応する「**PDF Web-Viewable Options**」ボタンをクリックします。

機能	説明
「Enable Secondary Native to PostScript Conversion」チェック・ボックス	代替変換が定義されている場合、PDF Converter がそれを使用できるかどうかを指定します。これにより、サード・パーティのアプリケーションが正しく動作しない場合、または存在しない場合でも、ほとんどのドキュメントを変換できます。

機能	説明
「Enable Fast Web View (Optimize) for PDF Files」チェック・ボックス	<p>PDF ファイルを Web での高速表示用に最適化する必要があるかどうかを指定します。最適化を行うと、コンテンツ中に複数回出現するグラフィックおよびテキストが削除されて、最初のインスタンスへのポインタに置き換えられます。最適化を使用すると、PDF 全体がダウンロードされる前に、PDF の先頭ページの表示を開始できます。</p> <p>このチェック・ボックスを選択すると、PDF Converter は、すべての生成された PDF ファイルとチェックインされた PDF ファイルを含めて、すべての PDF ファイルの最適化を試行します。そのためには、PDF Converter と、PDF ファイルの最適化機能を備えた Distiller エンジン (AFPL Ghostscript など) を統合する必要があります。PDF Converter と Distiller エンジンの統合の詳細は、4-7 ページの「<a href="#">Distiller エンジンのインストール</a>」を参照してください。</p>
「Include Document Content Information in PDF」チェック・ボックス	<p>ドキュメントのコンテンツの情報 (ドキュメントに関する情報) を PDF に含めるかどうかを指定します。ドキュメントのコンテンツの情報は、2 つの方法で取得できます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• チェックイン時に (コンテンツ・サーバーの情報フィールドから) 提供されるコンテンツ情報から。これには、タイトル (dDocTitle)、件名 (dDocName、コンテンツ ID)、作成者 (dDocAuthor)、およびキーワードが含まれます。これは、Microsoft Office ファイルを除くすべてのファイル・タイプに対するデフォルトの方法です。</li> <li>• Microsoft Office ドキュメントの場合、Microsoft Office のネイティブ・ファイルから。これには、タイトル、件名、作成者、およびキーワードが含まれます。これは、Microsoft Office ファイルのみのデフォルトです。</li> </ul>
「Use Information From MS Office Documents When Available」チェック・ボックス	<p>Microsoft Office ファイルの場合のみ、ドキュメントのコンテンツ情報を、Microsoft Office のネイティブ・ファイルから取得するか、コンテンツ・サーバーの情報フィールドから取得するかを指定します。</p>
「Update」ボタン	<p>設定の変更を保存します。</p>
「Reset」ボタン	<p>最後に保存した値に戻します。</p>

## 「DISTILLER ENGINE OPTIONS」 ページ

**Distiller Engine Options** [quick help](#)

Use Ghostscript

Path to Ghostscript installation directory.

Path to generic PostScript to PDF engine.

Parameters to pass to generic PostScript to PDF engine.

Path to generic PDF optimization engine.

Parameters to pass to generic PDF optimization engine.

このページにアクセスするには、「**Conversion Settings**」 → 「**Third-Party Application Settings**」を選択し、Distiller エンジンの「**Options**」ボタンをクリックします。Distiller エンジンのインストールと構成の詳細は、4-7 ページの「[Distiller エンジンのインストール](#)」を参照してください。

機能	説明
「Use Ghostscript」チェック・ボックス	Distiller エンジンとして Ghostscript を使用する場合は、このチェック・ボックスを選択します。別の Distiller エンジンを使用する場合は、このチェック・ボックスの選択を解除します。

機能	説明
「Path to Ghostscript installation directory」フィールド	このフィールドは、「Use Ghostscript」チェック・ボックスを選択した場合のみアクティブになります。Ghostscript のメイン・インストール・ディレクトリへのパスを指定します。たとえば、c:/gs/gs8.54 などです。
「Path to generic PostScript to PDF engine」フィールド	このフィールドは、「Use Ghostscript」チェック・ボックスの選択を解除した場合のみアクティブになります。PostScript を PDF に変換する Distiller エンジンの実行可能ファイルまたはスクリプト・ファイルへのパスを入力します。たとえば、c:/gs/gs8.54/lib/ps2pdf14.bat などです。
「Parameters to pass to generic PostScript to PDF engine」フィールド	このフィールドは、「Use Ghostscript」チェック・ボックスの選択を解除した場合のみアクティブになります。PostScript を PDF に変換する Distiller エンジンに渡すパラメータを入力します。このフィールドは Idoc スクリプトに対応しています。 たとえば、Distiller エンジンのパスが c:\utils\PostScript\distll.exe であり、Distiller エンジンがパラメータ [options <psPath> [<pdfPath>] を受け取る場合は、コマンド・プロンプトで c:\utils\PostScript\distll.exe c:\temp\myspsfile.ps -optimize -1.3 -crop c:\temp\myfile.pdf と入力します。 この結果を PDF Converter で実現するには、次のように設定します。 Path to generic PostScript to PDF engine: c:/utils/PostScript/distll.exe Parameters to pass to generic PostScript to PDF engine: <\$postscriptFile\$> -optimize -1.3 -crop <\$pdfFile\$> 柔軟性を高めるため、このエントリでは、PostScript ファイルのパスに対してトークン <\$postscriptFile\$> を使用し、出力ファイルに対してはトークン <\$pdfFile\$> を使用しています。これらのトークンは、実際のパス参照ではなくプレースホルダと考えてください。
「Path to generic PDF optimization engine」フィールド	このフィールドは、「Use Ghostscript」チェック・ボックスの選択を解除した場合のみアクティブになります。PDF ファイルを最適化できる実行可能ファイルまたはスクリプト・ファイルへのパスを入力します。たとえば、c:/gs/gs8.54/lib/pdfopt.bat などです。

機能	説明
「Parameters to pass to generic PDF optimization engine」フィールド	<p>このフィールドは、「Use Ghostscript」チェック・ボックスの選択を解除した場合のみアクティブになります。PDF の最適化の際に Distiller エンジンに渡すパラメータを入力します。このフィールドは Idoc スクリプトに対応しています。</p> <p>たとえば、Distiller エンジンのパスが <code>c:\utils\PostScript\opt.exe</code> であり、Distiller エンジンがパラメータ <code>[options &lt;psPath&gt; [&lt;pdfPath&gt;]</code> を受け取る場合は、コマンド・プロンプトで <code>c:\utils\PostScript\opt.exe c:\temp\myPDF.pdf c:\temp\file.pdf</code> と入力します。</p> <p>この結果を PDF Converter で実現するには、次のように設定します。</p> <p>Path to generic PDF optimization engine:  <code>c:/utils/PostScript/opt.exe</code></p> <p>Parameters to pass to generic PDF optimization engine:  <code>&lt;\$pdfFile\$&gt; &lt;\$optimizedPdfFile\$&gt;</code></p> <p>柔軟性を高めるため、このエントリでは、PostScript ファイルのパスに対してトークン <code>&lt;\$pdfFile\$&gt;</code> を使用し、出力ファイルに対してはトークン <code>&lt;\$optimizedPdfFile\$&gt;</code> を使用しています。これらのトークンは、実際のパス参照ではなくプレースホルダと考えてください。</p>
「Update」ボタン	設定の変更を保存します。
「Reset」ボタン	最後に保存した値に戻します。



## 「WORD OPTIONS」 ページ

**Word Options** [quick help](#)

- Process Word URL Links
- Support Relative URL Links
- Process Word mailto Links
- Process Document Bookmarks
- Process Table of Contents to PDF Bookmarks
- Process Heading Styles to PDF Bookmarks
- Use Unicode Signatures to Create PDF Bookmarks (required for double-byte characters)
- Process Document Links to Footnotes and Endnotes
- Process Document Comments to PDF Notes
- Process Word UNC Links
- Print Document with Word Markup (requires Word XP or later)

このページにアクセスするには、「**Conversion Settings**」 → 「**Third-Party Application Settings**」を選択し、Microsoft Word の「**Options**」ボタンをクリックします。

機能	説明
「Process Word URL Links」チェック・ボックス	Microsoft Word ドキュメント内の絶対 URL (http://www.company.com など) へのリンクを、生成される PDF ファイルで対応するリンクに変換するかどうかを指定します。

機能	説明
「Support Relative URL Links」チェック・ボックス	<p>相対 URL のリンク (../..../portal.htm など) を、生成される PDF ファイルでリンクに変換するかどうかを指定します。有効にすると、PDF Converter は、各 Microsoft Word ドキュメントを開き、ドキュメントにハイパーリンク・ベース (つまり Web ルート) を設定し、ドキュメントを保存して閉じてから、PDF に変換するためにドキュメントを再び開きます。これにより、ドキュメント内のすべての相対リンクが、適切な絶対リンクに変換されます。Word 2000 以上では、ドキュメントで相対リンクの入力を始めるとすぐに自動的にハイパーリンク・ベースが生成されるように見えますが、Word 97 ではそのようには見えません。</p>
「Process Word mailto Links」チェック・ボックス	<p>Microsoft Word ドキュメント内の電子メール・アドレス (mailto:support@company.com など) へのリンクを、生成される PDF ファイルで対応するリンクに変換するかどうかを指定します。</p>
「Process Document Bookmarks」チェック・ボックス	<p>Microsoft Word ドキュメント内のブックマークを、生成される PDF ファイルで対応するリンクに変換するかどうかを指定します。</p>
「Process Table of Contents to PDF Bookmarks」チェック・ボックス	<p>Microsoft Word ドキュメント内の目次を、生成される PDF ファイルでしおり (ナビゲーション・ツリー) に変換するかどうかを指定します。</p> <p><b>注意:</b> 「Process Table of Contents to PDF bookmarks」オプションは、「Process Heading Styles to PDF Bookmarks」オプションを選択していない場合にのみ指定できます。そうでない場合はグレー表示されます。Microsoft Word ドキュメントでは、目次またはすべての見出しのどちらかを処理して PDF のしおりに変換できますが、両方とも変換することはできません。</p>

機能	説明
「Process Heading Styles to PDF Bookmarks」チェック・ボックス	Microsoft Word ドキュメント内の標準見出しスタイル（見出し1、見出し2、など）を、生成される PDF ファイルでしおり（ナビゲーション・ツリー）に変換するかどうかを指定します。 <b>注意：</b> 「Process heading styles to PDF bookmarks」オプションは、「Process Table of Contents to PDF Bookmarks」オプションを選択していない場合にのみ指定できます。そうでない場合はグレー表示されます。Microsoft Word ドキュメントでは、すべての見出しまたは目次のどちらかを処理して PDF のしおりに変換できますが、両方とも変換することはできません。
「Use Unicode Signatures to Create PDF Bookmarks (required for double-byte characters)」チェック・ボックス	PDF のしおりを作成するときに Unicode 文字のコーディング形式を使用するかどうかを指定します。Unicode は 16 ビットを使用するため、ACSII 以外の文字を PDF のしおりで使用できます。見出しで 2 バイト文字を使用する Microsoft Word ドキュメントでは、このオプションを指定する必要があります。選択しないと、PDF のしおりは ACSII 文字で作成されます。
「Process Document Links to Footnotes and Endnotes」チェック・ボックス	Microsoft Word ドキュメント内の脚注および文末脚注へのリンクを、生成される PDF ファイルでリンクに変換するかどうかを指定します。
「Process Document Comments to PDF Notes」チェック・ボックス	Microsoft Word ドキュメントに追加されているコメントを、生成される PDF ファイルで注釈に変換するかどうかを指定します。
「Process Word UNC Links」チェック・ボックス	Microsoft Word ドキュメント内の UNC リンクを、生成される PDF ファイルで対応するリンクに変換するかどうかを指定します。
「Print Document with Word Markup」チェック・ボックス	Microsoft Word ドキュメント内のマークアップを、生成される PDF ファイルに含めるかどうかを指定します（Word XP 以降が必要）。
「Update」ボタン	設定の変更を保存します。
「Reset」ボタン	最後に保存した値に戻します。



**注意：**ハイパーリンクの変換など、Word ファイルから PDF への変換の詳細は、[第6章「Microsoft Office ファイルから PDF への変換」](#)を参照してください。

## 「EXCEL OPTIONS」 ページ

**Excel Options** [quick help](#)

---

Process Excel URL Links

Process Excel mailto Links

Process Excel UNC Links

---

Advanced Excel Options

Support Relative URL Links and Reselect Worksheet Cell

このページにアクセスするには、「**Conversion Settings**」 → 「**Third-Party Application Settings**」を選択し、Microsoft Excel の「**Options**」ボタンをクリックします。

機能	説明
「Process Excel URL Links」 チェック・ボックス	Microsoft Excel スプレッドシート内の外部 URL (http://www.company.com など) へのリンクを、生成される PDF ファイルでハイパーリンクに変換するかどうかを指定します。
「Process Excel mailto Links」 チェック・ボックス	Microsoft Excel ドキュメント内の電子メール・アドレス (mailto:support@company.com など) へのリンクを、生成される PDF ファイルで対応するリンクに変換するかどうかを指定します。
「Process Excel UNC Links」 チェック・ボックス	Microsoft Excel ドキュメント内の UNC リンクを、生成される PDF ファイルで対応するリンクに変換するかどうかを指定します。

機能	説明
「Support Relative URL Links and Reselect Worksheet Cell」 チェック・ボックス	<p>相対 URL のリンク (../..../portal.htm など) を、生成される PDF ファイルでリンクに変換するかどうかを指定します。有効にすると、PDF Converter は、各 Microsoft Excel ドキュメントを開き、ドキュメントにハイパーリンク・ベース (つまり Web ルート) を設定し、ドキュメントを保存して閉じてから、PDF に変換するためにドキュメントを再び開きます。これにより、ドキュメント内のすべての相対リンクが、適切な絶対リンクに変換されます。Excel 2000 以上では、ドキュメントで相対リンクの入力を始めるとすぐに自動的にハイパーリンク・ベースが生成されるように見えますが、Excel 97 ではそのようには見えません。</p>
「Update」ボタン	設定の変更を保存します。
「Reset」ボタン	最後に保存した値に戻します。



**注意:** ハイパーリンクの変換など、Excel ファイルから PDF への変換の詳細は、[第 6 章「Microsoft Office ファイルから PDF への変換」](#)を参照してください。

## 「POWERPOINT OPTIONS」 ページ

**Powerpoint Options** [quick help](#)

---

Process PowerPoint Hyperlinks

Process PowerPoint mailto Links

Process PowerPoint Links to Internal Slides

Process PowerPoint UNC Links

---

Advanced PowerPoint Link Options

Support Relative URL Links

---

Advanced PowerPoint Format Options

Convert in PowerPoint "Slides" format

Convert in PowerPoint "Notes" format

Convert in PowerPoint "Hand-out" format

このページにアクセスするには、「**Conversion Settings**」 → 「**Third-Party Application Settings**」を選択し、Microsoft PowerPoint の「**Options**」ボタンをクリックします。

機能	説明
「Process PowerPoint Hyperlinks」チェック・ボックス	PowerPoint プレゼンテーション内のハイパーリンクを、生成される PDF ファイルでハイパーリンクに変換するかどうかを指定します。
「Process PowerPoint mailto Links」チェック・ボックス	PowerPoint ドキュメント内の電子メール・アドレス (mailto:support@company.com など) へのリンクを、生成される PDF ファイルで対応するリンクに変換するかどうかを指定します。

機能	説明
「Process PowerPoint Links to Internal Slides」チェック・ボックス	同じ PowerPoint プレゼンテーション内の他のスライドへのリンクを、生成される PDF ファイルでハイパーリンクに変換するかどうかを指定します。
「Process PowerPoint UNC Links」チェック・ボックス	PowerPoint ドキュメント内の UNC リンクを、生成される PDF ファイルで対応するリンクに変換するかどうかを指定します。 <b>注意:</b> PowerPoint 内のリンクは、PowerPoint プレゼンテーションをスライド形式に変換する場合にのみ処理できます。
「Support Relative URL Links」チェック・ボックス	相対 URL のリンク (.././.././portal.htm など) を、生成される PDF ファイルでリンクに変換するかどうかを指定します。有効にすると、PDF Converter は、各 Microsoft PowerPoint ドキュメントを開き、ドキュメントにハイパーリンク・ベース (つまり Web ルート) を設定し、ドキュメントを保存して閉じてから、PDF に変換するためにドキュメントを再び開きます。これにより、ドキュメント内のすべての相対リンクが、適切な絶対リンクに変換されます。 PowerPoint 2000 以上では、ドキュメントで相対リンクの入力を始めるとすぐに自動的にハイパーリンク・ベースが生成されるように見えますが、PowerPoint 97 ではそのようには見えません。
「Convert in PowerPoint "Slides" format」ラジオ・ボタン	PowerPoint プレゼンテーションを、各ページに 1 つのスライドが含まれるスライド形式 (関連するノートを除く) に変換するかどうかを指定します。
「Convert in PowerPoint "Notes" format」ラジオ・ボタン	PowerPoint プレゼンテーションを、各ページに 1 つのスライドと関連するノートが含まれるノート形式に変換するかどうかを指定します。 <b>注意:</b> このオプションは、PowerPoint のリンクを変換するオプションがいずれも選択されていない場合にのみ選択できます。
「Convert in PowerPoint "Hand-out" format」ラジオ・ボタン	PowerPoint プレゼンテーションを、各ページに複数のスライドが含まれるハンドアウト形式に変換するかどうかを指定します。スライドのみが表示され、関連するノートは含まれません。 <b>注意:</b> このオプションは、PowerPoint のリンクを変換するオプションがいずれも選択されていない場合にのみ選択できます。

機能	説明
「Update」 ボタン	設定の変更を保存します。
「Reset」 ボタン	最後に保存した値に戻します。



**注意:** ハイパーリンクの変換など、PowerPoint ファイルから PDF への変換の詳細は、第 6 章「Microsoft Office ファイルから PDF への変換」を参照してください。

## 「VISIO OPTIONS」 ページ

**Visio Options** [quick help](#)

---

Process Visio URL links

Process Visio mailto Links

Process internal Visio links

Process Visio UNC Links

---

Process Visio by Printing with Fit to Page

このページにアクセスするには、「**Conversion Settings**」 → 「**Third-Party Application Settings**」を選択し、Microsoft Visio の「**Options**」ボタンをクリックします。

機能	説明
「Process Visio URL links」 チェック・ボックス	Microsoft Visio 図面内の絶対 URL リンク (http://www.company.com など) および相対 URL リンク (../..../portal.htm など) の両方を、生成される PDF ファイルでハイパーリンクに変換するかどうかを指定します。



機能	説明
「Process Visio mailto Links」チェック・ボックス	Microsoft Visio ドキュメント内の電子メール・アドレス (mailto:support@company.com など) へのリンクを、生成される PDF ファイルで対応するリンクに変換するかどうかを指定します。
 <b>重要</b> : Microsoft Visio では、ハイパーリンクを格納する方法が、他の Microsoft Office ドキュメントとは異なります。したがって、Visio で作成されているすべての URL リンクと mailto リンクに、URL リンクの場合は http://、mailto リンクの場合は mailto: という完全な接頭辞が付加されていることを確認することが重要です。適切な接頭辞を使用しないと、リンクが正しく変換されない可能性があります。	
「Process internal Visio links」チェック・ボックス	Visio 図面内のリンクを、生成される PDF ファイルでハイパーリンクに変換するかどうかを指定します。
「Process Visio UNC Links」チェック・ボックス	Microsoft Visio ドキュメント内の UNC リンクを、生成される PDF ファイルで対応するリンクに変換するかどうかを指定します。
「Process Visio by Printing with Fit to Page」チェック・ボックス	Visio の図面を、プリンタのページ・サイズに合わせて拡大縮小するか、または図面の実際のサイズを使用して印刷する (図面の一部がページの外側に印刷されるため、PDF に含まれなくなる可能性があります) かを指定します。
「Update」ボタン	設定の変更を保存します。
「Reset」ボタン	最後に保存した値に戻します。



**注意** : ハイパーリンクの変換など、Visio ファイルから PDF への変換の詳細は、[第 6 章「Microsoft Office ファイルから PDF への変換」](#)を参照してください。

## 「INDESIGN OPTIONS」 ページ

**InDesign Options** [quick help](#)

---

- Update Links to External Files Before Converting InDesign (external paths must be accessible)
- Create a 1.4 version PDF from InDesign
- Create a PDF with Internal Thumbnails from InDesign
- Process Internal InDesign Bookmarks to PDF Bookmarks
- Process InDesign URL Links

このページにアクセスするには、「**Conversion Settings**」 → 「**Third-Party Application Settings**」を選択し、Adobe InDesign の「**Options**」ボタンをクリックします。Adobe InDesign のインストールと構成の詳細は、4-13 ページの「[Adobe InDesign CS2 \(4.0\)](#)」を参照してください。

機能	説明
「Update Links to External Files Before Converting InDesign」 チェック・ボックス	InDesign ドキュメントを PDF に変換する前に、外部ファイルへのリンクを更新するかどうかを指定します（外部パスにアクセス可能である必要があります）。
「Create a 1.4 version PDF from InDesign」 チェック・ボックス	InDesign で PDF のバージョンを 1.4 に設定するかどうかを指定します。
「Create a PDF with Internal Thumbnails from InDesign」 チェック・ボックス	InDesign でドキュメントごとに PDF 内にページのサムネイルを作成するかどうかを指定します。

機能	説明
「Process Internal InDesign Bookmarks to PDF Bookmarks」 チェック・ボックス	InDesign ドキュメント内のブックマークを、生成される PDF ファイルでしおり（ナビゲーション・ツリー）に変換するかどうかを指定します。
「Process InDesign URL Links」 チェック・ボックス	外部 URL（インターネット Web サイトなど）へのリンクを、生成される PDF でハイパーリンクに変換するかどうかを指定します。
「Update」 ボタン	設定の変更を保存します。
「Reset」 ボタン	最後に保存した値に戻します。

## 「OPENOFFICE OPTIONS」 ページ

**OpenOffice Options** [quick help](#)

---

Address to Connect to the OpenOffice Listener

Port to Connect to the OpenOffice Listener

このページにアクセスするには、「**Conversion Settings**」 → 「**Third-Party Application Settings**」を選択し、OpenOffice の「**Options**」ボタンをクリックします。OpenOffice のインストールと構成の詳細は、4-17 ページの「**OpenOffice**」を参照してください。

機能	説明
「Address to Connect to the OpenOffice Listener」 フィールド	OpenOffice Quickstarter Listener に接続するためのデフォルト・アドレスを上書きする場合は、このフィールドでアドレスを指定します。デフォルト・アドレスは localhost です。

機能	説明
「Port to Connect to the OpenOffice Listener」フィールド	OpenOffice Quickstarter Listener に接続するためのデフォルト・ポートを上書きする場合は、このフィールドでポートを指定します。デフォルト・ポートは 8100 です。
「Update」ボタン	設定の変更を保存します。
「Reset」ボタン	最後に保存した値に戻します。

# 6

## MICROSOFT OFFICE ファイルから PDF への変換

### OVERVIEW

---

この項の内容は、次のとおりです。

- ❖ [Microsoft Office ファイルから PDF への変換について](#) (6-2 ページ)
- ❖ [Microsoft Word ファイルから PDF への変換](#) (6-3 ページ)
- ❖ [Microsoft Excel ファイルから PDF への変換](#) (6-4 ページ)
- ❖ [Microsoft PowerPoint ファイルから PDF への変換](#) (6-6 ページ)
- ❖ [Microsoft Visio ファイルから PDF への変換](#) (6-8 ページ)
- ❖ [Office ドキュメントでの相対リンクと絶対リンクの使用](#) (6-10 ページ)
- ❖ [MSOfficeConverter.exe の更新](#) (6-12 ページ)

# MICROSOFT OFFICE ファイルから PDF への変換について

---

PDF Converter を Windows で実行する場合、Microsoft Office を使用して Microsoft Office ファイルを PDF ファイルに変換できます。次のバージョンの Microsoft Office がサポートされています。

- ❖ Microsoft Office 2000
- ❖ Microsoft Office XP (2002)
- ❖ Microsoft Office 2003
- ❖ Microsoft Office 2007



**注意:** Microsoft Office 2007 のサポートには、Microsoft Project 2007 は含まれていません。

次の重要な一般的考慮事項に注意してください。

- ❖ Microsoft Office 2000 を使用する場合は、Service Pack 1 または 2 をダウンロードしてインストールすることを強くお勧めします。Microsoft Office XP (2002) を使用する場合は、Service Pack 1 をダウンロードしてインストールすることを強くお勧めします。Service Pack は、Microsoft の Web サイト <http://www.microsoft.com/downloads/> からダウンロードできます。
- ❖ 「Primary Web-Viewable Rendition」 ページで「Convert to PDF Using third-party applications」 オプションが選択されている場合、Microsoft Office ファイルから PDF への変換には Microsoft Office が使用されます。
- ❖ PDF Converter は、Microsoft Office ファイルの様々な特殊機能を、生成される PDF ファイルのリンクに変換できます。Microsoft Office ファイルの変換オプションは、「Third-Party Application Settings」 ページで設定します。
- ❖ Microsoft Office ファイルの変換がタイムアウトしないようにするには、ユーザー入力を必要とするすべての機能を無効にする必要があります。これには、パスワード保護、マクロの無効化などのセキュリティ通知、オンライン・コンテンツを表示したりユーザー・フィードバック・プログラムに参加したりするためのオンライン・アクセス要求が含まれます。これらの機能および他の類似機能を無効にする方法の詳細は、各製品に関する Microsoft 社のドキュメントを参照してください。
- ❖ Microsoft Office ファイルが正常に PDF ファイルへ変換されたが、ファイル中の 1 つ以上のリンクが PDF ファイルのリンクに変換されなかった場合、そのファイルの変換ステータスは「Incomplete」と設定されます。このような状況の発生を防ぐには、`<refinery_install_dir>%bin% ディレクトリにある intradoc.cfg 構成ファイルで、AllowSkippedHyperlinkToCauseIncomplete=False と設定します。`

# MICROSOFT WORD ファイルから PDF への変換

Windows で PDF Converter を実行し、Microsoft Word を使用して Word ファイルを PDF に変換する場合は、次のことを考慮してください。

- ❖ ドキュメントの印刷範囲の外側にある Word ファイルの情報は、PDF に変換されません。
- ❖ パスワードで保護されたファイルは、処理の前にパスワードを入力しておかないとタイムアウトします。
- ❖ Word 2003 では、「ツール」→「オプション」→「全般」タブのオンライン・カテゴリで「Microsoft Office Online のコンテンツとリンクを表示する」の選択を解除し、「ツール」→「オプション」→「全般」タブのカスタマ・フィードバック・カテゴリでカスタマ・エクスペリエンス向上プログラムへの参加を中止します。そのようにしないと、これらのファイルがタイムアウトする可能性があります。
- ❖ Word のハイパーリンクを PDF に変換するオプションの詳細は、「[Word Options](#) ページ」を参照してください。
- ❖ Word ファイルの次の種類のハイパーリンクを、PDF に変換できます。
  - 絶対 URL リンク（例：<http://www.company.com>）。ページ上のターゲットを指定するリンクを使用することもできます（例：<http://idvm001/ibr/portal.htm#target>）。絶対 URL リンクとして処理するには、Word がリンクの一部として <http://> 接頭辞を返す必要があることに注意してください。サポートされるすべてのバージョンの Microsoft Word では、このルールが自動的に強制されます。
  - 相対 URL リンク（例：[../././././portal.htm](http://idvm001/ibr/portal.htm)）。このリンクは、サーバー名またはプロトコルの接頭辞を含みません。Reader は、単純に、現在表示されているファイルを基準として、リンクで参照されているファイルを開こうとします。ハイパーリンク・ベースが設定されていない場合、Word を含む Office アプリケーションは、相対リンク・アドレスを誤って処理することがよくあります（Word はアドレスを絶対パスに変換することで対応しようとしています）。この問題を回避するには、「Word Options」パネルで「Support Relative URL Links」オプションを選択します。「Support Relative URL Links」を選択すると、リンクの処理の前に、ハイパーリンク・ベースが設定されます。
  - mailto リンク（電子メール・アドレスへのリンク。<mailto:support@company.com> など）。電子メール・リンクとして処理するには、Word がリンクの一部として [mailto:](mailto:support@company.com) 接頭辞を返す必要があることに注意してください。サポートされるすべてのバージョンの Microsoft Word では、このルールが自動的に強制されます。
  - 目次リンク（生成される PDF ファイルではしおりに変換されます）。
  - ブックマーク（自動生成、または作成者が生成するブックマークへの内部リンク）。
  - 標準見出しスタイル（見出し 1、見出し 2 など。生成される PDF ファイルではしおりに変換されます）。

- 脚注および文末脚注へのリンク。
- UNC パス・リンク（例: \\server1\c\TestDocs\MsOfficeXP\word\target.doc）。現在、「Word Options」パネルのこのオプションは使用できません。この機能を有効にするには、リファイナリ接続の intradoc.cfg ファイル (refinery\_install\_dir\connections\<connection\_name>\intradoc.cfg) で、変数 ProcessWordUncLinks=true を設定する必要があります。通常、UNC パスには Web ブラウザとの関連性はありません。UNC パスは URL ではありません。したがって、UNC パスのリンクを正しく解決するには、Web ブラウザの外部で PDF を開く必要があります。UNC パスのリンクを使用している場合、ブラウザの外部にある PDF ファイルを開くように、クライアント・コンピュータ上の Reader を構成することが必要になる場合があります。
- ❖ テキスト・ボックス内のハイパーリンクは変換されません。
- ❖ 表の中にあるハイパーリンク付きのオートシェイプおよびオブジェクト（画像やワードアート・オブジェクトなど）は、変換されません。
- ❖ ネストされた表（つまり、他の表に挿入された表）内のハイパーリンクは、表がドキュメントの 1 行目に挿入されていなければ変換できます。ネストされた表がドキュメントの 1 行目に挿入されていると、ネストされた表内のハイパーリンクは、正しく変換されません。
- ❖ 生成された PDF ファイルでは、ハイパーリンクのホットスポットが実際のテキストから少しずれることがあります（1 または 2 文字以内）。現時点では、この現象に関連する既知の問題はなく、解決策はありません。

## MICROSOFT EXCEL ファイルから PDF への変換

---

Windows で PDF Converter を実行し、Microsoft Excel を使用して Excel ファイルを PDF に変換する場合は、次のことを考慮してください。

- ❖ ドキュメントの印刷範囲の外側にある Excel ファイルの情報は、PDF に変換されません。
- ❖ パスワードで保護されたファイルは、処理の前にパスワードを入力しておかないとタイムアウトします。
- ❖ Excel 2003 では、「ツール」→「オプション」→「全般」タブのオンライン・カテゴリで「Microsoft Office Online のコンテンツとリンクを表示する」の選択を解除し、「ツール」→「オプション」→「全般」タブのカスタマ・フィードバック・カテゴリでカスタマ・エクスペリエンス向上プログラムへの参加を中止します。そのようにしないと、これらのファイルがタイムアウトする可能性があります。



- ❖ MSOfficeConverter.exe の問題も若干影響していますが、主に Excel 内の実装の問題のため、Excel のハイパーリンクの処理にはいくつか制限があります。この問題を理解するには、Excel のブックが PostScript に印刷される方法についての背景情報が役に立ちます。Excel のブックは、1 ステップでは PostScript に印刷できません（1 ステップで印刷すると、ページ・レイアウト・オプションが無視されて、生成される PDF はブックとは見た目が異なるものになります）。かわりに、各ワークシートが個別に PostScript に印刷されます。次に、ワークシートが結合されて、単一の PDF ファイルが生成されます。PDF Converter は複数の PostScript ファイルを単一の PostScript ファイルにコピーし（MSOfficeConverter を使用）、大きな PostScript ファイルが PDF に変換されます。
- ❖ Excel のハイパーリンクを PDF に変換するオプションの詳細は、「[Excel Options](#)」ページを参照してください。
- ❖ 外部のハイパーリンクのみが PDF のリンクに変換されます。これは、現在の実装では、生成された PDF ファイルのどのページに内部リンク（ブックマーク）のターゲットが含まれているかを確認することが、不可能（または非常に困難）であるためです。
- ❖ Excel ファイルの次の種類のハイパーリンクのみが PDF に変換できます。
  - 絶対 URL リンク（例：<http://www.company.com>）。ページ上のターゲットを指定するリンクを使用することもできます（例：<http://idvm001/ibr/portal.htm#target>）。絶対 URL リンクとして処理するには、Excel がリンクの一部として <http://> 接頭辞を返す必要があることに注意してください。サポートされるすべてのバージョンの Microsoft Excel では、このルールが自動的に強制されます。
  - 相対 URL リンク（例：[../../../portal.htm](http://idvm001/ibr/portal.htm#target)）。このリンクは、サーバー名またはプロトコルの接頭辞を含みません。Reader は、単純に、現在表示されているファイルを基準として、リンクで参照されているファイルを開こうとします。ハイパーリンク・ベースが設定されていない場合、Office アプリケーションは、相対リンク・アドレスを誤って処理することがよくあります（Excel はアドレスを絶対パスに変換することで対応しようとしています）。これを回避するには、リファイナリ接続の `intradoc.cfg` ファイル（`refinery_install_dir¥connections¥<connection_name>¥intradoc.cfg`）で、変数 `ExcelSetInfoAndReopen=true` を設定します。
  - `mailto` リンク（電子メール・アドレスへのリンク。`mailto:support@company.com` など）。電子メール・リンクとして処理するには、Excel がリンクの一部として `mailto:` 接頭辞を返す必要があることに注意してください。サポートされるすべてのバージョンの Microsoft Excel では、このルールが自動的に強制されます。



**注意：**「Excel Options」パネルでは、URL リンクと `mailto` リンクの設定は区別されていません。「Process Excel URL Links」オプションを選択すると、絶対 URL リンク、相対 URL リンクおよび `mailto` リンクがすべて、PDF に変換されます。

- UNC パス・リンク（例：`\\server1\c\TestDocs\MsOfficeXP\word\target.doc`）。現在、「Excel Options」パネルのこのオプションは使用できません。この機能を有効にするには、リファイナリ接続の `intradoc.cfg` ファイル（`refinery_install_dir\connections\<connection_name>\intradoc.cfg`）で、変数 `ProcessExcelUncLinks=true` を設定する必要があります。通常、UNC パスには Web ブラウザとの関連性はありません。UNC パスは URL ではありません。したがって、UNC パスのリンクを正しく解決するには、Web ブラウザの外部で PDF を開く必要があります。UNC パスのリンクを使用している場合、ブラウザの外部にある PDF ファイルを開くように、クライアント・コンピュータ上の Reader を構成することが必要になる場合があります。
- ❖ ハイパーリンクは、セル内に存在する場合にのみ変換されます。テキスト・ボックスやワードアート・オブジェクトなどの中のハイパーリンクは変換されません。生成される PDF ファイルでは、リンクのホットスポットはそのリンクを含むセルです。
- ❖ PDF Converter を使用して複数のページのリンクを変換すると、リンクを含まないページに遭遇するまでは、リンクは正しく配置されます。それより後については、リンクが正しく配置されません。たとえば、ブックで 9 ページが印刷される場合、すべてのページに少なくとも 1 つのリンクがある場合は、すべてのリンクが正しく変換されます。しかし、6 ページ目にリンクがない場合は、7～9 ページのリンクが 1 ページずつずれます。
- ❖ ワークシートの「ページ設定」の「拡大縮小印刷」は、「拡大 / 縮小」（ページに合わせるのではない）に設定する必要があります。さらに、率が 100% に近いほど、結果は良好になります。

## MICROSOFT POWERPOINT ファイルから PDF への変換

---

Windows で PDF Converter を実行し、Microsoft PowerPoint を使用して PowerPoint ファイルを PDF に変換する場合は、次のことを考慮してください。

- ❖ ドキュメントの印刷範囲の外側にある PowerPoint ファイルの情報は、PDF に変換されません。
- ❖ パスワードで保護されたファイルは、処理の前にパスワードを入力しておかないとタイムアウトします。
- ❖ PowerPoint 2003 では、「ツール」→「オプション」→「全般」タブのオンライン・カテゴリで「Microsoft Office Online のコンテンツとリンクを表示する」の選択を解除し、「ツール」→「オプション」→「全般」タブのカスタマ・フィードバック・カテゴリでカスタマ・エクスペリエンス向上プログラムへの参加を中止します。そのようにしないと、これらのファイルがタイムアウトする可能性があります。
- ❖ PowerPoint のハイパーリンクを PDF に変換するオプションの詳細は、「[PowerPoint Options](#)」ページを参照してください。

- ❖ PowerPoint のリンクには、他の Office アプリケーションと同じように動作するハイパーリンクと、オブジェクトの動作設定の 2 種類があります。  
MSOfficeConverter.exe は、「ハイパーリンク」の「次のスライド」、「前のスライド」および「URL」の各オブジェクトの動作設定をサポートします。他のすべてのリンクは、ハイパーリンクとして挿入する必要があります。
- ❖ PowerPoint ファイルの次の種類のハイパーリンクを、PDF に変換できます。
  - 絶対 URL リンク (例: `http://www.company.com`)。ページ上のターゲットを指定するリンクを使用することもできます  
(例: `http://idvm001/ibr/portal.htm#target`)。絶対 URL リンクとして処理するには、PowerPoint がリンクの一部として `http://` 接頭辞を返す必要があることに注意してください。サポートされるすべてのバージョンの Microsoft PowerPoint では、このルールが自動的に強制されます。
  - 相対 URL リンク (例: `../..../portal.htm`)。このリンクは、サーバー名またはプロトコルの接頭辞を含みません。Reader は、単純に、現在表示されているファイルを基準として、リンクで参照されているファイルを開こうとします。ハイパーリンク・ベースが設定されていない場合、Office アプリケーションは、相対リンク・アドレスを誤って処理することがよくあります (PowerPoint はアドレスを絶対パスに変換することで対応しようとしています)。これを回避するには、リファイナリ接続の `intradoc.cfg` ファイル  
(`refinery_install_dir¥connections¥<connection_name>¥intradoc.cfg`) で、変数 `PowerPointSetInfoAndReopen=true` を設定します。
  - `mailto` リンク (電子メール・アドレスへのリンク。  
`mailto:support@company.com` など)。電子メール・リンクとして処理するには、PowerPoint がリンクの一部として `mailto:` 接頭辞を返す必要があることに注意してください。サポートされるすべてのバージョンの Microsoft PowerPoint では、このルールが自動的に強制されます。
  - ブックマーク (自動生成、または作成者が生成するブックマークへの内部リンク)。



**注意:** 「PowerPoint Options」パネルでは、URL リンク、mailto リンクおよびブックマークの設定は区別されていません。「Process PowerPoint Hyperlinks」オプションを選択すると、絶対 URL リンクおよび相対 URL リンク、mailto リンクおよびブックマークがすべて、PDF に変換されます。

- UNC パス・リンク (例: `¥¥server1¥c¥¥TestDocs¥MSOfficeXP¥word¥target.doc`)。現在、「PowerPoint Options」パネルのこのオプションは使用できません。この機能を有効にするには、リファイナリ接続の `intradoc.cfg` ファイル  
(`refinery_install_dir¥connections¥<connection_name>¥intradoc.cfg`) で、変数 `ProcessPowerPointUncLinks=true` を設定する必要があります。通常、UNC パスには Web ブラウザとの関連性はありません。UNC パスは URL ではありません。したがって、UNC パスのリンクを正しく解決するには、Web ブラウザの外部で PDF を開く必要があります。UNC パスのリンクを使用している場合、ブラウザの外部にある PDF ファイルを開くように、クライアント・コンピュータ上の Reader を構成することが必要になる場合があります。

- ❖ PowerPoint 内のハイパーリンクは、PowerPoint プレゼンテーションをスライド形式で変換する場合にのみ処理できます。
- ❖ 技術的には、個別のテキスト行に対するリンクの上にあるオブジェクト（テキスト・ボックスなど）に対してリンクを設定することが可能です。PDF のアSEMBル方法のため、生成される PDF ファイルでは、オブジェクトに対するリンクのみがアクティブになります。論理的には、PDF 内の特定のスポットには1つのアクションのみが割り当てられるため、上位のアクションが実行されます。

## MICROSOFT VISIO ファイルから PDF への変換

---

Windows で PDF Converter を実行し、Microsoft Visio を使用して Visio ファイルを PDF に変換する場合は、次のことを考慮してください。

- ❖ ドキュメントの印刷範囲の外側にある Visio ファイルの情報は、PDF に変換されません。
- ❖ 部門関係フローチャート・テンプレートを使用して作成した Visio ファイルを Visio で開こうとすると、ポップアップ・ダイアログが表示される場合があります。このため、リファイナリ・コンピュータでこのダイアログを手動でクリアしないと、リファイナリ・プロセスがタイムアウトします。これを防ぐには、部門関係フローチャート・テンプレートを使用してファイルを作成しないようにします。Outside In を使用すると、部門関係フローチャート・テンプレートに基づく Visio ファイルを変換できます。ただし、Visio のハイパーリンクは Outside In では変換されないことに注意してください。
- ❖ パスワードで保護されたファイルは、処理の前にパスワードを入力しておかないとタイムアウトします。
- ❖ Visio 2003 では、「ツール」→「オプション」→「全般」タブのオンライン・カテゴリで「Microsoft Office Online のコンテンツとリンクを表示する」の選択を解除し、「ツール」→「オプション」→「全般」タブのカスタマ・フィードバック・カテゴリでカスタマ・エクスペリエンス向上プログラムへの参加を中止します。そのようにしないと、これらのファイルがタイムアウトする可能性があります。
- ❖ Visio のハイパーリンクを PDF に変換するオプションの詳細は、「[Visio Options](#)」ページを参照してください。
- ❖ Visio ファイルの次の種類のハイパーリンクを、PDF に変換できます。
  - 絶対 URL リンク（例：<http://www.company.com>）。ページ上のターゲットを指定するリンクを使用することもできます（例：<http://idvm001/ibr/portal.htm#target>）。Visio では、他の Office アプリケーションで強制されるハイパーリンク・ルールの一部が強制されません。したがって、Visio ドキュメントの作成者は、リンクの一部として [http://](#) 接頭辞を使用する必要があります。接頭辞がない場合、リンクは相対 URL リンクとして変換

されます。これにより、意図したリンクが PDF に生成されない可能性があります。作成者がこの接頭辞を適用しないと、変換エンジンには、絶対リンクを相対リンクおよび mailto リンクと区別する方法がありません。

- 相対 URL リンク (例: ../../../../portal.htm)。このリンクは、サーバー名またはプロトコルの接頭辞を含みません。Reader は、単純に、現在表示されているファイルを基準として、リンクで参照されているファイルを開こうとします。Visio では、相対 URL リンクのサポートが限られています。これは、Visio 自体が他の Office アプリケーションと同様にハイパーリンクを格納しないためです。Visio は正しいアドレスを変換エンジンに返すことができませんが、これは変換エンジンの不具合ではありません。たとえば、../../../../portal.htm という相対ハイパーリンクは正しく変換されます。しかし、mytestPage.asp?param1=123?param2=abc に対する相対リンクは、変換エンジンに正しく返されません。
- mailto リンク (電子メール・アドレスへのリンク。mailto:support@company.com など)。Visio では、他の Office アプリケーションで強制されるハイパーリンク・ルールの一部が強制されません。したがって、Visio ドキュメントの作成者は、リンクの一部として mailto: 接頭辞を使用する必要があります。接頭辞がない場合、リンクは相対 URL リンクとして変換されます。これにより、意図したリンクが PDF に生成されない可能性があります。作成者がこの接頭辞を適用しないと、変換エンジンには、mailto リンクを絶対リンクおよび相対リンクと区別する方法がありません。
- ブックマーク (自動生成、または作成者が生成するブックマークへの内部リンク)。「Visio Options」パネルで「Process internal Visio links」を選択すると、他のシートに対するすべての内部ドキュメント・リンクが生成される PDF に含まれます。



**重要:** Visio 2003 で内部ハイパーリンクを正しく変換するには、ハイパーリンクを作成するときに、アドレスのフィールドをクリアする必要があります。デフォルトでは、アドレスのフィールドには、リンクが発生するファイルのファイル名が移入されます。これをクリアしないと、リンクは元のファイルへのリンクとして変換され、リンクをクリックした際に、元のファイルをダウンロードするように求めるプロンプトが表示されます。

- UNC パス・リンク (例: \\server1\c\TestDocs\MsOfficeXP\word\target.doc)。現在、「Visio Options」パネルのこのオプションは使用できません。この機能を有効にするには、リファイナリ接続の intradoc.cfg ファイル (refinery\_install\_dir\connections\<connection\_name>\intradoc.cfg) で、変数 ProcessVisioUncLinks=true を設定する必要があります。通常、UNC パスには Web ブラウザとの関連性はありません。UNC パスは URL ではありません。したがって、UNC パスのリンクを正しく解決するには、Web ブラウザの外側で PDF を開く必要があります。UNC パスのリンクを使用している場合、ブラウザの外側にある PDF ファイルを開くように、クライアント・コンピュータ上の Reader を構成することが必要になる場合があります。

- ❖ すべての Microsoft Visio ファイルで、プリンタの用紙サイズおよび向きが、描画するページのサイズおよび向きと一致するように設定する必要があります。そのようにしないと、リンクが正しく変換されません（正しくない位置に配置されます）。たとえば、プリンタの用紙をレター / 横に設定した場合は、描画するページもレター / 横に設定します。
- ❖ 生成される PDF ファイルでは、Visio のハイパーリンクのホットスポットは、対象の形状が正方形ではない場合でも、形状を囲む正方形になります。

## OFFICE ドキュメントでの相対リンクと絶対リンクの使用

---

Word、Excel、PowerPoint および Visio の各ファイルでは、相対と絶対の両方のハイパーリンクを PDF に変換できます。

絶対リンクの例を次に示します。

<http://machine/ucm/groups/public/documents/addacct/000123.pdf>

相対リンクの例を次に示します。

..\¥addacct¥000123.pdf

リンクを作成する場合、絶対リンクと相対リンクには、それぞれ長所と短所があります。絶対リンクは、コピーや貼付けを簡単に行うことができます。一方、相対リンクは、コンテンツ・サーバーを新しいコンピュータに移行した場合、または IP アドレスや DNS 名を変更した場合の問題を防ぐことができます。相対リンクは、常に、チェックインしているドキュメントの Web 表示可能ファイルの場所が基準になります。

Word、Excel、PowerPoint および Visio のドキュメントで相対リンクを使用するには、次の手順を実行します。



**重要:** この手順は、Microsoft Office がインストールされている状態の PDF Converter で、「Convert to PDF using third-party applications」オプションを使用する場合に適用されます。UNIX で PDF Converter を使用する構成、または PDF Converter なしで Inbound Refinery を使用する構成には適用されません。

1. リファイナリにログインします。
2. 「Conversion Settings」 → 「Third-Party Application Settings」を選択します。「Third-Party Application Settings」ページが表示されます。

3. サード・パーティ製アプリケーションの「**Options**」 ボタンをクリックします。対応するオプションのページが表示されます。
4. 相対 URL リンクをサポートするオプションを選択します。
  - 「**Word Options**」 ページ: 「**Support Relative URL Links**」 チェック・ボックス
  - 「**Excel Options**」 ページ: 「**Support Relative URL Links and Reselect Worksheet Cell**」 チェック・ボックス
  - 「**PowerPoint Options**」 ページ: 「**Support Relative URL Links**」 チェック・ボックス
  - 「**Visio Options**」 ページ: 「**Process Visio URL links**」 チェック・ボックス
5. 「**Update**」 をクリックして、変更を保存します。
6. ドキュメントの作成時に、絶対リンクではなく相対リンクを使用します。これらのリンクはチェックインしているドキュメントの Web 表示可能なファイルの場所が基準であることを理解することが重要です。

#### 例 1: 同じドキュメント・タイプおよびセキュリティとの相対リンク

ドキュメント 000123 に対するリンクを作成するものとします。ドキュメントがセキュリティ・グループ public にチェックインされていて、ドキュメント・タイプが adacct である場合、このドキュメントの Web 表示可能な URL は次のようになります。

<http://machine/ucm/groups/public/documents/adacct/000123.pdf>

次に、ドキュメント 000456 を同じセキュリティ・グループとドキュメント・タイプにチェックインすると、その Web 表示可能な URL は次のようになります。

<http://machine/ucm/groups/public/documents/adacct/000456.pdf>

URL パスが 000123 と同じであるため、000456 のドキュメント内の相対 URL リンクは、次のようなもので十分です。

000123.pdf

#### 例 2: 別のドキュメント・タイプへの相対リンク

同じドキュメント名を使用して、ドキュメント 000456 を同じセキュリティ・グループで異なるドキュメント・タイプにチェックインすると、その Web 表示可能な URL は次のようになります。

<http://machine/ucm/groups/public/documents/adcorp/000456.pdf>

つまり、相対 URL リンクでは、1 ディレクトリ上に移動し、次に adacct に移動して、000123.pdf を検索する必要があります。したがって、相対 URL リンクは次のようになります。

..\adacct\000123.pdf

#### 例 3: 別のドキュメント・セキュリティへの相対リンク

ドキュメント 000456 のセキュリティ・グループも変更した場合、Web 表示可能な URL は次のようになります。

<http://machine/ucm/groups/secure/documents/adcorp/000456.pdf>

つまり、相対 URL リンクでは、3 ディレクトリ上に移動し、次に 000123.pdf まで下に戻る必要があります。したがって、相対 URL リンクは次のようになります。

```
..¥..¥..¥public¥adacct¥000123.pdf
```

7. ドキュメントをコンテンツ・サーバーにチェックインします。ドキュメントを PDF に変換すると、リファイナリは、チェックインしている各ドキュメントの Web 表示可能なファイルの場所を基準にしてリンクを作成します。

## MSOFFICECONVERTER.EXE の更新

---

MSOfficeConverter.exe 実行可能ファイルは PDF Converter の要素であり、Microsoft Office ドキュメントから PostScript ファイルへの変換を制御します。このファイルは、<refinery\_install\_dir>¥custom¥PDFConverter¥bin¥win32¥ ディレクトリにあります。MSOfficeConverter.exe ファイルは、Microsoft Office ファイルの変換の問題に対処するために、更新されることがあります。MSOfficeConverter.exe を新しいバージョンに更新するには、次の手順を実行します。

1. インストールされている MSOfficeConverter.exe のバージョンを確認するには、Windows エクスプローラでこのファイルを検索し、右クリックして表示されるポップアップ・メニューから「プロパティ」を選択します。バージョン情報は、バージョンのタブに表示されます。
2. サポートから最新の MSOfficeConverter.exe ファイルを入手します。
3. パッチの zip アーカイブを開き、MSOfficeConverter.exe ファイルを検索します。
4. リファイナリを停止します。
5. リファイナリのコンピュータで、<refinery\_install\_dir>¥custom¥PDFConverter¥bin¥win32¥ ディレクトリに移動し、既存の MSOfficeConverter.exe ファイルを別の名前（たとえば、MSOfficeConverterOLD.exe）に変更して、バックアップ・ファイルを作成します。
6. 新しい MSOfficeConverter.exe ファイルのコピーを、<refinery\_install\_dir>¥custom¥PDFConverter¥bin¥win32¥ ディレクトリに格納します。
7. リファイナリを再起動します。この変更を有効にするために、コンテンツ・サーバーを再起動する必要はありません。



# 7

## PDF CONVERTER の問題の トラブルシューティング

### OVERVIEW

---

この項の内容は、次のとおりです。

- ❖ [PDF 変換の問題のトラブルシューティング・プロセス](#) (7-2 ページ)
- ❖ [一般的な変換の問題](#) (7-3 ページ)
- ❖ [PDF Converter のインストールの問題](#) (7-4 ページ)
- ❖ [PDF Converter の設定と実行の問題](#) (7-6 ページ)
- ❖ [PDF の表示の問題](#) (7-13 ページ)

# PDF 変換の問題のトラブルシューティング・プロセス

---

PDF 変換の問題のほとんどは、次のいずれかのカテゴリに分類されます。

- ❖ ファイルをコンテンツ・サーバーにチェックインしても、PDF が生成されない。
- ❖ PDF は生成されるが、出力に問題がある。

PDF 変換の問題をトラブルシューティングするときは、最初に、問題が特定の 1 つのファイルのみに関係するのか、ある種類のすべてのファイルか、またはすべてのファイルかを明らかにする必要があります。たとえば、Microsoft Excel ドキュメントを PDF に変換するときに問題がある場合は、他の Microsoft Excel ドキュメント、それもできればより小さく複雑でないものをチェックインしてみます。問題が 1 つのファイルのみで発生する場合は、おそらく、ファイルの破損や、ファイルの設定または書式など、そのファイル自体の内部に関係する問題です。

ファイルをコンテンツ・サーバーにチェックインしても PDF が生成されない場合は、次の基本的なトラブルシューティング手順を実行してください。

1. **Inbound Refinery** およびエージェントのログを確認して、変換プロセスで失敗している手順（PostScript への印刷、PostScript から PDF への変換など）を明らかにします。**Inbound Refinery** およびエージェントのログの表示、およびエージェントの詳細ログの有効化の詳細は、『**Inbound Refinery 管理ガイド**』を参照してください。
2. 変換中にファイルがタイムアウトする場合は、まず、より小さく複雑でない、同じ種類の別のファイルをチェックインしてみます。複数のファイルがタイムアウトする場合は、タイムアウトの値を調節し、ファイルを変換用に再送信します。タイムアウト値の構成の詳細は、『**Inbound Refinery 管理ガイド**』を参照してください。
3. ファイルを PostScript に印刷できない場合は、ファイルを PostScript に手動で印刷してみます。PostScript への印刷が失敗する問題の原因は、ほとんどの場合、次のいずれかに関係します。
  - IDC PDF Converter プリンタがインストールされていません。
  - IDC PDF Converter プリンタが正しく指定または設定されていません。

IDC PDF Converter プリンタのインストールと構成の詳細は、4-10 ページの「[IDC PDF Converter プリンタのインストール](#)」を参照してください。

4. ファイルは PostScript に正常に印刷されますが、PDF への変換が失敗する場合は、再び、より小さく複雑でない、同じ種類の別のファイルをチェックインしてみます。問題が 1 つのファイルに固有のものではない場合、または変換失敗の原因になっているファイルに問題が見つからない場合は、通常は、使用している **Distiller** エンジンに関する問題と考えられます。**Distiller** エンジンのインストールと構成の詳細は、4-7 ページの「[Distiller エンジンのインストール](#)」を参照してください。

PDF が生成されても、出力に問題がある場合は（不正なハイパーリンク、フォントやグラフィックの問題など）、一般に次の原因が考えられます。

- ❖ ファイルが Microsoft Office ドキュメントの場合は、最新の Microsoft Office 変換エンジンが使用されていない。詳細は、6-12 ページの「[MSOfficeConverter.exe の更新](#)」を参照してください。
- ❖ ファイルが Microsoft Office ドキュメントの場合は、Microsoft Office 97 が使用されている。詳細は、第 6 章「[Microsoft Office ファイルから PDF への変換](#)」を参照してください。

## 一般的な変換の問題

---

コンテンツ・アイテムは、次のような理由で、誤って変換されたり、またはまったく変換されないことがよくあります。

- ❖ **ドキュメント内の情報が、ドキュメントの印刷範囲外である**：ドキュメントの作成に使用したネイティブ・アプリケーションおよびシステムの設定方法によっては、文書が PostScript ファイルに印刷され、次に PostScript ファイルが PDF に変換される場合があります。したがって、ドキュメントの印刷範囲の外側にあるドキュメントの情報は、生成される PDF に含まれません。
- ❖ **PDF Converter が、変換エンジンに対して適切ではないファイルを変換しようとする**：たとえば、Microsoft Word 以外のアプリケーションで作成されたファイルの拡張子が doc になっていると、ドキュメントは Microsoft Word で開かれますが、これは正しくありません。変換は失敗します。
- ❖ **変換に使用されるサード・パーティ製アプリケーションが、ユーザーの操作が必要なアイテム（起動ダイアログ、ヒント・ウィザードまたは更新通知など）とともに起動する**：このような場合、PDF Converter は正しくファイルの処理と変換ができず、変換がタイムアウトします。サード・パーティ製アプリケーションを変換に使用する前に、このような機能をすべて無効にしてください。
- ❖ **Inbound Refinery の Java 仮想マシン (JVM) がフリーズする**：これは通常、無効なファイル形式を変換しようとして失敗した場合に関係します。通常は、Inbound Refinery を再起動すると問題は解決します。
- ❖ **PDF Converter にファイルを処理する十分な時間がなかった**：この問題は、リポジトリ・マネージャで変換ステータス PassThru をフィルタ処理すると検出できます。また、Inbound Refinery およびエージェントのログ・ファイルからもわかります。この問題が発生しないようにするには、Inbound Refinery 管理インタフェースの「Timeout Settings」ページで、適切な変換ファクタを大きくします。

- ❖ コンテンツ・アイテムは正しく変換されたが、生成された PDF ファイルを Adobe Acrobat または Acrobat Reader で表示できない: 古いバージョンの Acrobat を使用している可能性があります。生成されたすべての PDF ファイルを正しく表示するには、常に最新バージョンの Adobe Acrobat または Adobe Acrobat Reader を使用する必要があります。詳細は、4-20 ページの「クライアント・コンピュータへの PDF リーダー・プラグインのインストール」を参照してください。
- ❖ Microsoft Office ファイルおよびファイル内のハイパーリンクが正しく変換されない: ハイパーリンクが正しくフォーマットされていないか、PDF Converter がハイパーリンクをサポートしていない可能性があります。詳細は、第 6 章「Microsoft Office ファイルから PDF への変換」を参照してください。

## PDF CONVERTER のインストールの問題

---

PDF Converter のインストールの問題に関する症状を次に示します。

- ❖ プリンタ・インストール・エラー: Can't run 16-bit Windows program (7-4 ページ)

### プリンタ・インストール・エラー: Can't run 16-bit Windows program

IDC PDF Converter プリンタのインストール時に、インストーラが失敗します。Can't run 16-bit Windows program というラベルのダイアログ・ボックスに、次のようなエラー・メッセージが表示されます。

Cannot find file C:\DOCUME~1\ADMINI~1\LOCALS~1\Temp\pft9D~tmp\ Setup.exe (or one of its components). Check to ensure the path and filename are correct and that all required libraries are available.



**技術ヒント:** このような症状は、一部のバージョンの SUN JAVA 仮想マシンなど、他の 16 ビット・インストール・プログラムに適用されます。

可能性のある原因	解決策
<p>インストール・プログラムが 16 ビット・プログラムで、8.3 ファイル・システムのサポートが必要です。Inbound Refinery をインストールするときに、8.3 ファイル・システムのサポートを無効にしています。したがって、16 ビット・プログラムでは、空白または特殊文字を含む 8 文字以上のフォルダまたはファイルを検出できません。</p>	<p>Inbound Refinery コンピュータで、8.3 システムのサポートを有効にします。詳細は、<a href="#">8.3 システムのサポートの有効化</a>を参照してください。</p> <p>一般に利用可能な様々な Microsoft 社のリソースでも追加情報を入手できます。8.3 準拠のファイル名とフォルダ名は、Microsoft 社のサポート技術情報の記事 Q100108 の FAT 命名規則に示されています。</p>

### 8.3 システムのサポートの有効化

8.3 システムのサポートを有効にするには、次の手順を実行します。

1. Inbound Refinery コンピュータで、temp および tmp システム環境変数を、8.3 形式の命名規則に準拠する新しく作成したフォルダに変更します（たとえば、C:\Temp）。16 ビット・プログラムのファイルも、8.3 形式の制限に準拠するフォルダから実行する必要があります。これらの制限は、Microsoft 社のサポート技術情報の記事 Q100108 の FAT 命名規則に示されています。
2. Windows の「スタート」メニューで、「ファイル名を指定して実行」を選択します。
3. regedit と入力して「OK」をクリックします。
4. レジストリ・エディタで、HKEY\_LOCAL\_MACHINE\SYSTEM\CurrentControlSet\Control\File System ディレクトリに移動します。
5. NtfsDisable8dot3NameCreation を右クリックして、「変更」を選択します。
6. NtfsDisable8dot3NameCreation の値を 1 から 0 に変更します（ベース 16 進法）。
7. 「OK」をクリックします。
8. Inbound Refinery コンピュータを再起動します。

## PDF CONVERTER の設定と実行の問題

PDF Converter の設定と実行の問題に関する症状を次に示します。

- ❖ PDF Converter がファイルを処理しない (7-6 ページ)
- ❖ IDC PDF プリンタがない (7-7 ページ)
- ❖ エラー : Unable to convert. The printer 'IDC PDF Converter' is not installed (7-7 ページ)
- ❖ エラー : Unable to convert. The printer 'IDC PDF Converter' is not printing to 'c:/temp/idcoutput.ps' (7-8 ページ)
- ❖ 変換がいつもタイムアウトする (7-8 ページ)
- ❖ Microsoft Word のファイルを変換できない (7-9 ページ)
- ❖ Microsoft Excel のファイルを変換できない (7-10 ページ)
- ❖ Microsoft PowerPoint のファイルを変換できない (7-11 ページ)
- ❖ Microsoft Visio のファイルを変換できない (7-12 ページ)
- ❖ FrameMaker のファイルを変換できない (7-12 ページ)
- ❖ WordPerfect のファイルを変換できない (7-13 ページ)

### PDF Converter がファイルを処理しない

PDF Converter はインストールされていますが、ファイルが変換されません。

可能性のある原因	解決策
ファイル形式と変換方法が、コンテンツ・サーバーのファイル・タイプに合わせて設定されていません。	コンテンツ・サーバーの File Formats ウィザードまたは構成マネージャを使用して、PDF 変換用にファイル形式と変換方法を設定します。詳細は、『Inbound Refinery 管理ガイド』を参照してください。

## IDC PDF プリンタがない

IDC PDF プリンタがローカル・プリンタのリストになく、ドキュメントが GENWWW でスタックします。サーバーを再起動しても問題が解決しません。

可能性のある原因	解決策
Print Spooler サービスが稼働していません。	<p>このサービスにより、IDC PDF プリンタを含むすべてのインストール済プリンタが使用できるようになります。Windows のサービス・コンソール（「コントロールパネル」→「管理ツール」→「サービス」でアクセス可能）で、サービスが稼働していて、自動的に開始するように設定されていることを確認します。サービスが稼働していない場合、PDF Converter は IDC PDF プリンタを検索して使用することができず、ドキュメントは GENWWW でスタックします。Printer Spooler サービスのスタートアップの種類が自動に設定されていると、このサービスはコンピュータを起動するたびに開始します。</p> <p>Print Spooler サービスを開始した後、リポジトリ・マネージャを使用して、GENWWW でスタックしているドキュメントを再送信できます。他に変換の問題がなければ、システムは正常にドキュメントを PDF に変換できるようになります。</p>

## エラー : Unable to convert. The printer 'IDC PDF Converter' is not installed

PDF Converter でファイルが PDF に変換されず、Inbound Refinery のログに次のエラー・メッセージが記録されます。

Unable to convert. The printer 'IDC PDF Converter' is not installed.

可能性のある原因	解決策
IDC PDF Converter プリンタがインストールされていません。	IDC PDF Converter プリンタをインストールします。詳細は、4-10 ページの「 <a href="#">IDC PDF Converter プリンタのインストール</a> 」を参照してください。

## エラー : Unable to convert. The printer 'IDC PDF Converter' is not printing to 'c:/temp/idcoutput.ps'

PDF Converter でファイルが PDF に変換されず、Inbound Refinery のログに次のエラー・メッセージが記録されます。

```
Step MSOfficeToPostscript forced conversion failure passthru by conversion engine with
error: "Unable to convert. The printer 'IDC PDF Converter' is not printing to
'c:/temp/idcoutput.ps'."
```

可能性のある原因	解決策
IDC PDF Converter プリンタが正しいポートに印刷していません。	IDC PDF Converter プリンタが正しいポートに印刷するように設定されていることを確認します。デフォルトのポートは <code>c:\temp\idcoutput.ps</code> です。詳細は、4-10 ページの「 <a href="#">IDC PDF Converter プリンタのインストール</a> 」を参照してください。デフォルトのポートは、 <code>&lt;refinery_install_dir&gt;\bin</code> ディレクトリにある <code>intradoc.cfg</code> ファイルに <code>PrinterPortPath</code> 変数を追加し、ポートのパスを指定することで変更できます。この場合、IDC PDF Converter プリンタを、 <code>intradoc.cfg</code> ファイルで指定されているポートに印刷するよう設定する必要があります。

## 変換がいつもタイムアウトする

PDF Converter の変換がいつもタイムアウトします。

可能性のある原因	解決策
ファイルがパスワードで保護されています。	ファイルがパスワードで保護されていると、変換の際にダイアログ・ウィンドウが表示され、ダイアログを手動でクリアしない場合は、変換がタイムアウトします。ファイルをチェックインする前に、ファイルからパスワードによる保護を削除します。
タイムアウトの設定が十分ではありません。	タイムアウトの設定を調整します。タイムアウト値の構成の詳細は、『 <a href="#">Inbound Refinery 管理ガイド</a> 』を参照してください。



## Microsoft Word のファイルを変換できない

Microsoft Word のファイルの変換が失敗します。

可能性のある原因	解決策
スペルおよび文法の自動チェックにより、変換がタイムアウトしています。	スペルと文法の自動チェックを行う Excel のオプションをオフにします。
Word 97 を使用していて、マクロ・ウイルス保護により変換がタイムアウトしています。	マクロ・ウイルス保護を行う Word のオプションをオフにします。
Word 2000 または 2002 でセキュリティ・レベルを高にしているため、変換がタイムアウトしています。	Word のセキュリティ・レベルを低に設定します。これにより、Word でマクロを含むファイルを開くときに、マクロを有効または無効にする確認が行われなくなります。
Word 2003 を使用していて、カスタマ・エクスペリエンス向上プログラムにより変換がタイムアウトしています。	「ツール」→「オプション」→「全般」タブのオンライン・カテゴリで「Microsoft Office Online のコンテンツとリンクを表示する」をオフにし、「ツール」→「オプション」→「全般」タブのカスタマ・フィードバック・カテゴリでカスタマ・エクスペリエンス向上プログラムへの参加を中止します。



**注意:** Microsoft Word ファイルの変換の詳細は、6-3 ページの「[Microsoft Word ファイルから PDF への変換](#)」を参照してください。

## Microsoft Excel のファイルを変換できない

Microsoft Excel のファイルの変換が失敗します。

可能性のある原因	解決策
自動計算により、変換がタイムアウトしています。	自動的に計算を行う Excel のオプションをオフにします。
スペルおよび文法の自動チェックにより、変換がタイムアウトしています。	スペルと文法の自動チェックを行う Excel のオプションをオフにします。
Excel 97 を使用していて、マクロ・ウイルス保護により変換がタイムアウトしています。	マクロ・ウイルス保護を行う Excel のオプションをオフにします。
Excel 2000 または 2002 でセキュリティ・レベルを高にしているため、変換がタイムアウトしています。	Excel のセキュリティ・レベルを低に設定します。これにより、Excel でマクロを含むファイルを開くときに、マクロを有効または無効にする確認が行われなくなります。
Excel 2003 を使用していて、カスタマ・エクスペリエンス向上プログラムにより変換がタイムアウトしています。	「ツール」→「オプション」→「全般」タブのオンライン・カテゴリで「Microsoft Office Online のコンテンツとリンクを表示する」をオフにし、「ツール」→「オプション」→「全般」タブのカスタマ・フィードバック・カテゴリでカスタマ・エクスペリエンス向上プログラムへの参加を中止します。



**注意:** Microsoft Excel ファイルの変換の詳細は、6-4 ページの「[Microsoft Excel ファイルから PDF への変換](#)」を参照してください。

## Microsoft PowerPoint のファイルを変換できない

Microsoft PowerPoint のファイルの変換が失敗します。

可能性のある原因	解決策
スペルおよび文法の自動チェックにより、変換がタイムアウトしています。	スペルと文法の自動チェックを行う PowerPoint のオプションをオフにします。
PowerPoint 97 を使用していて、マクロ・ウイルス保護により変換がタイムアウトしています。	マクロ・ウイルス保護を行う PowerPoint のオプションをオフにします。
PowerPoint 2000 または 2002 でセキュリティ・レベルを高にしているため、変換がタイムアウトしています。	PowerPoint のセキュリティ・レベルを低に設定します。これにより、PowerPoint でマクロを含むファイルを開くときに、マクロを有効または無効にする確認が行われなくなります。
PowerPoint 2003 を使用していて、カスタマ・エクスペリエンス向上プログラムにより変換がタイムアウトしています。	「ツール」→「オプション」→「全般」タブのオンライン・カテゴリで「Microsoft Office Online のコンテンツとリンクを表示する」をオフにし、「ツール」→「オプション」→「全般」タブのカスタマ・フィードバック・カテゴリでカスタマ・エクスペリエンス向上プログラムへの参加を中止します。



**注意:** Microsoft PowerPoint ファイルの変換の詳細は、6-6 ページの「[Microsoft PowerPoint ファイルから PDF への変換](#)」を参照してください。

## Microsoft Visio のファイルを変換できない

Microsoft Visio のファイルの変換が失敗します。

可能性のある原因	解決策
Visio 2003 を使用していて、カスタマ・エクスペリエンス向上プログラムにより変換がタイムアウトしています。	「ツール」→「オプション」→「全般」タブのオンライン・カテゴリで「Microsoft Office Online のコンテンツとリンクを表示する」をオフにし、「ツール」→「オプション」→「全般」タブのカスタマ・フィードバック・カテゴリでカスタマ・エクスペリエンス向上プログラムへの参加を中止します。



**注意:** Microsoft Visio ファイルの変換の詳細は、6-8 ページの「[Microsoft Visio ファイルから PDF への変換](#)」を参照してください。

## FrameMaker のファイルを変換できない

FrameMaker のファイルの変換が失敗します。

可能性のある原因	解決策
ファイルが、FrameMaker の構造化ファイルです。	通常、FrameMaker の構造化ファイルは変換に失敗します。FrameMaker の構造化ファイルを開くとダイアログ・ボックスが表示され、ダイアログ・ボックスを手動でクリアしない場合は、変換がタイムアウトします。



**注意:** Adobe FrameMaker ファイルの変換の詳細は、4-13 ページの「[Adobe FrameMaker](#)」を参照してください。

## WordPerfect のファイルを変換できない

WordPerfect のファイルの変換が失敗します。

可能性のある原因	解決策
ファイルが、古い WordPerfect ファイルです。	バージョン 6 より前のバージョンで作成された WordPerfect ファイルは、効率よく処理されない場合があります。ファイルをチェックインする前に、より新しいバージョンの WordPerfect にファイルを変換してください。



**注意:** Corel WordPerfect ファイルの変換の詳細は、4-14 ページの「[Corel WordPerfect](#)」を参照してください。

## PDF の表示の問題

PDF Converter によって生成された PDF ファイルの表示に関する問題の症状を次に示します。

- ❖ [Internet Explorer](#) での空の PDF ファイル (7-14 ページ)
- ❖ [Netscape Navigator 4.x](#) での空の PDF ファイル (7-15 ページ)
- ❖ エラー : File does not begin with '%PDF-' (7-15 ページ)
- ❖ ブラウザ・ウィンドウ内で PDF ファイルが開かない (7-16 ページ)
- ❖ [Adobe Acrobat Reader](#) を使用して PDF ファイルを表示すると内部サムネイルが正しく表示されない (7-17 ページ)

## Internet Explorer での空の PDF ファイル

Microsoft Internet Explorer で PDF ファイルを開こうとすると、空の PDF ファイルが表示されます。

可能性のある原因	解決策
インプレース・アクティベーションをサポートしていない古いバージョンの Adobe Acrobat Reader を使用しています。	<a href="http://support.microsoft.com/default.aspx?scid=http://support.microsoft.com:80/support/kb/articles/q177/3/21.asp&amp;NoWebContent=1">http://support.microsoft.com/default.aspx?scid=http://support.microsoft.com:80/support/kb/articles/q177/3/21.asp&amp;NoWebContent=1</a> を参照してください。
Internet Explorer 4.0、4.01、または 5 で、このゾーンに対するセキュリティ・レベルが高に設定されています。	
Internet Explorer 3.02 で規制が有効になっています。または、安全性レベルが高に設定されています。	
PDF ファイルが、一部の古いバージョンの Web サーバー (Microsoft Internet Information Server バージョン 2.0 など) から提供されています。	
低速の接続を使用しているか、サーバーが高負荷になっているか、非常に大きい PDF ファイルを表示しようとしています。	
Internet Explorer 5.5 より前のバージョンの Internet Explorer を実行しています。	
ActiveX コントロールが壊れています。Adobe Acrobat Reader 4 が Internet Explorer でインプレース・アクティベーションを使用する場合は、Pdf.ocx ファイルと Pdf.tlb ファイルが、 <acrobat_install_dir>%Program Files%Adobe%Acrobat 4.0%Acrobat%ActiveX%ディレクトリに存在する必要があります。	<a href="http://www.adobe.com/support/">http://www.adobe.com/support/</a> を参照してください。

## Netscape Navigator 4.x での空の PDF ファイル

Netscape Navigator 4.x で PDF ファイルを開こうとすると、空の PDF ファイルが表示されます。

可能性のある原因	解決策
リンクが、URL (例: <a href="http://www.server.com/folder/filename.pdf">http://www.server.com/folder/filename.pdf</a> ) ではなく、ファイル・パス (例: <a href="file:///ServerName/Folder/File.pdf">file:///ServerName/Folder/File.pdf</a> ) を参照しています。	<a href="http://www.adobe.com/support/">http://www.adobe.com/support/</a> を参照してください。
PDF ファイルがネットワーク・サーバー上にあります。	
Navigator が、Acrobat ビューアをプラグインとして使用するよう構成されています。	

## エラー : File does not begin with '%PDF-

Web ブラウザで PDF ファイルを開こうとすると、次のエラー・メッセージが発生します。

```
"...File does not begin with '%PDF-'"
```

可能性のある原因	解決策
PDF ファイルのファイル拡張子が、.pdf ではなく .mme になっています。	<a href="http://www.adobe.com/support/">http://www.adobe.com/support/</a> を参照してください。
	<a href="http://www.planetpdf.com/mainpage.asp?WebPageID=304">http://www.planetpdf.com/mainpage.asp?WebPageID=304</a> を参照してください。

## ブラウザ・ウィンドウ内で PDF ファイルが開かない

PDF Converter で生成された PDF ファイルを Web ブラウザで表示すると、PDF ファイルがブラウザ・ウィンドウで開きません。

可能性のある原因	解決策
Adobe Acrobat Reader または Acrobat での設定。	Acrobat Reader または Acrobat で、「Preferences」が「Web Browser Integration」または「Display PDF in Browser」に設定されていることを確認します。正確な設定方法は、使用している Acrobat Reader または Acrobat のバージョンによって異なります。

## Adobe Acrobat Reader 6.0 を使用して PDF を印刷するときの問題

PDF を印刷しようとする、ドキュメントが印刷されず、「Could not start print job」というメッセージが表示されます。

可能性のある原因	解決策
Adobe Acrobat Reader 6.0 がインストールされています。Adobe Acrobat Reader 6.0 では、ファイル名と URL が 256 文字を超えると、PDF を印刷できません。ワークフローおよびサブスクリプション電子メール通知の URL は、簡単に 256 文字を超える場合があります。	Adobe Acrobat Reader 6.0.1 ではこの問題が解決されています。この問題を解決するには、Adobe Acrobat Reader 6.0.1 以上をダウンロードしてインストールしてください。



## Adobe Acrobat Reader を使用して PDF ファイルを表示すると内部サムネイルが正しく表示されない

PDF ファイルを表示すると、内部サムネイル（PDF ファイル内のページのサムネイル）が正しく表示されません。表示品質が低下したり、グレーの長方形として表示されたり、まったく表示されない場合があります。

可能性のある原因	解決策
<p>Adobe Acrobat Reader 5 または 6 を使用して、PDF ファイルが Web サーバーからバイトサービングされています。</p>	<p>Acrobat Reader 7 以上を使用します。この問題は、Acrobat Reader 7 で解決されているようです。</p>
<p>Acrobat 5 以降では、作成アプリケーションで内部サムネイルを PDF に埋め込むことができます。また、表示アプリケーションで、表示されるページから動的にサムネイルの作成を試行できます。</p>	<p>PDF を作成するアプリケーション (PostScript を PDF に変換する Distiller エンジンまたはその他のサード・パーティ製アプリケーション) を、内部サムネイルを埋め込むように構成します。</p>
<p>サムネイルが Acrobat Reader で動的に生成され、PDF が Web サーバーからバイトサービングされ、内部サムネイルが PDF に埋め込まれていない場合、特定のバージョンの Reader では、内部サムネイルを正しく表示できない場合があります。これは、特定のページの完全なイメージ・データが Web サーバーに存在し、クライアントでサムネイル・イメージを表示するために使用できないためです。</p> <p>また、特定のバージョンの Acrobat Reader は、Web サーバーからバイトサービングされる PDF の内部サムネイルを表示できない場合があります。</p>	<p>Web サーバーで PDF ファイルのバイトサービングを無効にします。</p>





# サード・パーティ製 アプリケーションを使用して PDF に変換されるファイル形式

Windows で実行する PDF Converter は、複数のサード・パーティ製アプリケーションを使用して、コンテンツ・アイテムの PDF ファイルを作成できます。ほとんどの場合、ファイルを開いて印刷できるサード・パーティ製アプリケーションを使用してファイルを PostScript に印刷した後、構成済の PostScript Distiller エンジンを使用して PostScript ファイルを PDF に変換します。場合によっては、PDF Converter はサード・パーティ製アプリケーションを使用してファイルを PDF に直接変換できます。

「Primary Web-Viewable Rendition」ページで、「Convert to PDF using third-party applications」オプションを選択します。詳細は、5-3 ページの「[Web 表示可能なプライマリ・レンディションとしての PDF ファイルの設定](#)」を参照してください。このオプションを使用する場合は、次のものがが必要です。

- ❖ PostScript Distiller エンジン。詳細は、4-7 ページの「[Distiller エンジンのインストール](#)」を参照してください。
- ❖ PostScript プリンタ。詳細は、4-10 ページの「[IDC PDF Converter プリンタのインストール](#)」を参照してください。
- ❖ 変換時に使用されるサード・パーティのアプリケーション。詳細は、4-12 ページの「[PDF 変換用のサード・パーティ製アプリケーションのインストール](#)」を参照してください。

次の表では、Windows でサード・パーティのアプリケーションを使用して PDF に変換できる一般的なファイル形式を示します。次に示す重要な考慮事項に注意してください。

- ❖ PDF Converter には、変換に使用するサード・パーティ製アプリケーション、PostScript Distiller エンジンおよび PostScript プリンタは付属していません。実行する変換に必要なすべてのサード・パーティ製アプリケーション、適切な PostScript Distiller エンジンおよび PostScript プリンタは、ユーザーが入手する必要があります。
- ❖ ファイルの変換に必要なすべてのサード・パーティ製アプリケーションは、PDF Converter のコンピュータにインストールする必要があります。
- ❖ 変換では、一覧で示されている一般的なファイル形式のみがサポートされます。これら以外のファイル形式も変換できる可能性がありますが、結果は保証できません。
- ❖ 一覧で示されているバージョンのサード・パーティ製アプリケーションのみが、PDF Converter での使用をサポートされています。これら以外のバージョンのサード・パーティ製アプリケーションを使用しても変換できる可能性がありますが、結果は保証できません。
- ❖ 示されているサード・パーティ製アプリケーションを使用した、示されているファイル形式の変換のみがサポートされます。一部のファイル形式を別のサード・パーティ製アプリケーションで変換できる場合があります（たとえば、Microsoft Word を使用した Corel WordPerfect ファイルの変換）、結果は保証できません。
- ❖ Inbound Refinery 10g リリース 3 は、英語版オペレーティング・システムにおいてのみサポートされ、英語の管理インタフェースのみが提供されます。PDF Converter による英語以外のファイルの変換は、サード・パーティのアプリケーションがその言語をサポートし、英語版オペレーティング・システムにサード・パーティのアプリケーションがインストールされ、英語以外のファイルを正しく開いて表示するように構成されている場合のみ可能です。たとえば、Microsoft Word がサポートされている英語版の Windows オペレーティング・システムにインストールされ、必要なファイルでドイツ語の Word ファイルを正しく開いて表示するように構成されている場合には、PDF Converter でドイツ語の Microsoft Word ファイルを変換できます。他のサード・パーティ製アプリケーションやオペレーティング・システムの言語の組合せも可能ですが、その場合の変換の結果は保証できません。
- ❖ 一覧で示されているすべてのファイル形式の PDF への変換がサポートされていますが、Outside In Image Export は、これらのどのネイティブ・ファイル形式からもサムネイルを作成できません。すべてのファイル形式についてサムネイルが作成されるようにするには、Inbound Refinery の「Thumbnail Options」画面で、「Create Thumbnail Image from the Native Vault File」チェック・ボックスの選択を解除します。PDF Converter でファイルを変換する際にこのチェック・ボックスの選択が解除されていると、Outside In Image Export は（ネイティブ・ファイルではなく）生成された Web 表示可能な PDF ファイルからサムネイルを作成するため、すべてのファイルについてサムネイルが生成されます。

PDF に変換できる 一般的なファイル形式	変換用にサポートされる サード・パーティ製 アプリケーション	サービスによって 起動される Windows の バージョン
Adobe FrameMaker <sup>*1</sup> .fm .mif .book	Adobe FrameMaker 7.0	2003
Adobe InDesign .indd .indt	Adobe InDesign CS2	なし
Adobe PageMaker .pm# .pt# .p65	Adobe InDesign CS2	なし
Adobe Photoshop .psd .eps	Adobe Photoshop CS2 <sup>*2</sup>	XP、2000 (SP 4)
Corel WordPerfect .wp .wp# .wpd	Corel WordPerfect 11	XP、2000、2003
Hangul .hwp	Hangul 2002	XP、2000、2003
一太郎 .jaw .jtd	一太郎 2002	XP、2000、2003
Lotus 1-2-3 .wk#	Lotus 1-2-3 (SmartSuite) 9.x	XP、2000、2003
Lotus Freelance Graphics .pre .prz	Lotus Freelance Graphics (SmartSuite) 9.x	XP、2000、2003

サード・パーティ製 アプリケーションを使用して PDF に変換されるファイル形式

PDF に変換できる 一般的なファイル形式	変換用にサポートされる サード・パーティ製 アプリケーション	サービスによって 起動される Windows の バージョン
Lotus Word Pro .lwp	Lotus Word Pro (SmartSuite) 9.x	XP、2000、2003
Microsoft Excel .xls .xlt .xlw .xlsx	Microsoft Excel (Office) 2000、 2002、2003、2007	XP、2000、2003、 2007
Microsoft Powerpoint .ppt .pot .pps .ppa .pptx	Microsoft Powerpoint (Office) 2000、2002、2003、2007	XP、2000、2003、 2007
Microsoft Project .mpp	Microsoft Project (Office) 2000、 2002、2003	2003
Microsoft Publisher .pub	Microsoft Publisher (Office) 2000、2002、2003、2007	2003、2007
Microsoft Snapshot .snp	Microsoft Snapshot (Office) 2000、2002、2003、2007	なし
Microsoft Visio .vsd .vst .vdx .vtx	Microsoft Visio (Office) 2000、 2002、2003、2007	XP、2000、2003、 2007
Microsoft Word .doc .dot .docx .dotx	Microsoft Word (Office) 2000、 2002、2003、2007	XP、2000、2003、 2007

PDF に変換できる 一般的なファイル形式	変換用にサポートされる サード・パーティ製 アプリケーション	サービスによって 起動される Windows の バージョン
Microsoft Write .wri	Microsoft Word (Office) 2000、 2002、2003、2007	XP、2000、2003、 2007
OpenOffice Calc .sxc .stc	OpenOffice 2.1 *3	XP、2000、2003
OpenOffice Draw .sxd .std		
OpenOffice Impress .sxi .sti		
OpenOffice Math .sxm		
OpenOffice Writer/ Writer Global .sxw .stx		
QuarkXPress .qxd .qxt	Adobe InDesign CS2	なし
リッチ・テキスト・フォー マット .rtf	Microsoft Word (Office) 2000、 2002、2003、2007	XP、2000、2003、 2007

サード・パーティ製アプリケーションを使用して PDF に変換されるファイル形式

PDF に変換できる一般的なファイル形式	変換用にサポートされるサード・パーティ製アプリケーション	サービスによって起動される Windows のバージョン
StarOffice Calc .sxc .stc .sdc	OpenOffice 2.1 <sup>*3</sup>	XP、2000、2003
StarOffice Draw .sxd .std .sda .sdd		
StarOffice Impress .sxi .sti .sdd		
StarOffice Math .sxm .smf		
StarOffice Writer / Writer Global .sxw .stx .sdw .vor		
テキスト .txt	Microsoft Word (Office) 2000、 2002、2003、2007	XP、2000、2003、 2007
Wordian .hwp	Hangul 2002	XP、2000、2003

\*1 Adobe FrameMaker+SGML はサポートされていません。

\*2 Adobe Photoshop CS2 では、手動での構成が必要です。詳細は、4-13 ページの「[Adobe Photoshop CS2 \(9.0\)](#)」を参照してください。



\*3 OpenOffice は、Windows XP、2000、2003 でサービスとして実行している Inbound Refinery によって起動できます。ただし、OpenOffice Listener を実行するには Windows にログインする必要があるため、PDF 変換に OpenOffice を使用するときは常に (Inbound Refinery をサービスとして実行している場合でも)、Windows にログインする必要があります。



**重要:** これらのサード・パーティ製アプリケーションに関連する重要なインストールに関するヒントと推奨設定は、4-12 ページの「[PDF 変換用のサード・パーティ製アプリケーションのインストール](#)」を参照してください。

サード・パーティ製 アプリケーションを使用して PDF に変換されるファイル形式

# B

## OPENOFFICE を使用して PDF に 変換されるファイル形式

Windows または UNIX で実行する場合、PDF Converter は OpenOffice を使用して一部のファイル・タイプを PDF に直接変換できます。「Primary Web-Viewable Rendition」ページで、「Convert to PDF using OpenOffice」オプションを選択します。詳細は、5-3 ページの「[Web 表示可能なプライマリ・レンディションとしての PDF ファイルの設定](#)」を参照してください。

このオプションを使用する場合は、OpenOffice のみが必要です。詳細は、4-17 ページの「[OpenOffice](#)」を参照してください。

次の表では、Windows または UNIX で OpenOffice を使用して PDF に変換できる一般的なファイル形式を示します。次に示す重要な考慮事項に注意してください。

- ❖ OpenOffice は、PDF Converter には付属していません。ユーザーが入手する必要があります。
- ❖ OpenOffice は、PDF Converter のコンピュータにインストールする必要があります。
- ❖ 変換では、一覧で示されている一般的なファイル形式のみがサポートされます。これら以外のファイル形式も変換できる可能性がありますが、結果は保証できません。
- ❖ 一覧で示されているバージョンの OpenOffice のみが、PDF Converter での使用をサポートされています。これら以外のバージョンの OpenOffice を使用しても変換できる可能性がありますが、結果は保証できません。
- ❖ 示されているファイル形式の、OpenOffice を使用しての変換のみがサポートされます。これら以外の変換も可能な場合がありますが、結果は保証できません。

- ❖ Inbound Refinery 10g リリース 3 は、英語版オペレーティング・システムにおいてのみサポートされ、英語の管理インタフェースのみが提供されます。PDF Converter による英語以外のファイルの変換は、OpenOffice がその言語をサポートし、英語版オペレーティング・システムに OpenOffice がインストールされ、英語以外のファイルを正しく開いて表示するように構成されている場合にのみ可能です。他のオペレーティング・システムの言語の組合せも可能ですが、その場合の変換の結果は保証できません。
- ❖ 一覧で示されているすべてのファイル形式の PDF への変換がサポートされていますが、Outside In Image Export は、これらのどのネイティブ・ファイル形式からもサムネイルを作成できません。すべてのファイル形式についてサムネイルが作成されるようにするには、Inbound Refinery の「Thumbnail Options」画面で、「Create Thumbnail Image from the Native Vault File」チェック・ボックスの選択を解除します。PDF Converter でファイルを変換する際にこのチェック・ボックスの選択が解除されていると、Outside In Image Export は（ネイティブ・ファイルではなく）生成された Web 表示可能な PDF ファイルからサムネイルを作成するため、すべてのファイルについてサムネイルが生成されます。

PDF に変換できる一般的な ファイル形式	変換用にサポートされるサード・パーティ製 アプリケーション
Adobe Photoshop .psd .eps	OpenOffice 2.1 <sup>*1</sup>
Microsoft Excel .xls .xlt .xlw	OpenOffice 2.1 <sup>*1</sup>
Microsoft Powerpoint .ppt .pot .pps .ppa	OpenOffice 2.1 <sup>*1</sup>
Microsoft Word .doc .dot	OpenOffice 2.1 <sup>*1</sup>

PDF に変換できる一般的な ファイル形式	変換用にサポートされるサード・パーティ製 アプリケーション
OpenOffice Calc .sxc .stc	OpenOffice 2.1 <sup>*1</sup>
OpenOffice Draw .sxd .std	
OpenOffice Impress .sxi .sti	
OpenOffice Math .sxm	
OpenOffice Writer/Writer Global .sxw .stx	
リッチ・テキスト・フォーマット .rtf	OpenOffice 2.1 <sup>*1</sup>

PDF に変換できる一般的な ファイル形式	変換用にサポートされるサード・パーティ製 アプリケーション
StarOffice Calc .sxc .stc .sdc	OpenOffice 2.1 <sup>*1</sup>
StarOffice Draw .sxd .std .sda .sdd	
StarOffice Impress .sxi .sti .sdd	
StarOffice Math .sxm .smf	
StarOffice Writer/Writer Global .sxw .stx .sdw .vor	
テキスト .txt	OpenOffice 2.1 <sup>*1</sup>

<sup>\*1</sup>OpenOffice は、Windows XP、2000、2003 でサービスとして実行している Inbound Refinery によって起動できます。ただし、OpenOffice Listener を実行するには Windows にログインする必要があるため、PDF 変換に OpenOffice を使用するときは常に (Inbound Refinery をサービスとして実行している場合でも)、Windows にログインする必要があります。



**重要** : OpenOffice に関連する重要なインストールに関するヒントと推奨設定は、4-12 ページの「PDF 変換用のサード・パーティ製アプリケーションのインストール」を参照してください。



# OUTSIDE IN X を使用して PDF に 変換されるファイル形式

## OVERVIEW

---

Windows では、PDF Converter に付属する Outside In X を使用して、一部のコンテンツ・アイテムの PDF ファイルを作成できます。Outside In X を使用してファイルを PostScript に印刷した後、構成済の PostScript Distiller エンジンを使用して PostScript ファイルを PDF に変換します。

「Primary Web-Viewable Rendition」ページで、「Convert to PDF using Outside In」オプションを選択します。詳細は、5-3 ページの「[Web 表示可能なプライマリ・レンディションとしての PDF ファイルの設定](#)」を参照してください。このオプションを使用する場合は、PostScript Distiller エンジンのみが必要です。詳細は、4-7 ページの「[Distiller エンジンのインストール](#)」を参照してください。

この項では、Windows で Outside In X を使用して PDF に変換できるファイル形式の一覧を示します。ファイル形式は、次のカテゴリにまとめられています。

- ❖ [ワード・プロセッサ形式](#) (C-2 ページ)
- ❖ [デスクトップ・パブリッシングの形式](#) (C-4 ページ)
- ❖ [データベース形式](#) (C-5 ページ)
- ❖ [スプレッドシート形式](#) (C-6 ページ)
- ❖ [プレゼンテーション形式](#) (C-7 ページ)
- ❖ [グラフィック形式](#) (C-8 ページ)
- ❖ [圧縮形式](#) (C-11 ページ)
- ❖ [電子メール形式](#) (C-11 ページ)
- ❖ [その他の形式](#) (C-13 ページ)

## ワード・プロセッサ形式

次のワード・プロセッサ・ファイル形式を変換できます。

ファイル形式	バージョン
ANSI テキスト	7 および 8 ビット
ASCII テキスト	7 および 8 ビット
DEC WPS Plus (DX)	3.1 までのバージョン
DEC WPS Plus (WPL)	4.1 までのバージョン
DisplayWrite 2 および 3 (TXT)	すべてのバージョン
DisplayWrite 4 および 5	2.0 までのバージョン
EBCDIC	すべてのバージョン
Enable	バージョン 3.0、4.0、4.5
First Choice	3.0 までのバージョン
Framework	バージョン 3.0
Hangul	バージョン 97 および 2002
IBM FFT	すべてのバージョン
IBM Revisable Form Text	すべてのバージョン
IBM Writing Assistant	バージョン 1.01
ジャストシステム一太郎	バージョン 4.x ~ 6.x、8.x ~ 13.x、2004
JustWrite	3.0 までのバージョン
Legacy	1.1 までのバージョン
Lotus AMI/AMI Professional	3.1 までのバージョン
Lotus Manuscript	バージョン 2.0
Lotus Word Pro (Windows 以外)	バージョン SmartSuite 97、Millennium、Millennium 9.6 (テキストのみ)
Lotus Word Pro (Windows)	バージョン SmartSuite 96 および 97、Millennium、Millennium 9.6
MacWrite II	バージョン 1.1
MASS11	8.0 までのバージョン



ファイル形式	バージョン
Microsoft リッチ・テキスト・フォーマット (RTF)	すべてのバージョン
Microsoft Word (DOS)	6.0 までのバージョン
Microsoft Word (Mac)	バージョン 4.0 ~ 2004
Microsoft Word (Windows)	2007 までのバージョン
Microsoft WordPad	すべてのバージョン
Microsoft Works (DOS)	2.0 までのバージョン
Microsoft Works (Mac)	2.0 までのバージョン
Microsoft Works (Windows)	4.0 までのバージョン
Microsoft Windows Write	3.0 までのバージョン
MultiMate	4.0 までのバージョン
Navy DIF	すべてのバージョン
Nota Bene	バージョン 3.0
Novell Perfect Works	バージョン 2.0
Novell/Corel WordPerfect (DOS)	6.1 までのバージョン
Novell/Corel WordPerfect (Mac)	バージョン 1.02 ~ 3.0
Novell/Corel WordPerfect (Windows)	12.0 までのバージョン
Office Writer	バージョン 4.0 ~ 6.0
OpenOffice Writer (Windows および UNIX)	OpenOffice バージョン 1.1 および 2.0
PC-File Letter	5.0 までのバージョン
PC-File+ Letter	3.0 までのバージョン
PFS:Write	バージョン A、B、C
Professional Write (DOS)	2.1 までのバージョン
Professional Write Plus (Windows)	バージョン 1.0
Q&A (DOS)	バージョン 2.0
Q&A Write (Windows)	バージョン 3.0

ファイル形式	バージョン
Samna Word	Samna Word IV+ までのバージョン
Signature	バージョン 1.0
SmartWare II	バージョン 1.02
Sprint	1.0 までのバージョン
StarOffice Writer	バージョン 5.2 (テキストのみ) および 6.x ~ 8.x
Total Word	バージョン 1.2
Unicode テキスト	すべてのバージョン
UTF-8	すべてのバージョン
Volkswriter 3 および 4	1.0 までのバージョン
Wang PC (IWP)	2.6 までのバージョン
WordMARC	Composer Plus までのバージョン
WordStar (DOS)	7.0 までのバージョン
WordStar (Windows)	バージョン 1.0
WordStar 2000 (DOS)	3.0 までのバージョン
XyWrite	III Plus までのバージョン

## デスクトップ・パブリッシングの形式

次のデスクトップ・パブリッシングのファイル形式を変換できます。

ファイル形式	バージョン
Adobe FrameMaker (MIF)	バージョン 3.0、4.0、5.0、5.5、6.0、および日本語版 3.0、4.0、5.0、6.0 (テキストのみ)

## データベース形式

次のデータベース・ファイル形式を変換できます。

ファイル形式	バージョン
Access	2.0 までのバージョン
dBASE	5.0 までのバージョン
DataEase	バージョン 4.x
dBXL	バージョン 1.3
Enable	バージョン 3.0、4.0、4.5
First Choice	3.0 までのバージョン
FoxBase	バージョン 2.1
Framework	バージョン 3.0
Microsoft Works (Windows)	4.0 までのバージョン
Microsoft Works (DOS)	2.0 までのバージョン
Microsoft Works (Mac)	2.0 までのバージョン
Paradox (DOS)	4.0 までのバージョン
Paradox (Windows)	1.0 までのバージョン
Personal R:BASE	バージョン 1.0
R:BASE 5000	3.1 までのバージョン
R:BASE System V	バージョン 1.0
Reflex	バージョン 2.0
Q & A	2.0 までのバージョン
SmartWare II	バージョン 1.02

## スプレッドシート形式

次のスプレッドシート・ファイル形式を変換できます。

ファイル形式	バージョン
Enable	バージョン 3.0、4.0、4.5
First Choice	3.0 までのバージョン
Framework	バージョン 3.0
Lotus 1-2-3 (DOS および Windows)	5.0 までのバージョン
Lotus 1-2-3 (OS/2)	2.0 までのバージョン
Lotus 1-2-3 Charts (DOS および Windows)	5.0 までのバージョン
Lotus 1-2-3 for SmartSuite	バージョン 97 ~ Millennium 9.6
Lotus Symphony	バージョン 1.0、1.1、2.0
Mac Works	バージョン 2.0
Microsoft Excel Charts	バージョン 2.x ~ 7.0
Microsoft Excel (Mac)	バージョン 3.0 ~ 4.0、98、2001、2002、2004、および v.X
Microsoft Excel (Windows)	バージョン 2.2 ~ 2007
Microsoft Multiplan	バージョン 4.0
Microsoft Works (Windows)	4.0 までのバージョン
Microsoft Works (DOS)	2.0 までのバージョン
Microsoft Works (Mac)	2.0 までのバージョン
Mosaic Twin	バージョン 2.5
Novell Perfect Works	バージョン 2.0
PFS:Professional Plan	バージョン 1.0
Quattro Pro (DOS)	5.0 までのバージョン (テキストのみ)
Quattro Pro (Windows)	12.0 までのバージョン (テキストのみ)
SmartWare II	バージョン 1.02

ファイル形式	バージョン
StarOffice/OpenOffice Calc (Windows および UNIX)	StarOffice バージョン 5.2 ~ 8.x および OpenOffice バージョン 1.1、2.0 (テキストのみ)
SuperCalc 5	バージョン 4.0
VP Planner 3D	バージョン 1.0

## プレゼンテーション形式

次のプレゼンテーション・ファイル形式を変換できます。

ファイル形式	バージョン
Corel/Novell Presentations	12.0 までのバージョン
Harvard Graphics (DOS)	バージョン 2.x および 3.x
Harvard Graphics (Windows)	Windows バージョン
Freelance (Windows)	Millennium 9.6 までのバージョン
Freelance (OS/2)	2.0 までのバージョン
Microsoft PowerPoint (Windows)	バージョン 3.0 ~ 2007
Microsoft PowerPoint (Mac)	バージョン 4.0 ~ v.X
StarOffice/OpenOffice Impress (Windows および UNIX)	StarOffice バージョン 5.2 (テキストのみ) および 6.x ~ 8.x (フル・サポート) および OpenOffice バージョン 1.1、2.0 (テキストのみ)

## グラフィック形式

次のグラフィック・ファイル形式を変換できます。

ファイル形式	バージョン
Adobe Photoshop (PSD)	すべてのバージョン
Adobe Illustrator	バージョン 7.0 および 9.0
Adobe FrameMaker graphics (FMV)	Vector/raster から 5.0 まで
Adobe Acrobat (PDF)	バージョン 1.0、2.1、3.0、4.0、5.0、6.0、7.0 (日本語 PDF を含む)
Ami Draw (SDW)	Ami Draw
AutoCAD Interchange および Native Drawing 形式 (DXF および DWG)	AutoCAD Drawing バージョン 2.5 ~ 2.6、 9.0 ~ 14.0、2000i、2002
AutoCAD Drawing	バージョン 2.5 ~ 2.6、9.0 ~ 14.0、2000i、 2002
AutoShade Rendering (RND)	バージョン 2.0
Binary Group 3 Fax	すべてのバージョン
ビットマップ (BMP、RLE、ICO、 CUR、OS/2 DIB、WARP)	すべてのバージョン
CALS Raster (GP4)	Type I および Type II
Corel Clipart Format (CMX)	バージョン 5 ~ 6
Corel Draw (CDR)	バージョン 3.x ~ 8.x
Corel Draw (CDR と TIFF ヘッダー)	バージョン 2.x ~ 9.x
Computer Graphics Metafile (CGM)	ANSI、CALS NIST バージョン 3.0
Encapsulated PostScript (EPS)	TIFF ヘッダーのみ
GEM Paint (IMG)	すべてのバージョン
Graphics Environment Mgr (GEM)	ビットマップおよびベクトル
Graphics Interchange Format (GIF)	すべてのバージョン
Hewlett Packard Graphics Language (HPGL)	バージョン 2

ファイル形式	バージョン
IBM Graphics Data Format (GDF)	バージョン 1.0
IBM Picture Interchange Format (PIF)	バージョン 1.0
Initial Graphics Exchange Spec (IGES)	バージョン 5.1
JBIG2	PDF ファイル中の JBIG2 グラフィックの埋込み
JFIF (TIFF 形式にない JPEG)	すべてのバージョン
JPEG (EXIF を含む)	すべてのバージョン
Kodak Flash Pix (FPX)	すべてのバージョン
Kodak Photo CD (PCD)	バージョン 1.0
Lotus PIC	すべてのバージョン
Lotus Snapshot	すべてのバージョン
Macintosh PICT1 および PICT2	ビットマップのみ
MacPaint (PNTG)	すべてのバージョン
Micrografx Draw (DRW)	4.0 までのバージョン
Micrografx Designer (DRW)	3.1 までのバージョン
Micrografx Designer (DSF)	Windows 95、バージョン 6.0
Novell PerfectWorks (Draw)	バージョン 2.0
OS/2 PM Metafile (MET)	バージョン 3.0
Paint Shop Pro 6 (PSP)	Windows のみ、バージョン 5.0 ~ 6.0
PC Paintbrush (PCX および DCX)	すべてのバージョン
Portable Bitmap (PBM)	すべてのバージョン
Portable Graymap (PGM)	特定のバージョンなし
Portable Network Graphics (PNG)	バージョン 1.0
Portable Pixmap (PPM)	特定のバージョンなし
Postscript (PS)	レベル 1 ~ 2
Progressive JPEG	特定のバージョンなし

ファイル形式	バージョン
Sun Raster (SRS)	特定のバージョンなし
StarOffice/OpenOffice Draw (Windows および UNIX)	StarOffice バージョン 5.2 ~ 8.x および OpenOffice バージョン 1.1、2.0 (テキスト のみ)
TIFF	6 までのバージョン
TIFF CCITT Group 3 および 4	6 までのバージョン
Truevision TGA (TARGA)	バージョン 2
Visio (プレビュー)	バージョン 4
Visio	バージョン 5、2000、2002、2003
WBMP	特定のバージョンなし
Windows Enhanced Metafile (EMF)	特定のバージョンなし
Windows Metafile (WMF)	特定のバージョンなし
WordPerfect Graphics (WPG および WPG2)	2.0 までのバージョン
X-Windows Bitmap (XBM)	x10 互換
X-Windows Dump (XWD)	x10 互換
X-Windows Pixmap (XPM)	x10 互換



## 圧縮形式

次の圧縮ファイル形式を変換できます。

ファイル形式	バージョン
GZIP	
LZA Self Extracting Compress	
LZH Compress	
Microsoft Binder	バージョン 7.0 ～ 97 (Binder ファイルに格納されているファイルの変換は、Windows でのみサポート)
UUEncode	
UNIX Compress	
UNIX TAR	
ZIP	2.04g までの PKWARE バージョン

## 電子メール形式

次の電子メール・ファイル形式を変換できます。

ファイル形式	バージョン
Microsoft Outlook Folder (PST)	Microsoft Outlook Folder および Microsoft Outlook Offline Folder ファイルのバージョン 97、98、2000、2002、2003
Microsoft Outlook Message (MSG)	Microsoft Outlook Message および Microsoft Outlook Form Template のバージョン 97、98、2000、2002、2003
MIME	MIME エンコード・メール・メッセージ。詳細は、C-12 ページの「 <a href="#">MIME のサポートに関する注意</a> 」を参照してください。

## MIME のサポートに関する注意

MIME エンコードのメール・メッセージ形式のサポートに関する詳細情報を次に示します。

- ❖ MIME 形式 (次のものを含む)
  - EML
  - MHT (Web アーカイブ)
  - NWS (ニュースグループのシングル・パートおよびマルチ・パート)
  - Simple Text Mail (RFC 2822 で定義)
- ❖ TNEF 形式
- ❖ MIME エンコード (次のものを含む)
  - base64 (RFC 1521 で定義)
  - binary (RFC 1521 で定義)
  - binhex (RFC 1741 で定義)
  - btoa
  - quoted-printable (RFC 1521 で定義)
  - utf-7 (RFC 2152 で定義)
  - uue
  - xxe
  - yenc

さらに、メッセージの本文は複数の方法でエンコードできます。次のエンコードがサポートされています。

- ❖ Text
- ❖ HTML
- ❖ RTF
- ❖ TNEF
- ❖ Text/enriched (RFC 1523 で定義)
- ❖ Text/richtext (RFC 1341 で定義)
- ❖ 埋込みメール・メッセージ (RFC 822 で定義)。新しいメッセージへのリンクとして扱われます。



**注意:** MIME メッセージの添付ファイルは複数の形式で格納できます。サポートされるすべての添付ファイル・タイプが処理されます。

## その他の形式

次のようなその他のファイル形式を変換できます。

ファイル形式	バージョン
実行可能ファイル (EXE、DLL)	
HTML	3.0 までのバージョン (若干の制限あり)
Macromedia Flash	Macromedia Flash 6.x、Macromedia Flash 7.x、Macromedia Flash Lite (テキストのみ)
Microsoft Project	バージョン 98 ~ 2003 (テキストのみ)
MP3	ID3 情報
vCard、vCalendar	バージョン 2.1
Windows Executable	
WML	バージョン 5.2
XML	テキストのみ
Yahoo! Instant Messenger	バージョン 6.x および 7.x

Outside In X を使用して PDF に変換されるファイル形式

# D

## サード・パーティ・ライセンス

### OVERVIEW

---

この付録には、この製品に付属するすべてのサード・パーティ製品のサード・パーティ・ライセンスの説明が含まれます。

- ❖ [Apache Software License](#) (D-1 ページ)
- ❖ [W3C® Software Notice and License](#) (D-2 ページ)
- ❖ [Zlib License](#) (D-4 ページ)
- ❖ 一般的な [BSD ライセンス](#) (D-5 ページ)
- ❖ 一般的な [MIT ライセンス](#) (D-5 ページ)
- ❖ [Unicode ライセンス](#) (D-6 ページ)
- ❖ [その他の帰属](#) (D-7 ページ)

### APACHE SOFTWARE LICENSE

---

```
* Copyright 1999-2004 The Apache Software Foundation.  
* Licensed under the Apache License, Version 2.0 (the "License");  
* you may not use this file except in compliance with the License.  
* You may obtain a copy of the License at  
*   http://www.apache.org/licenses/LICENSE-2.0  
*
```

- \* Unless required by applicable law or agreed to in writing, software
- \* distributed under the License is distributed on an "AS IS" BASIS,
- \* WITHOUT WARRANTIES OR CONDITIONS OF ANY KIND, either express or implied.
- \* See the License for the specific language governing permissions and
- \* limitations under the License.

## W3C® SOFTWARE NOTICE AND LICENSE

---

- \* Copyright © 1994-2000 World Wide Web Consortium,
- \* (Massachusetts Institute of Technology, Institut National de
- \* Recherche en Informatique et en Automatique, Keio University).
- \* All Rights Reserved. <http://www.w3.org/Consortium/Legal/>
- \*
- \* This W3C work (including software, documents, or other related items) is
- \* being provided by the copyright holders under the following license. By
- \* obtaining, using and/or copying this work, you (the licensee) agree that
- \* you have read, understood, and will comply with the following terms and
- \* conditions:
- \*
- \* Permission to use, copy, modify, and distribute this software and its
- \* documentation, with or without modification, for any purpose and without
- \* fee or royalty is hereby granted, provided that you include the following
- \* on ALL copies of the software and documentation or portions thereof,
- \* including modifications, that you make:
- \*
- \* 1. The full text of this NOTICE in a location viewable to users of the
- \* redistributed or derivative work.
- \*
- \* 2. Any pre-existing intellectual property disclaimers, notices, or terms
- \* and conditions. If none exist, a short notice of the following form
- \* (hypertext is preferred, text is permitted) should be used within the
- \* body of any redistributed or derivative code: "Copyright ©
- \* [date-of-software] World Wide Web Consortium, (Massachusetts

\* Institute of Technology, Institut National de Recherche en  
\* Informatique et en Automatique, Keio University).All Rights  
\* Reserved. <http://www.w3.org/Consortium/Legal/>"  
\*  
\* 3. Notice of any changes or modifications to the W3C files, including the  
\* date changes were made.(We recommend you provide URIs to the location  
\* from which the code is derived.)  
\*  
\* THIS SOFTWARE AND DOCUMENTATION IS PROVIDED "AS IS," AND COPYRIGHT HOLDERS  
\* MAKE NO REPRESENTATIONS OR WARRANTIES, EXPRESS OR IMPLIED, INCLUDING BUT  
\* NOT LIMITED TO, WARRANTIES OF MERCHANTABILITY OR FITNESS FOR ANY PARTICULAR  
\* PURPOSE OR THAT THE USE OF THE SOFTWARE OR DOCUMENTATION WILL NOT INFRINGE  
\* ANY THIRD PARTY PATENTS, COPYRIGHTS, TRADEMARKS OR OTHER RIGHTS.  
\*  
\* COPYRIGHT HOLDERS WILL NOT BE LIABLE FOR ANY DIRECT, INDIRECT, SPECIAL OR  
\* CONSEQUENTIAL DAMAGES ARISING OUT OF ANY USE OF THE SOFTWARE OR  
\* DOCUMENTATION.  
\*  
\* The name and trademarks of copyright holders may NOT be used in advertising  
\* or publicity pertaining to the software without specific, written prior  
\* permission.Title to copyright in this software and any associated  
\* documentation will at all times remain with copyright holders.  
\*

## ZLIB LICENSE

---

\* zlib.h -- interface of the 'zlib' general purpose compression library  
version 1.2.3, July 18th, 2005

Copyright (C) 1995-2005 Jean-loup Gailly and Mark Adler

This software is provided 'as-is', without any express or implied  
warranty. In no event will the authors be held liable for any damages  
arising from the use of this software.

Permission is granted to anyone to use this software for any purpose,  
including commercial applications, and to alter it and redistribute it  
freely, subject to the following restrictions:

1. The origin of this software must not be misrepresented; you must not  
claim that you wrote the original software. If you use this software  
in a product, an acknowledgment in the product documentation would be  
appreciated but is not required.
2. Altered source versions must be plainly marked as such, and must not be  
misrepresented as being the original software.
3. This notice may not be removed or altered from any source distribution.

Jean-loup Gailly jloup@gzip.org

Mark Adler madler@alumni.caltech.edu



## 一般的な BSD ライセンス

---

Copyright (c) 1998, Regents of the University of California

All rights reserved.

Redistribution and use in source and binary forms, with or without modification, are permitted provided that the following conditions are met:

"Redistributions of source code must retain the above copyright notice, this list of conditions and the following disclaimer.

"Redistributions in binary form must reproduce the above copyright notice, this list of conditions and the following disclaimer in the documentation and/or other materials provided with the distribution.

"Neither the name of the <ORGANIZATION> nor the names of its contributors may be used to endorse or promote products derived from this software without specific prior written permission.

THIS SOFTWARE IS PROVIDED BY THE COPYRIGHT HOLDERS AND CONTRIBUTORS "AS IS" AND ANY EXPRESS OR IMPLIED WARRANTIES, INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, THE IMPLIED WARRANTIES OF MERCHANTABILITY AND FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE ARE DISCLAIMED. IN NO EVENT SHALL THE COPYRIGHT OWNER OR CONTRIBUTORS BE LIABLE FOR ANY DIRECT, INDIRECT, INCIDENTAL, SPECIAL, EXEMPLARY, OR CONSEQUENTIAL DAMAGES (INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, PROCUREMENT OF SUBSTITUTE GOODS OR SERVICES; LOSS OF USE, DATA, OR PROFITS; OR BUSINESS INTERRUPTION) HOWEVER CAUSED AND ON ANY THEORY OF LIABILITY, WHETHER IN CONTRACT, STRICT LIABILITY, OR TORT (INCLUDING NEGLIGENCE OR OTHERWISE) ARISING IN ANY WAY OUT OF THE USE OF THIS SOFTWARE, EVEN IF ADVISED OF THE POSSIBILITY OF SUCH DAMAGE.

## 一般的な MIT ライセンス

---

Copyright (c) 1998, Regents of the Massachusetts Institute of Technology

Permission is hereby granted, free of charge, to any person obtaining a copy of this software and associated documentation files (the "Software"), to deal in the Software without restriction, including without limitation the rights to use, copy, modify, merge, publish, distribute, sublicense, and/or sell copies of the Software, and to permit persons to whom the Software is furnished to do so, subject to the following conditions:

The above copyright notice and this permission notice shall be included in all copies or substantial portions of the Software.

THE SOFTWARE IS PROVIDED "AS IS", WITHOUT WARRANTY OF ANY KIND, EXPRESS OR IMPLIED, INCLUDING BUT NOT LIMITED TO THE WARRANTIES OF MERCHANTABILITY, FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE AND NONINFRINGEMENT. IN NO EVENT SHALL THE AUTHORS OR COPYRIGHT HOLDERS BE LIABLE FOR ANY CLAIM, DAMAGES OR OTHER LIABILITY, WHETHER IN AN ACTION OF CONTRACT, TORT OR OTHERWISE, ARISING FROM, OUT OF OR IN CONNECTION WITH THE SOFTWARE OR THE USE OR OTHER DEALINGS IN THE SOFTWARE.

## UNICODE ライセンス

---

UNICODE, INC. LICENSE AGREEMENT - DATA FILES AND SOFTWARE

Unicode Data Files include all data files under the directories <http://www.unicode.org/Public/>, <http://www.unicode.org/reports/>, and <http://www.unicode.org/cldr/data/>. Unicode Software includes any source code published in the Unicode Standard or under the directories <http://www.unicode.org/Public/>, <http://www.unicode.org/reports/>, and <http://www.unicode.org/cldr/data/>.

NOTICE TO USER: Carefully read the following legal agreement. BY DOWNLOADING, INSTALLING, COPYING OR OTHERWISE USING UNICODE INC.'S DATA FILES ("DATA FILES"), AND/OR SOFTWARE ("SOFTWARE"), YOU UNEQUIVOCALLY ACCEPT, AND AGREE TO BE BOUND BY, ALL OF THE TERMS AND CONDITIONS OF THIS AGREEMENT. IF YOU DO NOT AGREE, DO NOT DOWNLOAD, INSTALL, COPY, DISTRIBUTE OR USE THE DATA FILES OR SOFTWARE.

COPYRIGHT AND PERMISSION NOTICE

Copyright © 1991-2006 Unicode, Inc. All rights reserved. Distributed under the Terms of Use in <http://www.unicode.org/copyright.html>.

Permission is hereby granted, free of charge, to any person obtaining a copy of the Unicode data files and any associated documentation (the "Data Files") or Unicode software and any associated documentation (the "Software") to deal in the Data Files or Software without restriction, including without limitation the rights to use, copy, modify, merge, publish, distribute, and/or sell copies of the Data Files or Software, and to permit persons to whom the Data Files or Software are furnished to do so, provided that (a) the above copyright notice(s) and this permission notice appear with all copies of the Data Files or Software, (b) both the above copyright notice(s) and this permission notice appear in associated documentation, and (c) there is clear notice in each modified Data File or in the Software as well as in the documentation associated with the Data File(s) or Software that the data or software has been modified.

THE DATA FILES AND SOFTWARE ARE PROVIDED "AS IS", WITHOUT WARRANTY OF ANY KIND, EXPRESS OR IMPLIED, INCLUDING BUT NOT LIMITED TO THE WARRANTIES OF MERCHANTABILITY, FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE AND NONINFRINGEMENT OF THIRD PARTY RIGHTS. IN NO EVENT SHALL THE COPYRIGHT HOLDER OR HOLDERS INCLUDED IN THIS NOTICE BE LIABLE FOR ANY CLAIM, OR ANY SPECIAL INDIRECT OR CONSEQUENTIAL DAMAGES, OR ANY DAMAGES WHATSOEVER RESULTING FROM LOSS OF USE, DATA OR PROFITS,

WHETHER IN AN ACTION OF CONTRACT, NEGLIGENCE OR OTHER TORTIOUS ACTION, ARISING OUT OF OR IN CONNECTION WITH THE USE OR PERFORMANCE OF THE DATA FILES OR SOFTWARE.

Except as contained in this notice, the name of a copyright holder shall not be used in advertising or otherwise to promote the sale, use or other dealings in these Data Files or Software without prior written authorization of the copyright holder.

Unicode and the Unicode logo are trademarks of Unicode, Inc., and may be registered in some jurisdictions. All other trademarks and registered trademarks mentioned herein are the property of their respective owners

## その他の帰属

---

Adobe, Acrobat, and the Acrobat Logo are registered trademarks of Adobe Systems Incorporated.

FAST Instream is a trademark of Fast Search and Transfer ASA.

HP-UX is a registered trademark of Hewlett-Packard Company.

IBM, Informix, and DB2 are registered trademarks of IBM Corporation.

Jaws PDF Library is a registered trademark of Global Graphics Software Ltd.

Kofax is a registered trademark, and Ascent and Ascent Capture are trademarks of Kofax Image Products.

Linux is a registered trademark of Linus Torvalds.

Mac is a registered trademark, and Safari is a trademark of Apple Computer, Inc.

Microsoft, Windows, and Internet Explorer are registered trademarks of Microsoft Corporation.

MrSID is property of LizardTech, Inc. It is protected by U.S. Patent No. 5,710,835. Foreign Patents Pending.

Oracle is a registered trademark of Oracle Corporation.

Portions Copyright © 1994-1997 LEAD Technologies, Inc. All rights reserved.

Portions Copyright © 1990-1998 Handmade Software, Inc. All rights reserved.

Portions Copyright © 1988, 1997 Aladdin Enterprises. All rights reserved.

Portions Copyright © 1997 Soft Horizons. All rights reserved.

Portions Copyright © 1995-1999 LizardTech, Inc. All rights reserved.

Red Hat is a registered trademark of Red Hat, Inc.

## サード・パーティ・ライセンス

Sun is a registered trademark, and Sun ONE, Solaris, iPlanet and Java are trademarks of Sun Microsystems, Inc.

Sybase is a registered trademark of Sybase, Inc.

UNIX is a registered trademark of The Open Group.

Verity is a registered trademark of Autonomy Corporation plc

# 索引

## A

- Adobe FrameMaker, PDF 変換用のインストールと構成, 4-13
- Adobe InDesign, PDF 変換用のインストールと構成, 4-13
- Adobe Photoshop, PDF 変換用のインストールと構成, 4-13

## C

- Component ウィザードを使用した PDF Converter コンポーネントのインストール, 4-6
- Corel WordPerfect, PDF 変換用のインストールと構成, 4-14

## D

- 「Distiller Engine Options」ページ, 5-18
- Distiller エンジン
  - Windows でのインストール, 4-7

## E

- 「Excel Options」ページ, 5-24

## H

- Hangul, PDF 変換用のインストールと構成, 4-14

## I

- IDC PDF Converter プリンタのインストール, 4-10
- 「InDesign Options」ページ, 5-30

## L

- Lotus 1-2-3, PDF 変換用のインストールと構成, 4-14
- Lotus Freelance, PDF 変換用のインストールと構成, 4-14
- Lotus SmartSuite, PDF 変換用のインストールと構成, 4-14
- Lotus Word Pro, PDF 変換用のインストールと構成, 4-14

## M

- Microsoft Excel
  - PDF へのファイルの変換, 6-4
  - PDF 変換用のインストールと構成, 4-15
- Microsoft Office
  - PDF へのファイルの変換について, 6-2
  - PDF 変換用のインストールと構成, 4-15
  - ドキュメントでの相対リンクと絶対リンクの使用, 6-10
- Microsoft PowerPoint
  - PDF へのファイルの変換, 6-6
  - PDF 変換用のインストールと構成, 4-15
- Microsoft Project, PDF 変換用のインストールと構成, 4-16
- Microsoft Publisher, PDF 変換用のインストールと構成, 4-15
- Microsoft Visio
  - PDF へのファイルの変換, 6-8
  - PDF 変換用のインストールと構成, 4-16
- Microsoft Word
  - PDF へのファイルの変換, 6-3
  - PDF 変換用のインストールと構成, 4-15
- MSOfficeConverter.exe の更新, 6-12

## O

- OpenOffice Calc, PDF 変換用のインストールと構成, 4-17
- OpenOffice Draw, PDF 変換用のインストールと構成, 4-17
- OpenOffice Impress, PDF 変換用のインストールと構成, 4-17
- OpenOffice Math, PDF 変換用のインストールと構成, 4-17
- 「OpenOffice Options」ページ, 5-31
- OpenOffice Writer Global, PDF 変換用のインストールと構成, 4-17
- OpenOffice Writer, PDF 変換用のインストールと構成, 4-17
- OpenOfficeConversion コンポーネント
  - Component ウィザードを使用したインストール, 4-6
  - コンポーネント・マネージャを使用したインストール, 4-4
- OpenOffice アプリケーション, PDF 変換用のインストールと構成, 4-17
- Outside In X, 使用時の余白の設定, 5-7

## P

- PDF Converter
  - 10gR3 製品の機能拡張, 2-1
  - 10gR3 でのドキュメントの拡張, 2-2
  - Component ウィザードを使用したコンポーネントのインストール, 4-6
  - PDF ドキュメント, 1-3
  - PDF の表示の問題, 7-13
  - アンインストール, 4-20
  - インストールとセットアップの概要, 4-3
  - インストールの問題, 7-4
  - オンライン・ヘルプ, 1-3
  - クライアント・コンピュータへの PDF リーダー・プラグインのインストール, 4-20
  - 更新, 4-21
  - コンポーネント・マネージャを使用したコンポーネントのインストール, 4-4
  - サード・パーティのアプリケーションのインストールと構成, 4-12
  - ジョブを送信するためのコンテンツ・サーバーの構成, 5-2
  - 設定と実行の問題, 7-6
  - 説明, 3-1
  - タイムアウト設定の構成, 5-6

- ドキュメント, 1-3
- トラブルシューティング・プロセス, 7-2
- プロセスの概要, 3-2
- 変換プロセス, 3-2
- 「PDF Options」ページ, 5-16
- PDFConverter コンポーネント
  - Component ウィザードを使用したインストール, 4-6
  - コンポーネント・マネージャを使用したインストール, 4-4
- PDF ドキュメント, PDF Converter, 1-3
- PDF リーダー・プラグインのクライアント・コンピュータへのインストール, 4-20
- PostScript プリンタ, Windows へのインストール, 4-10
- 「PowerPoint Options」ページ, 5-26

## V

- 「Visio Options」ページ, 5-28

## W

- Web 表示可能なプライマリ・レンディションとしての PDF ファイルの設定, 5-3
- Web 表示可能なレンディションとしての PDF ファイルの設定, 5-3
- 「Word Options」ページ, 5-21

## あ

- アプリケーション
  - Adobe FrameMaker, 4-13
  - Adobe InDesign, 4-13
  - Adobe Photoshop, 4-13
  - Corel WordPerfect, 4-14
  - Hangul, 4-14
  - Lotus 1-2-3, 4-14
  - Lotus Freelance, 4-14
  - Lotus SmartSuite, 4-14
  - Lotus Word Pro, 4-14
  - Microsoft Excel, 4-15
  - Microsoft Office, 4-15
  - Microsoft PowerPoint, 4-15
  - Microsoft Project, 4-16
  - Microsoft Publisher, 4-15
  - Microsoft Visio, 4-16
  - Microsoft Word, 4-15
  - OpenOffice Writer Global, 4-17

PDF 変換用のインストールと構成, 4-12  
 一太郎, 4-14  
 アンインストール, PDF Converter, 4-20

## い

一太郎, PDF 変換用のインストールと構成, 4-14  
 一般的な変換の問題, 7-3  
 インストール  
   Component ウィザードを使用した PDF Converter  
     コンポーネント, 4-6  
   IDC PDF Converter プリンタ, 4-10  
   PDF Converter の問題, 7-4  
   Windows 上での Distiller エンジン, 4-7  
   クライアント・コンピュータでの PDF リーダー・  
     プラグイン, 4-20  
   コンポーネント・マネージャを使用した PDF  
     Converter コンポーネント, 4-4  
 インストールの問題, PDF Converter, 7-4  
 インストール前の作業と考慮事項, 4-2

## う

受け入れられる変換の設定, 5-2

## お

オンライン・ヘルプ, PDF Converter, 1-3

## か

ガイド  
   このガイドで使用する表記規則, 1-2  
   このガイドについて, 1-1  
 概要, PDF Converter のインストールとセットアップ,  
 4-3  
 拡張  
   PDF Converter 10gR3 のドキュメント, 2-2

## き

機能拡張  
   PDF Converter 10gR3 製品, 2-1  
 基本的な PDF 変換プロセス, 3-2

## こ

更新  
   MSOfficeConverter.exe, 6-12  
   PDF Converter, 4-21  
 構成  
   PDF Converter からコンテンツ・サーバーへジョブ  
     を送信, 5-2  
   PDF 変換のタイムアウト設定, 5-6  
   サード・パーティ製アプリケーションの設定, 5-5  
 考慮事項, インストール前, 4-2  
 コンテンツ・サーバー, PDF Converter に変換ジョブを  
   送信するための構成, 5-2  
 コンポーネント  
   Component ウィザードを使用した PDF Converter  
     コンポーネントのインストール, 4-6  
   コンポーネント・マネージャを使用した PDF  
     Converter コンポーネントのインストール  
     , 4-4  
 コンポーネント・マネージャを使用した PDF Converter  
   コンポーネントのインストール, 4-4

## さ

サード・パーティ製アプリケーション  
   Adobe FrameMaker, 4-13  
   Adobe InDesign, 4-13  
   Adobe Photoshop, 4-13  
   Corel WordPerfect, 4-14  
   Hangul, 4-14  
   Lotus 1-2-3, 4-14  
   Lotus Freelance, 4-14  
   Lotus SmartSuite, 4-14  
   Lotus Word Pro, 4-14  
   Microsoft Excel, 4-15  
   Microsoft Office, 4-15  
   Microsoft PowerPoint, 4-15  
   Microsoft Project, 4-16  
   Microsoft Publisher, 4-15  
   Microsoft Visio, 4-16  
   Microsoft Word, 4-15  
   OpenOffice, 4-17  
   OpenOffice Calc, 4-17  
   OpenOffice Draw, 4-17  
   OpenOffice Math, 4-17  
   OpenOffice Writer, 4-17  
   OpenOffice Writer Global, 4-17  
 PDF 変換用のインストールと構成, 4-12  
 一太郎, 4-14

設定の構成, 5-5  
作業, インストール前, 4-2

## し

実行の問題, PDF Converter, 7-6  
使用, Office ドキュメントでの相対リンクと絶対リンク,  
6-10

## せ

製品の機能拡張, PDF Converter 10gR3, 2-1  
絶対リンク, Office ドキュメントでの使用, 6-10  
設定  
    Outside In X 使用時の余白, 5-7  
    PDF 変換のタイムアウト設定の構成, 5-6  
    Web 表示可能なプライマリ・レンディションとし  
        ての PDF ファイル, 5-3  
    受け入れられる変換, 5-2  
    サード・パーティ製アプリケーションの構成, 5-5  
設定の問題, PDF Converter, 7-6  
説明  
    PDF Converter, 3-1  
    このガイド, 1-1

## そ

相対リンク, Office ドキュメントでの使用, 6-10

## た

タイムアウト設定, PDF 変換の構成, 5-6

## と

ドキュメント  
    PDF Converter, 1-3  
    PDF Converter 10gR3 での拡張, 2-2  
トラブルシューティング・プロセス, 変換の問題, 7-2

## ひ

表記規則, このガイドで使用, 1-2

## へ

### ページ

Distiller Engine Options, 5-18  
Excel Options, 5-24  
InDesign Options, 5-30  
OpenOffice Options, 5-31  
PDF Options, 5-16  
PowerPoint Options, 5-26  
Visio Options, 5-28  
Word Options, 5-21

### 変換

Microsoft Excel ファイルから PDF, 6-4  
Microsoft PowerPoint ファイルから PDF, 6-6  
Microsoft Visio ファイルから PDF, 6-8  
Microsoft Word ファイルから PDF, 6-3  
PDF への変換プロセス, 3-2

変換, リファイナリで受け入れられる変換の設定, 5-2  
変換の問題

    一般的な問題, 7-3  
    トラブルシューティング・プロセス, 7-2

## よ

余白, Outside In X 使用時の設定, 5-7

## り

リファイナリの問題, PDF 変換, 7-2  
リンク, Office ドキュメントでの相対と絶対, 6-10

## れ

レンディション, Web 表示可能なプライマリ・レン  
ディションとしての PDF ファイルの設定,  
5-3